

銀河連邦共和国友好都市
「岩手県大船渡市」への
東日本大震災復興支援活動の記録



平成24年3月

鹿児島県肝付町

発行に寄せて

2011年(平成23年)3月11日14時46分、宮城県の東南東沖130kmの海底を震源として発生した東日本大震災は、日本における観測史上最大の規模、マグニチュード9.0を記録しました。

この地震により、これまで経験したことがないような大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。この大津波の映像はテレビで流れましたので、みなさまも胸を痛められたことと思います。

本町では、旧内之浦町時代に宇宙航空研究開発機構(JAXA)の関連施設がある国内の5市町で1987年に「銀河連邦共和国」を結成しました。合併により肝付町になって、また加盟国も1町増え、6市町で相互の子ども交流や経済交流を続けてまいりました。これらの交流の他に平成7年の阪神淡路大震災を契機に災害支援協定を結んでおりましたので、今回、構成自治体の一つ、岩手県大船渡市が被災したことを受け、少しでも復興のお手伝いができないかと3月14日に第1陣として職員5人、給水車を派遣しました。

4月からは大隅半島4市5町の自治体職員も加わり、職員派遣は8月末でいったん終了しましたが、のべ256人の職員が給水、支援物資管理、廃車管理、義援金申請事務、保健活動に携わりました。町内でも多くの義援金が町民のみなさまから寄せられるとともに、中学生による支援米の田植え・稲刈りや有志による慈善コンサートなどが開催され、たくさんの支援の輪が広がりました。

今回のこの活動の記録は、肝付町及び大隅半島4市5町職員が現地で行った支援活動の様子やその中で感じた率直な気持ちを記録として残し、今後、もし肝付町が大規模災害に被災した場合に何をすべきかの貴重な資料とするべく発行いたしました。

現地、大船渡市の復興はまだまだ始まったばかりで、多くの住民が仮設住宅で不自由な生活を強いられています。今後とも大船渡市に限らず、東日本大震災で被災された方々に一日でも早く笑顔が戻るようにできる限りの支援を続けてまいりたいと思っています。



平成24年3月

肝付町長 永野 和行

目 次

【 第1部 】

○ 大船渡市の被災状況(報道発表から)	5
○ 銀河連邦の概要：銀河連邦を構成する市町の災害時における相互応援に関する協定について	9
○ 支援活動経過報告	11
○ 支援活動の内容	50
○ 災害対応において大船渡市役所各部が担った主な業務	55
○ 大船渡市における震災後の対応状況	58
○ 本町に集まった義援金及びその使途の状況	60
○ 派遣隊員の任務分担例及び移動手段	67
○ 地元から始まった長期支援	68
○ 各種団体から要請され、実施した支援活動体験報告会	69
○ 別紙一覧	
(別紙1) 東日本大震災支援に係る肝付町単独派遣(第1～3次、救援物資班)経費明細(3月分)	70
(別紙1-資料①) 肝付町建設業安全技術防災協力会への支払経費明細	70
(別紙1-資料②) 肝付町単独派遣(第1～3次、救援物資隊)に係る現地費用明細書	71
(別紙1-資料③) 先遣隊及び救援物資出発に要した経費	72
(別紙2) 東日本大震災支援に係る肝付町単独負担分経費明細(4月～8月末)	72
(別紙3) 「鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム」設置要綱	73
(別紙4) 肝付町における大船渡市支援対策チーム組織体制	74
(別紙5) 水産物の放射能分析試験結果	75
(別紙6) 鹿児島県大隅半島4市5町における東日本大震災被災者受入策について	76
(別紙7) 肝付町東日本大震災被災者支援金支給要領	79
(別紙8) 東日本大震災に伴う被災者の肝付町公営住宅等一次入居の取扱について	81
(別紙9) 保健師派遣計画(実績)表	82

(別紙10)	鹿屋農業高校和太鼓部の演奏会をPRするために仮設住宅に配付したチラシ	83
(別紙11)	大船渡市における応急仮設住宅一覧	84
(別紙12)	肝付町・大船渡市青少年交流事業の参加者名簿	85
(別紙13)	テント、ミシンを寄贈した綾里小学校の生徒・先生からいただいた手紙	86
(別紙14)	鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム負担金会計明細	87
(別紙15)	肝付フレンズ支援活動参加者名簿	88
(別紙16)	大船渡市への「復興と絆の桜」植樹に伴う募金のお願い	89
(別紙17)	大船渡市における物資集積場等一覧	90
(別紙18-1)	給水予定表	91
(別紙18-2)	給水状況記録	92
(別紙19)	東日本大震災により被災した自動車の引き渡し及び処理について	93
(別紙20)	災害義援金等資格要件チェックシート	94
(別紙21)	保健活動実施報告書(例)	95
(別紙22)	復興支援現地本部日誌(例)	96
(別紙23)	肝付町職員及び肝付町民への義援金お願い文書	97
○	新聞記事から	98
○	いただいた感謝の手紙	105

【 第2部 】

○ 派遣隊員手記

★肝付町单独

第1次隊 (永野 秀明 榎屋 孝明 前原 俊郎 倉 義経 城戸内 教貴)	109
第2次隊 (別府 昌吾 小西 志典 伊地知 貞行)	115
第3次隊 (渡會 実 神領 幸生 長坪 康之)	119

★大隅半島4市5町復興支援チーム

第1次隊 (湯地 紀宏 河野 次正)	123
第2次隊 (能勢 佳子 宇都 千津美)	125
第3次隊 (吉崎 浩司 甲斐 敬俊)	127
第4次隊 (木佐貫 英哉)	130
第5次隊 (勝野 大輔)	131
第6次隊 (市来 俊作 黒木 正剛)	132
第7次隊 (松元 貴幸)	135
第8次隊 (白坂 友輝)	136
第9次隊 (吉永 真樹)	137
第10次隊 (上園 洋平)	138
第11次隊 (有留 幸弘)	139
第12次隊 (橋口 洋輔)	140
第13次隊 (小野原 聖和 能勢 佳子 前村 裕子)	141
第14次隊 (宮ヶ原 修作)	144
第15次隊 (柳井谷 幸司)	145
第16次隊 (岩下 龍郎 半下石 みゆき)	146
第17次隊 (上馬庭 悟)	148
第18次隊	
第19次隊 (松園 幸人)	149
第20次隊 (中窪 悟)	150
第21次隊 (大田 広幸)	151
第22次隊 (東 純也)	152
第23次隊 (篠原 大樹)	153
第24次隊 (伊倉 公一)	154
第25次隊 (徳重 茂治 安藤 良平)	155
第26次隊	
第27次隊 (堂園 尚作 松井 千穂 米盛 智子)	158

★現地支援本部員

第1次隊（竹之下 克明 渡會 実）	161
第2次隊（樋口 弘志）	164
救援物資運搬・調査（永井 宏）	166
第3次隊（福岡 大祐）	168
第4次隊（飯田 徳弘）	169
第5次隊（田畑 哲也）	170
第6次隊（満永 正幸）	171
第7次隊（竹之下 記與）	172
第8次隊（福元 了）	173
第9次隊（上大園 実）	174
第10次隊（田畑 隆一郎）	175
第11次隊（今井 雄樹）	176
第12次隊（西迫 雄太）	177
第13次隊（迫 良己）	178
第14次隊（前原 俊郎 永野 秀明）	179
○ 派遣隊員寄せ書き	181

○ 大船渡市の被災状況

東日本大震災による被害状況について

平成24年2月22日現在：大船渡市発表

1 地震の状況

- (1)発生時間 平成23年3月11日 14時46分
(2)震源地 三陸沖
(3)震源の深さ 約10km
(4)震源の規模 マグニチュード9.0
(5)当市の震度 震度6弱

2 津波の情報

- (1)津波警報 大津波警報 平成23年3月11日 14時49分
津波警報に切り替え 平成23年3月12日 20時20分
津波注意報に切り替え 平成23年3月13日 7時30分
津波注意報解除 平成23年3月13日 17時58分
(2)津波到達 大船渡市第1波観測 14時54分 0.2m

3 市の対応

(1)本部の設置

区分	設置時間	廃止時間
大船渡市災害対策本部	3月11日 地震発生と同時に	8月31日 17:15
沿岸地区本部(7地区)	3月11日	8月31日 17:15
盛地区本部	4月25日	8月31日 17:15

※越喜来地区本部は大船渡市役所三陸支所浸水のため、三陸保健福祉センターへ移動

- (2)避難の状況 避難指示 発令 平成23年3月11日 14時49分
避難勧告 発令 平成23年3月13日 7時30分
解除 平成23年3月13日 17時58分

4 被害状況

- (1)人的被害及び建物被害
①人的被害 死亡者340人 行方不明者84人
②建物被害 5,387世帯 (全壊2,778、大規模半壊424、半壊709、一部損壊1,476)
(2)物的被害 判明分 約1,077億円

5 取り組み状況

- (1)組織体制
・復興を推進する専任部局として災害復興局を設置し、専任職員7人を配置(3月23日)
・全庁的な復興体制として市長を本部長とする大船渡市災害復興推進本部を設置
(4月11日、総括担当部は災害復興局)
- (2)防災行政無線による住民周知
・地震発生以降は、都度、地震情報等を周知
・慰霊黙祷サイレン吹鳴(1週間後の3月18日、1ヶ月後の4月11日 14:46から1分間)
- (3)避難所運営 8月28日をもって全ての避難所を閉鎖(3月15日現在 60箇所 8,737人)
- (4)被災証明書の交付 3月28日から被災した家屋について開始
2月17日現在 交付件数(累計)9,613件

(5)住宅の確保

- ・大船渡市母子生活支援施設つばき荘、市営住宅への入居者抽選・入居(合計20戸)
- ・雇用促進住宅(大船渡宿舍65戸、赤崎宿舍58戸)入居者抽選・通知
- ・応急仮設住宅 1,801戸 4月6日から6月24日まで入居申込を受付
- ・民間賃貸住宅への入居支援 民間賃貸住宅への入居が決まった方について、2年間の家賃等を
県が負担する契約の受付窓口を市が行うほか、生活用品、家電セットを配備
- ・住宅応急修理 自ら修理する資力がなく、修理することで自宅での生活が可能となる世帯を対象に
1世帯あたり52万円を限度として市が業者に委託

(6)救援物資の確保(大船渡港)

- ・3月19日から海面浮遊物除去作業を開始、補給物資輸送船の航路確保終了
- ・3月23日と24日に救援物資輸送船等が大船渡港へ入港

(7)がれき・障害車両の撤去・移動

- ・4月11日から8地区(盛、大船渡北①、大船渡北②、大船渡南、末崎①、末崎②、赤崎北、赤崎南)で
がれき撤去を開始(綾里・越喜来・吉浜の各地区は着手済み)
- ・がれき等の撤去状況 12月5日現在 撤去完了面積 704.9ha、撤去率 92%
- ・6月22日から太平洋セメント大船渡工場においてがれきの焼却処分を開始
- ・3月20日から障害車両の撤去・移動作業 12月5日現在 4,777台

(8)災害義援金・被災者生活再建支援の給付等

(単位:万円)

被害種別		災害 義援金	被災者生活再建支援				災害弔慰金			
			複数世帯		単身世帯		弔慰金		障害見舞金	
			基礎	加算	基礎	加算	生計維持者	その他	生計維持者	その他
人的 被害	死亡・行方不明	152.0					500	250		
	重度障害								250	125
住宅 (施設) 被害	半壊	92.3 (52.7)								
	大規模 半壊	建設 補修 賃貸 (52.7)	50	200	37.5	150				
				100		75				
				50		37.5				
	全壊	建設 補修 賃貸 (104.4)	100	200	75	150				
				100		75				
50				37.5						

1. 災害義援金欄の()は、被害を受けた社会福祉施設の入所者に対する支給金額
2. 4月27日から市内各地区で申請受付を開始

※市に直接寄せられた義援金の配分

(単位:万円)

区分			支給額
災害 義援金	人的被害	死亡・行方不明	8.0
	住家 (施設)被害	大規模半壊・半壊	4.7 (2.9)
		全壊	8.0 (5.8)
未成年者災害見舞金			50.0
重度障害者等災害見舞金			10.0
事業関係団体災害見舞金			被災会員事業者数、 正組合員数等に基づき算定

1. 災害義援金欄の()は、被害を受けた社会福祉施設の入所者に対する支給金額
2. 事業関係団体災害見舞金の支給対象は、大船渡商工会議所、市内5漁協、市農協

(9) 大船渡市東日本大震災被災者支援事業の実施

市民の生活の安定を図るため、がれき撤去・分別作業で新たに約500人の雇用を創出
(建設業協会大船渡支部の従業員約800人と合わせ、約1,300人)

(10) おおふなとさいが FM(JOYZ2Z-FM)の開局

周波数 78.5MHz

放送時間 月～金曜日 ①午前9時～ ②正午～ ③午後3時～、土曜日 ①午前9時～

6 派遣依頼

(1) 自衛隊派遣

- ① 陸上自衛隊第9特科連隊第2大隊(滝沢村) 121人 (3月19日終了)
- ② 陸上自衛隊第39普通科連隊(青森県弘前市) 508人 (7月20日終了)
- ③ 陸上自衛隊第9施設大隊第2中隊(青森県八戸市) 29人 (6月14日終了)
- ④ 陸上自衛隊第6施設群(岐阜県岐阜市、愛知県豊川市) 65人 (6月3日終了)

(2) 緊急消防援助隊

- ① 指揮支援隊(大阪市消防局) 4人 (3月14日～3月19日)
- ② 山形県隊 587人 (3月12日～3月30日)
- ③ 高知県隊 50人 (3月16日～3月19日)

(3) 県内広域応援 奥州金ヶ崎消防本部

(4) 消防団 住田町消防団

(5) 警察広域緊急援助隊等(3月12日～) 北海道警をはじめ33県警

7 国際援助隊 搜索区域 大船渡町(北側)

- (1) アメリカ(3月14日～3月16日) 2隊148人、救助犬14匹 野営地:住田町世田米小学校
- (2) イギリス(3月14日～3月16日) 62人 野営地:住田町世田米小学校
- (3) 中国(3月13日～3月19日) 15人 野営地:大船渡東高等学校

8 他自治体からの支援

- (1) 岩手県 3月13日～ 累計43人
- (2) 銀河連邦 長野県佐久市 102人 神奈川県相模原市 637人 秋田県能代市 525人
鹿児島県肝付町及び大隅半島チーム 256人 北海道大樹町 8人
- (3) 日本水道協会 中部支部、関西支部、東北支部より職員及び給水車
- (4) 医療・保健・福祉の支援、その他の支援 多数

9 ボランティア、義援金等の状況

- (1) 民間ボランティア組織 オランダ民間ボランティア 4人、オールハンズボランティアズ 1,129人
- (2) 災害ボランティア 受入状況 累計27,078人(2月17日現在)
- (3) 義援金 被災市民に対する生活支援費 累計 2,010件 466,337,768円(2月17日現在)
- (4) 見舞金(寄附金) 市の災害復旧及び復興費 累計 236件 281,565,766円(2月17日現在)

10 学校等の状況

- ・越喜来保育所、越喜来幼稚園は越喜来幼稚園で合同保育、崎浜保育所は休止し、越喜来保育所・幼稚園で保育
- ・赤崎小学校は蛸ノ浦小学校校舎で、赤崎中学校は大船渡中学校校舎で、越喜来小学校・崎浜小学校は甫嶺小学校校舎で再開(赤崎・蛸ノ浦小、越喜来・崎浜・甫嶺小は合同授業)

被災状況写真（大船渡市ホームページから）



盛地区



大船渡地区



末崎地区



赤崎地区



綾里地区



越喜来地区



吉浜地区

○ 銀河連邦の概要:銀河連邦を構成する市町の災害時における相互応援に関する協定について

銀河連邦の概要

1 建国趣旨

宇宙科学の最先端技術を研究する宇宙航空研究開発機構(JAXA)の研究施設が縁で4市2町が交流を図るため、ユーモアとパロディの精神により、連邦国家を組織しました。そして、共和国相互の理解と親善を深めることにより、宇宙平和の一翼を担うとともに、人々の笑顔にあふれたユートピアの創造をめざします。

2 建国日……昭和62年11月8日

3 仕組み

★共和国……4市2町がそれぞれ趣旨に賛同し、建国した独立国家です。

★連邦……6共和国が連帯して組織した連邦国家です。

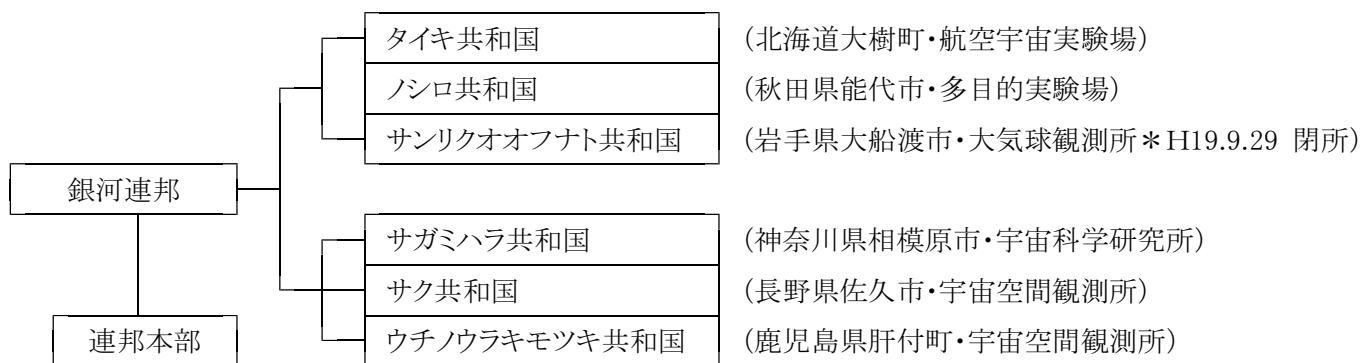
4 事業

★人的交流……首脳サミット、フォーラム、子ども留学交流、職員派遣交流、各国訪問等

★物的交流……各国行事における連邦諸国の物産の展示即売、各国特産品の定期的斡旋等

★宇宙科学知識啓発・学習……宇宙セミナー等

5 組織図(★銀河連邦本部をサガミハラ共和国に置く)



銀河連邦を構成する市町の災害時における相互応援に関する協定

銀河連邦を構成する岩手県大船渡市、秋田県能代市、神奈川県相模原市、長野県佐久市、鹿児島県肝付町及び北海道大樹町(以下「銀河連邦市町」という。)は、相互の行政域において災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第2条第1項に規定する災害が発生した場合において、被災自治体の要請にこたえ、応援対策及び復旧対策が円滑に遂行されるよう、相互の応援体制について次のとおり協定を締結する。

(応援の種類)

第1条 応援の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 食糧、飲料水及び生活必需品並びにその供給に必要な資器材の提供
- (2) 被災者の救出、医療、防疫、施設等の応急復旧等に必要な資器材及び物資の提供
- (3) 救援及び救助活動に必要な車輛等の提供
- (4) 救援、医療、防疫、応援復旧活動に必要な職員の派遣
- (5) ボランティアの斡旋

- (6) 児童生徒の受入
- (7) 被災者に対する住宅の斡旋
- (8) 地元企業・団体等への被災地支援の呼び掛け
- (9) 前各号に掲げるもののほか、特に要請があった事項

(応援の手続き)

第2条 応援を要請する銀河連邦市町は、次の各号に掲げる事項を明らかにし、文書により要請するものとする。

ただし、緊急の場合には、電話又はその他の方法をもって要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。

- (1) 被害の状況
- (2) 前条第1号から第3号までに掲げる応援を要請する場合にあつては、物資等の品名、数量等
- (3) 前条第4号に掲げる応援を要請する場合にあつては、職員の職種及び人員
- (4) 応援場所及び応援場所への経路
- (5) 応援期間
- (6) 前各号に掲げるもののほか、必要な事項

(応援の実施)

第3条 応援を要請された銀河連邦市町は、可能な限りこれに応ずるよう取り組むものとする。

(応援経費の負担)

第4条 応援に要した経費は、原則として応援を要請した銀河連邦市町の負担とする。ただし、銀河連邦市町間の協議によっては、この限りではない。

2 応援を要請した銀河連邦市町が、前項に規定する経費を支出するいとまがなく、かつ、応援を要請した銀河連邦市町から申し出があった場合には、応援を要請された銀河連邦市町は、一時、立替支出するものとする。

(連絡責任者)

第5条 銀河連邦市町は、第2条に掲げる要請に関する事項の連絡を確実、かつ、円滑に行うために、防災担当課長等をもって、連絡責任者に充てるものとする。

(体制の整備)

第6条 銀河連邦市町は、この協定に基づく応援が円滑に行われるよう、必要な体制の整備に努めるものとする。

(その他)

第7条 この協定の実施に関し、必要な事項及びこの協定に定めのない事項は、銀河連邦市町相互で協議して定めるものとする。

(適用)

第8条 この協定は、平成8年2月1日から適用する。

この協定の成立を証するため、この協定書6通を作成し、当事者記名押印のうえ、各1通を保有するものとする。

平成8年2月1日(平成22年4月1日改正)

岩手県大船渡市長

秋田県能代市長

神奈川県相模原市長

長野県佐久市長

鹿児島県肝付町長

北海道大樹町長

○ 支援活動経過報告

平成23年3月11日

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)発生

平成23年3月13日

午前9時30分 大船渡市から相模原市に対し、支援要請あり。

(要請内容)

大船渡市の被害は甚大。人的、物資等不足しており、救助、避難等において困難を極めることから、至急応援をしていただきたい。医師、保健師、事務職員、医薬品、食糧、日用品等。

(相模原市の対応)

同日、午後5時。相模原市が「銀河連邦を構成する市町の災害時における相互応援に関する協定」に基づき、大船渡市を支援するために支援隊を派遣することをFAXにて本町に連絡あり。

消防職2人、事務職3人、運転手2人。

平成23年3月14日(肝付町)

議会議員全員協議会・肝付町経営戦略会議の開催

東日本大震災に係る大船渡市支援について協議。職員派遣を決定。

平成23年3月14日～19日(肝付町)

先遣隊職員派遣

職員5名 (ワゴン車1台、給水車1台)

	所属	職名	氏名
1	企画課	課長補佐	永野秀明
2	水道課	主幹	榎屋孝明
3	教育総務課	係長	前原俊郎
4	企画課	主査	倉義経
5	建設課	運転手	城戸内教貴



先遣隊の出発式

14日:夕方のさんふらわあで志布志港から大阪南港へ

15日:大阪～京都～滋賀～福井～富山～新潟泊。

16日:降雪のため、新潟で車のタイヤを全部、スタッドレスに交換。福島第一原発の影響を避けるため、日本海側を北上し、岩手県に入る。午後9時、大船渡市に到着。

17日:大船渡市長に面会。今後の支援と移住受入の用意があることを伝える。

17～18日:市内各所で給水活動の実施及び全国から届く支援物資の受入れ、仕分作業に従事。大船渡市保健福祉センター泊。(停電、断水中)

※救援物資を送るにあたり、被災地での電力不足の対応として、太陽光で携帯電話の充電ができる高山CHOYAソーイングの自社製品『CHOYA SUN(チョーヤサン)』を100個寄付していただいた。直射日光にあてれば約11時間でフル蓄電、15分の蓄電で携帯電話が3分間通話できる。



CHOYA SUN



先遣隊の移動ルート(志布志～大阪はフェリー利用)

平成23年3月15日（肝付町） 支援物資の発送 町建設業安全技術防災協力会に配送を依頼。

支援物資出発式 午後3時～ 肝付町役場玄関前
(支援物資の内容)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
無洗米(10kg入り)	100袋	カイロ	18箱	携帯ソーラー充電器	100個
カップ麺	1416個	懐中電灯	170個	紙おむつ(大人用)	22箱
水(ペット500cc)	3600本	電池(単1)	200個	老人用おむつ	8箱
水(ペット2ℓ)	600本	毛布	177枚	生理用品	2箱
パン(8個入り)	5箱	マスク	10000枚	お尻ふき	6箱
ミルク	6箱	ポリタンク	15個	絆創膏	2箱
佃煮(生活改善G)	100袋	カセットコンロガス	96本	ガーゼ	1箱
お菓子類	一式	サランラップ	1箱	寝袋・テント	1式
長袖シャツ(CHOYA)	80着	軍手	60枚	医薬品	多数
長袖Tシャツ(CHOYA)	195着	ドライシャンプー	1箱		

※東日本大震災支援に係る肝付町単独派遣(第1～3次、救援物資班)経費明細(3月分)は⇒別紙1(P70)

※東日本大震災支援に係る肝付町単独負担分経費明細(4月～8月末)は⇒別紙2(P72)

平成23年3月18日（肝付町）

非常食炊き出し訓練の実施

今後、職員を派遣するにあたり、炊飯袋(ハイゼックス)を利用した非常食炊き出し訓練を行った。

ハイゼックスに米と少量のきれいな水を入れて、お湯(飲めない水で可)で30分ほど茹でればお米が炊ける。



ハイゼックスを利用した炊き出し訓練

平成23年3月19日～23日（肝付町）

第2次隊職員派遣

職員3名、町建設業安全技術防災協力会2名

	所属	職名	氏名
1	水道課	係長	別府昌吾
2	耕地課	主査	小西志典
3	管理課	主査	伊地知貞行
4	建設業協会		平田祐峰
5	建設業協会		羽口利秀

平成23年3月21日（肝付町）

志布志市長来庁

大隅半島広域での支援について協議。

平成23年3月22日（4市5町）

第1回4市5町首長会議の開催

於 鹿屋市役所

鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チームの設置について

1 復興支援チーム設置の趣旨

今回の東日本大震災に対しては、これまで救助活動や物資支援等を主軸に県・自衛隊・消防等の一元化による支援や各自治体による義援金、個別物資支援等に取り組んできた。

このような中、今後、被災地域で想定される生活面での復興支援に対して、保健師等の派遣など、大隅半島4市5町で復興支援チームを設置し、人的支援を実施するものである。

嶋田鹿屋市長(会長)の談話：「大隅半島が一つになって、被災者の生活支援を行いたい」

2 支援体制の概要

大隅地域を構成する4市5町の首長会議を平成23年3月22日に開催し、以下の事項を決定した。

区分	内容
名称	鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム
設置日	平成23年3月22日
構成	大隅地区4市5町
組織	会長 嶋田鹿屋市長 副会長 永野肝付町長 事務局 肝付町総務課
スローガン	がんばろう 大船渡！ がんばろう 東日本！
派遣地	岩手県大船渡市（大船渡市に先に派遣を実施した肝付町の状況を踏まえ、大隅半島の構成市町でさらに支援体制の充実と強化を図るもの）
支援内容	保健師等による生活復興に向けた人的支援（あわせて今後想定される住宅・就労就学等に係る大隅半島での受入体制についても検討のうえ、被災地のみなさんへ情報提供と受け入れ態勢の準備を行う予定）
人員・期間等	先行実施の肝付町の状況や派遣先である大船渡市の最新の要請内容等を精査しながら、派遣人数、職種、期間等を決定のうえ、順次、派遣を実施していくこととする。 (参考) 肝付町ではすでに第2次を派遣中。

※「鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム」設置要綱は⇒別紙3(P73)

(支援対策の費用負担について)

- 1 費用負担の考え方……要綱第7条により「必要な経費は構成市町の負担金及びその他の収入をもって充てる」と定められている。
- 2 支援経費の考え方……派遣に係る旅費は、各市町で負担する。なお、航空券は、事務局で手配し、派遣した市町あて請求する。それ以外の共通経費(支援に係る費用として需用費ほか)には、上記1のとおり構成市町からの負担金をもってこれに充てることとし、その負担金額については、下表のとおりとする。

(単位:円)

市町名	負担金額	備考	市町名	負担金額	備考
鹿屋市	500,000		錦江町	500,000	
垂水市	500,000		南大隅町	500,000	
志布志市	500,000		東串良町	500,000	
曾於市	500,000		肝付町	500,000	事務局
大崎町	500,000		計	4,500,000	

平成23年3月23日～27日 (肝付町)

第3次隊職員派遣

職員3名、町建設業安全技術防災協力会2名

	所属	職名	氏名
1	生涯学習課	課長補佐	渡 會 実
2	管理課	係長	神 領 幸 生
3	町民生活課	係長	長 坪 康 之
4	建設業協会		木 下 仁
5	建設業協会		福 田 昭 太

平成23年3月25日 (4市5町)

大隅半島4市5町復興支援チーム出発式

- 1 復興支援チーム会長あいさつ(鹿屋市長)
- 2 職員を派遣する市長等あいさつ(志布志市長、肝付町長)
- 3 辞令交付(肝付町2名、志布志市2名、鹿屋市2名)
- 4 派遣職員あいさつ
- 5 第1次復興支援チームの行動説明



4市5町第1次派遣隊の出発式

平成23年3月26日～31日（4市5町）

4市5町第1次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	鹿屋市	総務課	主査	有村道尚
2	鹿屋市	情報行政課	主任主事	小松秀司
3	志布志市	総務課	主事	加治木 梢
4	志布志市	企画政策課	主査	児玉 祥一郎
5	肝付町	耕地課	主査	湯地 紀宏
6	肝付町	耕地課	主査	河野 次正

平成23年3月30日～4月4日（4市5町）

第2次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	垂水市	農林課	主幹兼農政係長	港 耕作
2	垂水市	総務課	主事補	下 舞 昇 吾
3	曾於市	経済課	参事補	大 迫 伸 一
4	曾於市	税務課	参事補	諸 留 貴 久
5	肝付町	福祉課	保健師	能 勢 佳 子
6	肝付町	肝付町 社会福祉協議会	ボランティア コーディネーター	宇 都 千津美

※保健師及び町社協職員については、避難所を巡回し、被災した生徒児童を中心に疎開希望調査を行う。

平成23年4月3日～10日（4市5町）

第3次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	大根占錦江園	チームリーダー	満 留 満 春
2	錦江町	地域振興課	主事	牧 原 弘 弥
3	大崎町	農委事務局	主任	福 岡 徹
4	大崎町	総務課	主任	堂 山 雅 司
5	肝付町	畜産課	課長補佐	吉 崎 浩 司
6	肝付町	住民課	主査	甲 斐 敬 俊

平成23年4月4日（4市5町）

第1回4市5町総務課長会議 於 肝付町役場

1 現地支援本部の設置及び支援体制について

派遣されている職員は、給水活動及び物資の仕分け作業等に従事しており、支援活動の一部を担っているにすぎない。大船渡市も対応に追われており、今、被災地や避難所で何が求められているのか全体的な

把握ができない状況である。そこで、一般職員とは別に大船渡市との連絡調整や避難所を回り、不足している物資等を調査する専属の職員が必要であると思われる。

※鹿児島県大隅半島4市5町復興現地支援本部の設立及び現地支援本部員の派遣を行いたい。

現地支援本部員は2名体制。派遣期間は20日間程度。

2 今後の職員派遣計画について

現在、3町×2名の6人を1週間交代で派遣しているが、今後は仕事内容を勘案するとともに4市5町の結束を深めるため、4市5町各1名の9名体制で職員を派遣する。

3 支援組織体制の整備について

各市町において、内部の支援体制の構築を依頼。肝付町における支援体制図は⇒別紙4(P74)

平成23年4月6日～22日（4市5町）

現地支援本部準備要員(第1次現地支援本部員)派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	産業創出課	課長	竹之下 克明
2	肝付町	産業創出課	班長	渡 會 実

平成23年4月8日（肝付町）

メッセージ、義援金の引渡式

現地支援本部設置のため、町長が大船渡市を訪問することから、肝付町内の小中高校生からの応援メッセージや募金、町民のみなさんからの義援金などが町長へ引き渡された。

- 1 町内小中高校生が作った「絵のメッセージ」の引渡（高山小学校児童からのメッセージ）
- 2 宮富小から現地の小学生へがんばれのメッセージ（メッセージ朗読:宮富小5年 富田 絵梨奈）
- 3 宮富高校生クラブからのメッセージ
(メッセージ朗読:同クラブ会長 大坪 素未)
(ジャンパーの贈呈:高山高校2年 坂元 愛理、
荒武 直見)

※これらのメッセージや義援金は、4月10日に大船渡市の今野教育長に手渡された。



大船渡市の子どもたちへ思いを込めました

平成23年4月9日（肝付町）

支援米の田植え

大船渡市に送る支援米の田植えが高山地区と内之浦地区の2ヶ所の水田で行われた。合計約35アールの水田に高山中と内之浦中の生徒が肝付町老人クラブ員の指導のもと、手植えで苗を植えた。

- (高山地区) 前田地区水田 (有村 博美さん所有) 栽培面積 15アール(うち10アールを手植え)
(内之浦地区) 南方地区水田 (冷水 正行さん所有) 栽培面積 20アール(うち10アールを手植え)

※参加者

高山中学校生徒会(部活動生) 約30名

内之浦中学校生徒会(部活動生) 約30名

肝付町老人クラブ 5名

肝付町農業振興課、企画調整課



慣れない手つきで1本1本植えました

平成23年4月9日～16日 (4市5町)

第4次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	曾於市	企画課	主任	上拾石 賢吾
2	志布志市	生涯学習課	主任主査	出口 順一郎
3	鹿屋市	収納管理課	主任主事	片平 究
4	垂水市	財政課	主査	村山 滋
5	東串良町	総務課	係長	畠中 輝久
6	肝付町	農業振興課	主査	木佐貫 英哉
7	錦江町	企画課	副主幹	宿利原 伸一
8	南大隅町	保健課	課長	水流 祥雄
9	南大隅町	企画振興課	主幹	熊之細 等

平成23年4月10日～11日 (4市5町)

現地支援本部の設立

会長(鹿屋市長)及び副会長(肝付町長)が大船渡市へ赴き、設立。
本部を派遣隊員の宿舎である「猪川地区公民館」に置く。

平成23年4月12日 (4市5町)

支援物資の発送

曾於市 : ゆずジュース 9600本(350ml入り)

平成23年4月12日 (4市5町)

記者会見 於 鹿屋市役所

大船渡市における現地支援本部の設立について

報告者 嶋田鹿屋市長、永野肝付町長

永野肝付町長の談話 : 「大船渡市職員には家族の安否も確認できないまま被災者を支援している人がいる。
少しでも支えたい。」



現地支援本部の設立
(中央は戸田大船渡市長)

平成23年4月15日（4市5町）

第2回4市5町首長会議の開催 於 鹿屋市役所

- 職員派遣に係る旅費等について
派遣隊員の旅費(交通費、日当)については、派遣市町の負担
- 今後の支援期間の見通しについて
5月の連休後に再度、首長会を開催する。
- 今後、想定される支援内容と対応について
支援内容については、銀河連邦の事務局である相模原市が大船渡市活力推進課と協議し、そこから他の銀河連邦構成市町やその他支援自治体へ連絡される。
- その他
イベント等は自粛するのではなくて、経済活性化の点からも実施すべきであると意見が一致した。

平成23年4月15日（4市5町）

支援物資の発送 ※大船渡市から要請があったもの

- 物資の積み込み……午前7時30分～
- 出発式(肝付町役場玄関前)……午前9時～
(支援物資の内訳)
 - 肝付町 子供用下着、肌着など(約9000枚)、レトルト食品・缶詰など(約3000食)
 - 大崎町 子供用下着、肌着など(約400枚)
 - 錦江町 子供用下着、肌着など(約700枚)
 - 南大隅町 子供用下着、肌着など(約700枚)、レトルト食品・缶詰などその他、林税理士事務所、渡辺ファミリークリニック、田原迫みき子さん、東正樹さん、野間さん、立石養鰻、ナフコ鹿屋店から子供用下着、肌着、マスクなど多数の寄付があった。

※支援物資の発送のほか、現地避難所の状況調査のため、職員を派遣した。

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	課長補佐	永井 宏

○さつま大海協業組合

焼酎 900ml×60本、180ml×125本 計42.5升

大船渡市赤崎地区漁村センター公園にて、避難生活を送っている方々が「元気を出そう、もう1回頑張ろう」と花見を計画された。この計画を知った大海酒造が快くたくさん焼酎を提供して下さった。この花見には、100人を超える方々が参加し、満開に咲き誇った桜の下で笑顔があふれていた。



満開の桜の下で行われた「元気を出そう」花見

平成23年4月15日～22日（4市5町）

第5次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	曾於市	経済課	主幹兼係長	吉元剛
2	志布志市	市民環境課	主幹	山口善央
3	垂水市	農林課	主査	大迫隆男
4	垂水市	土木課	副主幹	末野雅史
5	東串良町	総務課	主事	草原優作
6	肝付町	畜産課	主査	勝野大輔
7	錦江町	住民生活課	副主幹	水流瑞穂
8	南大隅町	佐多支所	支所長	竹野洋一
9	大崎町	教委管理課	主事	救仁郷論

平成23年4月18日（4市5町）

衆議院議員 森山 裕氏が来館

4市5町派遣職員激励のため、猪川地区公民館へ

平成23年4月19日～5月8日（4市5町）

第2次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	福祉課	課長	樋口弘志
2	鹿屋市	吾平支所市民生活課	課長	本村和明

平成23年4月21日～28日（4市5町）

第6次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	主査	黒木正剛
2	肝付町	福祉課	係長	市来俊作
3	錦江町	企画課	副主幹	壺崎浩二
4	鹿屋市	行改推進室	主任主事	黒木裕
5	鹿屋市	企画調整課	主任主事	竹井俊一
6	曾於市	大隅支所	参事補	東久雄
7	大崎町	保健福祉課	主事	山下琢磨
8	南大隅町	社会教育課	主査	原琢磨
9	志布志市	建設課	技師	徳永拓也

平成23年4月25日（4市5町）

第2回4市5町総務課長会議

於 肝付町役場

1 被災者の受入支援施策について

各市町で被災者の受入支援施策について、要綱を作り、案を出す。

2 支援物資の取扱について

避難所ではインスタント食品が多く、肉・野菜が不足している。今後、これら肉・野菜の支援を行いたい。

3 今後の派遣計画について

6月以降も継続する。保健師については、6月～8月中に1週間交替で2名ずつ派遣する。

平成23年4月26日（4市5町）

支援物資の発送

曾於市：ゆずジュース 8400本(350ml入り)

平成23年4月27日～5月4日（4市5町）

第7次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	地域振興課	チームリーダー	大寺和久
2	垂水市	総務課	主査	小池康之
3	垂水市	企画課	主任主事	久木田敬
4	肝付町	教育委員会支所	主査	松元貴幸
5	大崎町	農林振興課	主事	川越洋
6	南大隅町	経済課	課長	木佐貫徳和
7	曾於市	企画課	主事	内山慎一郎
8	志布志市	松山支所市民課	主幹兼保健係長	和田幸夫
9	鹿屋市	道路建設課	主幹兼係長	上原敏郎

平成23年5月1日（肝付町）

チャリティコンサートの実施

於 肝付町文化センター

二階堂家住宅の保存活動を行う二階堂家かやぶき会が主催してチャリティコンサートが行われた。大隅半島を中心に活動するアマチュアバンド等が出演。入場料から経費を除いた658,496円を支援金として大船渡市に送る。

平成23年5月3日～10日（4市5町）

第8次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	総務課	チームリーダー	新田敏郎
2	垂水市	企画課	主任主事	川井田弘毅
3	肝付町	総務課	主査	白坂友輝
4	大崎町	農林振興課	主事	東平正孝
5	南大隅町	総務課	主幹	川元俊朗
6	志布志市	建設課	主幹	菅間省治
7	鹿屋市	監査事務局	主査	坂元賢朗
8	鹿屋市	財政課	主事	橋口和彦
9	曾於市	市民課	主事補	吉村一樹

平成23年5月8日（4市5町）

衆議院議員 網屋 信介氏が来館

4市5町派遣職員激励のため、猪川地区公民館へ

平成23年5月5日～24日（4市5町）

第3次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	健康増進課	課長	福岡大祐
2	鹿屋市	農政水産課	課長補佐	四元等

平成23年5月9日～16日（4市5町）

第9次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	住民税務課	副主幹	山王洋介
2	垂水市	水産課	主任主事	宮迫祐治
3	肝付町	畜産課	主幹	吉永真樹
4	大崎町	耕地課	主任	内田久雄
5	大崎町	住民環境課	主任	中水流幸治
6	志布志市	福祉課	主査	溝口茂樹
7	鹿屋市	企業支援課	主任主事	長野憲史
8	鹿屋市	道路建設課	主任技師	林康隆
9	曾於市	議会事務局	主任	宇都正浩

平成23年5月10日（肝付町）

水産物の放射能分析試験の実施

- 1 分析内容：放射性セシウム、放射性ヨウ素の検出の有無
- 2 検体数：内之浦漁協3検体、高山漁協3検体
- 3 委託業者：財団法人九州環境管理協会
- 4 委託費：94,500円
- 5 その他：放射能分析試験結果については⇒別紙5(P75)

平成23年5月11日（4市5町）

支援物資の発送 志布志市：新茶

（提供先）

避難所	食数	緑茶		
		リーフ茶	スティック茶	ティーパック
末崎町ふるさとセンター	200	100	100	100
大船渡地区公民館	800	300		
赤崎町漁村センター	150	50	100	50
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	30	40	40
越喜来・花菱縫製	150	50	100	50
綾里綾姫コミュニティ	100	50	50	50
予備		20	10	10
計	1480	600	400	300

平成23年5月12日（4市5町）

銀河連邦会議の開催 於 大船渡市役所活力推進課

出席者 相模原市、能代市、肝付町、大船渡市

- 1 肉・野菜の支援について……銀河連邦としての対応はできない。4市5町、能代市の個別対応。
- 2 保健師の派遣について……現在、活動している能代市の保健師を4市5町保健師が6月から引き継ぐ。

平成23年5月12日（4市5町）

第3回4市5町総務課長会議 於 肝付町役場

- 1 大隅半島4市5町への被災者受入策について……4市5町の支援策は⇒別紙6(P76)
※肝付町東日本大震災被災者支援金支給要領は⇒別紙7(P79)
※東日本大震災に伴う被災者の肝付町公営住宅等一次入居の取扱については⇒別紙8(P81)
- 2 今後の職員派遣計画について
6月末まで現行の日程、人数で派遣する。ただし、支援内容が変更になった場合は、その都度協議する。
6～8月の間は保健師を9名と別枠で派遣する。保健師の割当表は⇒別紙9(P82)
- 3 物資支援の取り組みについて
(1) 漁業者用のカッパの件……大船渡市は漁業の町であり、今回の震災で船を始め、多くの漁業施設・資材が使用不能となった。なかでも漁業者が仕事を再開するにあたり、足首から胸当てまであるカッパが不足している。そこで、相模原を中心とする支援チームの話し合いで漁業者への支援は水産業のある大隅半島4市5町にお願いできないかということになった。ただし、大船渡市の漁業者は約3000人もおり、1着1万円前後するカッパを全員に支給することは無理であるため、100着程度を現地に送ることにしたい。
(2) 肉・野菜の件……避難所では肉・野菜類が不足しているため支援するものであるが、原則として購入して送るのではなくて、無償提供できないか各市町内にある農協や企業にお願いをしていただきたい。提供していただけるものがあれば、時期・数量を事務局まで報告する。発送については、事務局が調整する。
- 4 負担金の支出状況及び今後の経費について
8月末まで支援を行うことから、当初の50万円ずつの負担金では不足する。今後は、均等割と人口割を導入して追加負担金を提案し、次回の首長会議で協議する。

平成23年5月15日～22日（4市5町）

第10次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	産業振興課	主事	原 澤 政 徳
2	垂水市	社会教育課	主事	福 島 康 彦
3	肝付町	福祉課	主査	上 園 洋 平
4	東串良町	建設課	主事	松 元 裕 太
5	曾於市	企画課	主幹兼係長	荒 武 圭 一
6	南大隅町	経済課	主査	土 持 一
7	大崎町	住民環境課	主任	上 床 就 路
8	志布志市	志布志支所建設課	課長補佐兼管理係長	中 村 由 紀 美
9	鹿屋市	高齢福祉課	主任主事	山 下 博 文

1 被災者受入支援策について

各市町の支援策を提示、承認。移動支援(5万円)、生活支援(5万円)は、4市5町で統一する。

細かな基準は各市町それぞれの判断でよい。周知・PR方法は以下のとおりとする。

- 共通の支援策一覧を各市町のホームページに掲載する。あわせて全国市長会の掲示板など全国版のホームページへの掲載も検討する。
- 各市町の広報誌に掲載し、被災地の知人縁者からの相談、問い合わせに応じられるようにしておく。
(実質的には、知人縁者を頼ってくるケースがほとんどである)
- 4市5町で共通のチラシを作成し、現地本部を通じ、大船渡市でも配付する。

2 今後の職員派遣計画について

- 6月末までは、現行どおり9人体制(4市5町1人ずつ)を基本とする。
- 「廃車管理が6月下旬で終了すること」と「仮設住宅への入居増による避難所生活者が減少すること」の要因を踏まえ、7月からは7人体制とする。
- 仮設住宅での高齢者、乳幼児、妊産婦等の健康支援のため、6月から保健師を2名体制で派遣する。
- 現地に業務量を常に把握し、必要に応じて随時、派遣人数の見直しを協議する。

3 物資支援の取り組みについて

漁業者用カッパ100着を支援することを承認。また現地から要請のあった「肉・野菜」支援については、5月17日以降、毎週1回程度、各市町から集まった分の肉・野菜をとりまとめて発送する。

4 追加負担金について……下記のとおり。

5 国土交通省との災害支援協定の締結について

大隅河川国道事務所長から打診があり、災害時の大隅半島での国(国土交通省)の支援について、具体的に支援協定として締結したい意向がある。4市5町として締結する方向で検討する。

★ これまでの支出状況

当初負担金 500千円×9市町=4,500,000円+雑収入5,000円=4,505,000円

4月末日までの支出額 878,625円 残額 3,626,375円

★ 今後(8月まで)の支出予定

レンタカーリース代 6月～8月の3ヶ月分 @103,425円×3月≒320,000……① ※4、5月分は支払済

車両ガソリン代	{ <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>ワゴン車</td> <td>(1週間に2回給油)……5月～8月の20週</td> <td>@8,000×40回=320,000……②</td> </tr> <tr> <td>給水車</td> <td>(1週間に2回給油)……5月～8月の20週</td> <td>@8,000×40回=320,000……③</td> </tr> <tr> <td>レンタカー</td> <td>(1週間に1回給油)……5月～8月の20週</td> <td>@5,000×20回=100,000……④</td> </tr> </table>	ワゴン車	(1週間に2回給油)……5月～8月の20週	@8,000×40回=320,000……②	給水車	(1週間に2回給油)……5月～8月の20週	@8,000×40回=320,000……③	レンタカー	(1週間に1回給油)……5月～8月の20週	@5,000×20回=100,000……④
		ワゴン車	(1週間に2回給油)……5月～8月の20週	@8,000×40回=320,000……②						
		給水車	(1週間に2回給油)……5月～8月の20週	@8,000×40回=320,000……③						
レンタカー	(1週間に1回給油)……5月～8月の20週	@5,000×20回=100,000……④								

漁業者カッパ 100着×@11,000=1,100,000円……⑤

現地支援本部要員経費 旅費……第1次～第9次 @111,400円×2名×9次≒2,006,000……⑥

日当……@3,970円×20日×2名×9次=1,430,000……⑦

(3,970円は災害対策基本法に定める災害派遣手当の上限)

計①～⑦=5,596,000円+予備費1,500,000=7,096,000円≒7,000,000円

★7,000,000円 - 残額3,626,000円 = 3,374,000円 ≒ 3,300,000円 (不足分)

負担金の追加徴収方法

※人口割等を導入して拠出金額を出す方法 (均等割を不足分の3割に設定した)

ア: 均等割 100,000円 × 9町 = 900,000円

イ: 人口割 3,300,000円 - 900,000円 = 2,400,000円を按分する。

	鹿屋	垂水	曾於	志布志	大崎	東串良	錦江	南大隅	肝付	計
人口按分	40.4%	7.2%	16.1%	13.2%	5.8%	2.7%	3.8%	3.8%	7.0%	100%
人口割	970,000	173,000	386,000	317,000	139,000	65,000	91,000	91,000	168,000	2,400,000
均等割	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	900,000
合計	1,070,000	273,000	486,000	417,000	239,000	165,000	191,000	191,000	268,000	3,300,000

平成23年5月17日 (4市5町)

支援物資発送

避難所に対する肉・野菜の支援(1回目)

避難所	食数	肝付町	大崎町	大崎町	錦江町	錦江町	東串良町	東串良町
		黒豚肉	キャベツ	大根	ばれいしょ	ピーマン	トマト	キュウリ
末崎町ふるさとセンター	200	20kg	20kg	20kg	20kg	9kg	3kg	10kg
大船渡地区公民館	800	20kg	20kg	20kg	20kg	9kg	3kg	10kg
赤崎町漁村センター	150	20kg	20kg	20kg	20kg	9kg	3kg	10kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	10kg	10kg	10kg	10kg	9kg	3kg	5kg
越喜来・花菱縫製	150	20kg	20kg	20kg	20kg	9kg	3kg	10kg
綾里綾姫コミュニティ	100	10kg	10kg	10kg	10kg	9kg	3kg	5kg
計	1480	100kg	100kg	100kg	100kg	54kg	18kg	50kg

(提供元) 黒豚肉:南州農場、キャベツ:富士農産、大根:有田農産、トマト:よしだや、キュウリ:町園芸振興会

肉・野菜支援に係る出発式の実施

- 1 大隅半島4市5町復興支援チーム副会長あいさつ
- 2 黒豚肉の贈呈(南州農場から副会長へ)
- 3 運送会社への委託(副会長からヤマト運輸へ)
- 4 トラックの見送り

※避難所での調理を考え、肉はすでにスライス済み。

輸送については、ヤマト運輸肝属支店高山センターのご厚意により輸送運賃を25%割引。

※大船渡市役所に5月19日着。各避難所へは翌20日に配送。



南州農場のご厚意により黒豚肉を提供していただきました

平成23年5月18日 (4市5町)

TBSテレビ 「みのもんたの朝ズバッ」で4市5町の支援活動が紹介される

平成23年5月20日（4市5町）

支援物資発送

避難所に対する肉・野菜の支援(2回目)

※大船渡市役所着:5月22日

避難所着:5月23日

避難所	食数	垂水市	垂水市	錦江町	錦江町	鹿屋市
		鶏肉	から揚げ粉	ばれいしょ	ミニトマト	お茶
末崎町ふるさとセンター	200	36kg	1セット	20kg	3kg	10kg
大船渡地区公民館	800		1セット	20kg	3kg	10kg
赤崎町漁村センター	150	36kg	1セット	20kg	3kg	10kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	24kg	1セット	10kg	3kg	5kg
越喜来・花菱縫製	150	24kg	1セット	20kg	3kg	10kg
綾里綾姫コミュニティ	100	24kg	1セット	10kg	3kg	5kg
計	1480	144kg	6セット	100kg	18kg	50kg

(提供元) 鶏肉:ジャパンファーム

平成23年5月21日～28日（4市5町）

第11次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	志布志市	建設課	主幹兼維持係長	河野 穂積
2	東串良町	総務課	主事	瀧川 祐造
3	肝付町	税務課	主査	有留 幸弘
4	錦江町	建設課	副主幹	松尾 洋一
5	曾於市	福祉課	課長補佐	吉田 與八郎
6	大崎町	企画調整課	主任	鶴野 雄司
7	南大隅町	保健課	主幹	畦地 明浩
8	鹿屋市	総務課	主任主事	山之内 浩文
9	鹿屋市	農地整備課	主任主事	久木田 圭介

平成23年5月21日～6月9日（4市5町）

第4次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	福祉課	課長補佐	飯田 徳弘
2	鹿屋市	消防防災室	主幹	川枝 利己

平成23年5月22日（4市5町）

支援物資(現地購入)

避難所へバケツ、調味料を贈る。

平成23年5月23日（4市5町）

支援物資（現地購入） 避難所へ線香を贈る。

平成23年5月24、30日（4市5町）

支援物資（現地購入） 避難所へ殺虫剤を贈る。

平成23年5月24日（4市5町）

支援物資発送 避難所に対する肉・野菜の支援（3回目）

※大船渡市役所着：5月26日 避難所着：5月27日

避難所	食数	肝付町	肝付町	肝付町	肝付町	南大隅町	南大隅町
		黒豚肉	キャベツ	ピーマン	キュウリ	タマネギ	パプリカ
末崎町ふるさとセンター	200	20kg	20kg	18kg	3kg	10kg	3kg
大船渡地区公民館	200	20kg	20kg	18kg	3kg	10kg	3kg
赤崎町漁村センター	150	20kg	20kg	18kg	3kg	10kg	3kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	10kg	10kg	9kg	3kg	10kg	3kg
越喜来・花菱縫製	150	20kg	20kg	18kg	3kg	10kg	3kg
綾里綾姫コミュニティ	100	10kg	10kg	9kg	3kg	10kg	3kg
計	880	100kg	100kg	90kg	18kg	60kg	18kg

（提供元） 黒豚肉：南州農場

平成23年5月27日～6月3日（4市5町）

第12次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	錦江町	教育課	主査	時 吉 健 二
2	垂水市	企画課	主幹	野 嶋 正 人
3	肝付町	農業振興課	係長	橋 口 洋 輔
4	東串良町	企画課	主事	宮之前 博 一
5	大崎町	社会教育課	主事	稲 森 洋 平
6	志布志市	建設課	技師	村 田 尚 樹
7	鹿屋市	吾平支所市民生活課	主任主事	板 山 剛 士
8	曾於市	農業委員会	参事補	田之上 宏 一
9	南大隅町	議会事務局	係長	入ヶ町 貴 弘

平成23年5月31日（4市5町）

垂水市長大船渡市訪問

平成23年5月31日（4市5町）

支援物資発送

避難所に対する肉・野菜の支援（4回目）

※大船渡市役所着：6月2日

避難所着：6月3日

避難所	食数	志布志市	大崎町	大崎町	鹿屋市	鹿屋市
		豚肉	キャベツ	大根	ピーマン	ナス
末崎町ふるさとセンター	200	20kg	60kg	30kg	24kg	4kg
大船渡地区公民館	200	10kg	60kg	30kg	16kg	4kg
赤崎町漁村センター	150	20kg	60kg	30kg	24kg	4kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	10kg	30kg	15kg	8kg	4kg
越喜来・花菱縫製	150	20kg	60kg	30kg	16kg	4kg
綾里綾姫コミュニティ	100	10kg	30kg	15kg	8kg	4kg
大船渡市活力推進課へ		130kg				
計	880	220kg	300kg	150kg	96kg	24kg

（提供元） 豚肉：サンキョーミート、キャベツ：富士農園、大根：有田農産、ピーマン及びナス：JA吾平

※活力推進課へ 配送分は、その他の避難所へ配付。

平成23年6月2日～9日（4市5町）

第13次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	大崎町	水産課	主任	竹井政和
2	志布志市	建設課	都市政策推進室長	鎌田勝穂
3	錦江町	企画課	主事	邊志切祐希
4	南大隅町	町民福祉課	係長	中村喜寿
5	垂水市	社会教育課	主査	羽生文彦
6	肝付町	福祉課	課長補佐	小野原聖和
7	鹿屋市	選管委員会	主任主事	加藤恭子
8	鹿屋市	健康保険課	主査	角崎由紀子
9	肝付町	福祉課	保健師	能勢佳子
10	肝付町	健康増進課	保健師	前村裕子

平成23年6月3日（4市5町）

錦江町長大船渡市訪問

平成23年6月3日（4市5町）

能代市保健師と4市5町保健師との引き継ぎ式 於 吉浜公民館

- （内容）
- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 避難所の巡回業務について | 2 仮設住宅入居者健康調査について |
| 3 合同ミーティングについて | 4 保健活動支援スタッフオリエンテーション |

※本日以降、派遣業務終了日（9月1日）まで、保健師の移動用として能代市から車を無償で借用した。

車両の貸出に関する覚書

車両の貸出について、秋田県能代市(以下「甲」という。)と鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム事務局である鹿児島県肝付町(以下「乙」という。)は、次のとおり覚書を交換する。

- | | |
|-------------|---|
| 1 貸出期間 | 平成23年6月3日(金)～平成23年9月1日(木) |
| 2 車両の使用業務 | 大船渡市の保健支援業務等の支援 |
| 3 貸出車両 | 秋田300 わ 757 トヨタプリウスEX (トヨタレンタリース秋田所有) |
| 4 リース料の支払い | リース料は甲が負担する。 |
| 5 燃料費等の支払い | 燃料費ほかの諸経費は乙が負担する。 |
| 6 事故、故障等の対応 | 手続き等は甲の指示に従う。その際、自己負担が生じた場合は乙が支払う。 |
| 7 その他 | この覚書に定めのない事項は、甲乙協議して定める。
この覚書は2通作成し、甲乙がそれぞれ保有する。 |

平成23年6月1日

甲 秋田県能代市総務課長 秋田 武英

乙 鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム
事務局長 肝付町総務課長 前原 尚文

平成23年6月5日 (肝付町)

支援物資(現地購入) 遺体安置所用冷凍庫1台、扇風機6台

平成23年6月7日 (4市5町)

支援物資発送 避難所に対する肉・野菜の支援(5回目)

※大船渡市役所着:6月9日 避難所着:6月10日

避難所	食数	南大隅町	大崎町	大崎町	大崎町	南大隅町	南大隅町
		黒豚肉	ばれいしょ	ばれいしょ	ネギ	カボチャ	ミニトマト
末崎町ふるさとセンター	200	20kg	20kg		6kg	5kg	6kg
大船渡地区公民館	200	20kg	20kg		6kg	5kg	6kg
赤崎町漁村センター	150	20kg	20kg		6kg	5kg	6kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	80	10kg		10kg	3kg	5kg	6kg
越喜来・花菱縫製	150	20kg	20kg		6kg	5kg	6kg
綾里綾姫コミュニティ	100	10kg		10kg	3kg	5kg	6kg
大船渡市活力推進課			20kg	80kg			
計	880	100kg	100kg	100kg	30kg	30kg	36kg

(提供元) 黒豚肉:南州農場、ばれいしょ:有田農産及び高井田アグリ、ネギ:大崎農園、ミニトマト:田淵悦二

平成23年6月7日～26日（4市5町）

第5次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	産業創出課	主査	田畑哲也
2	鹿屋市	収納管理課	主幹	永山俊一

平成23年6月8日～15日（4市5町）

第14次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	志布志市	畜産課	主任主事	畑山浩一郎
2	大崎町	建設課	主事	岩切雄作
3	南大隅町	住民グループ	グループ長	馬見塚大助
4	曾於市	教育委員会	主査	竹石幸浩
5	肝付町	建設課	主査	宮ヶ原修作
6	錦江町	大根占錦江園	支援員	馬込美和子
7	鹿屋市	市民活動推進課	主任主事	谷村亜希子
8	垂水市	社会教育課	主査	中馬薫子
9	垂水市	市民課	保健師	池松由美子
10	垂水市	保健福祉課	保健師	堀之内貢子

平成23年6月14日（4市5町）

支援物資発送

避難所に対する肉・野菜の支援(6回目)

※大船渡市役所着:6月16日

避難所着:6月17日

避難所	食数	南大隅町	志布志市	大崎町
		黒豚肉	豚肉	ネギ
末崎町ふるさとセンター	74		12kg	3kg
大船渡地区公民館	106	10kg		3kg
大船渡北小学校	65		6kg	3kg
赤崎町漁村センター	324	10kg	18kg	6kg
蛸ノ浦漁村厚生施設	110		18kg	6kg
越喜来・三陸福祉センター	69		18kg	3kg
盛町カメラホール	60		6kg	3kg
猪川町福祉の里センターほか	60	80kg		3kg
計	868	100kg	78kg	30kg

(提供元) 黒豚肉:南州農場、豚肉:サンキョーミート、ネギ:大崎農園

平成23年6月14日～21日（4市5町）

第15次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	垂水市	土木課	係長	園田昌幸
2	垂水市	総務課	係長	濱久志
3	南大隅町	総務課	主事	渡邊鉄舟
4	志布志市	企画政策課	主幹兼係長	留中政文
5	大崎町	税務課	主事	宮下功大
6	曾於市	建設課	主事	鎌原一輝
7	肝付町	建設課	主査	柳井谷幸司
8	錦江町	産業建設課	主事補	新久保良美
9	鹿屋市	健康増進課	保健師	寺田文子
10	鹿屋市	健康増進課	保健師	田平弘子

平成23年6月17日（肝付町）

支援物資(現地購入)

避難所用扇風機50台

平成23年6月19日（肝付町）

支援物資(現地購入)

草刈用刈払機5台

大船渡市体育センターへ

平成23年6月19日（肝付町）

支援米の田植え……川上地区

川上中学校と川上校区村づくり推進委員会は合同でお米の売上金を被災者に届けようと、約50人が集まり、田植えを行なった。

柿元芳博さん所有の水田約11アールのうち、約6アールに手植えした。10月中旬の収穫までに中学生も草取りや発育の観察会を行い、稲刈りまで一緒に行う。ヒノヒカリ約900kgを収穫予定。また、収穫された米は新米をもじって「中学生^{しんまい}心米」と名付け、11月上旬から物産・交流館「やまびこ館」で販売し、益金を義援金として大船渡市に送る。



中学生と地元の方が共同で田植えを行いました

平成23年6月20日～27日（4市5町）

第16次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	大崎町	管理課	主査	溝口 卓也
2	曾於市	保健課	参事補	宇都 順久
3	南大隅町	産業グループ	グループ長	花里 友二
4	志布志市	耕地林務水産課	技師	上集 一樹
5	錦江町	産業振興課	副主幹	押領司 浩二
6	肝付町	農業振興課	課長補佐	岩下 龍郎
7	鹿屋市	情報行政課	主任主事	今吉 亮
8	鹿屋市	農政水産課	主任主事	住倉 健一郎
9	肝付町	福祉課	保健師	半下石 みゆき
10	大崎町	保健福祉課	保健師	山崎 瑞恵

平成23年6月21日（4市5町）

支援物資(現地購入)

漁業者用カップ173着

(提供先)

漁協名	組合員数	割当額	購入金額	購入数	購入内容	備考
大船渡市漁協	922人	470,000円	470,000円	90着	下のみ	
綾里漁協	453人	230,000円	230,000円	18着	上下セット	
越喜来漁協	530人	260,000円	260,000円	50着	下のみ	
吉浜漁協	212人	100,000円	100,000円	10着	上下セット	
盛川漁協	20人	40,000円	40,000円	5着	上下セット	
計	2,137人	1,100,000円	1,100,000円	173着		

平成23年6月21日（4市5町）

支援物資発送

避難所に対する肉・野菜の支援(7回目)

※大船渡市役所着:6月23日

避難所着:6月24日

避難所	食数	鹿屋市	志布志市	志布志市	肝付町	肝付町
		豚肉	お茶100g	急須	タマネギ	カボチャ
大船渡地区公民館	107	13kg				
大船渡北小学校	52	6kg				
大船渡中学校	38	6kg				
赤崎町漁村センター	272	25kg				
越喜来・三陸福祉センター	124	25kg				
盛町カメラホール	54	6kg				
大船渡市活力推進課	60	19kg	1,000本	60個	200kg	200kg
計	868	100kg	1,000本	60個	200kg	200kg

(提供元) お茶:志布志市茶業振興会

活力推進課へ配送分は、その他の避難所へ配付。

平成23年6月20日（4市5町）

南大隅町長大船渡市訪問

平成23年6月22日（4市5町）

第4回4市5町総務課長会議 於 肝付町役場

- 1 今後の派遣計画について……職務内容の変更→物資管理、廃車警備が終了し、義援金申請事務へ
- 2 派遣期間について……これまでと同じ1週間交替。現地本部員は1名体制の10日間とする。
- 3 派遣人員について……第19次隊から一般職員5人＋保健師2名体制の計7人とする。
- 4 移動経路について……これまでは大阪空港を経由して全て飛行機で移動していたが、経費の面から東京まで飛行機で行き、その後は新幹線で一関まで移動することに変更

平成23年6月24日～7月5日（4市5町）

第6次現地支援本部員派遣

※これ以降、期間を短縮し、1名体制に変更。

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	課長補佐	満永正幸

平成23年6月26日（4市5町）

志布志市長大船渡市訪問

平成23年6月26日～7月3日（4市5町）

第17次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	垂水市	社会教育課	主任主事	川畑正臣
2	錦江町	保健福祉課	チームリーダー	森とし子
3	錦江町	住民生活課	主査	袖山仁志
4	肝付町	町民生活課	主幹	上馬庭悟
5	鹿屋市	高齢福祉課	主任主事	西柳茂樹
6	志布志市	建設課	技術主任主事	福元義仁
7	大崎町	総務課	主任	美坐勇作
8	曾於市	総務課	主事	米満慎吾
9	南大隅町	町民福祉課	課長補佐	田中明郎
10	鹿屋市	健康増進課	保健師	加世田浩子
11	鹿屋市	健康増進課	保健師	二見理佳

平成23年6月26日（4市5町）

支援物資（現地購入） 避難所へハエ取りリボンを贈る。

平成23年6月28日（4市5町）

支援物資（現地購入） 避難所へ油除去用石けんを贈る。

平成23年7月2日（肝付町）

被災者の受入れ

仲町振興会に宮城県亶理郡亶理町から1世帯、1名の転入あり。

津波被害により自宅が全壊したため、本町に居住する娘さん宅に同居される。

移動支援金5万円、生活支援金5万円を肝付町東日本大震災被災者支援金支給要領により支給した。

平成23年7月2日（肝付町）

マジックショーによる避難所慰問

TBSテレビ「みのもんたの朝ズバッ」で紹介された4市5町チームの復興支援活動を見て、自分も力になりたいと、本町出身で鹿児島市の天文館で「マジックBAR一世」を経営されている大迫さん（芸名：譲 一世さん）がリアスホールをはじめ、数カ所の避難所を訪問され、得意のマジックで避難所生活をされている方を楽しませてくださった。大迫さんは鹿児島市から自分の車で陸路はるばる大船渡市へ入られた。また、自分の店でお客さんから預かった義援金を大船渡市へ寄付された。



多くの被災者に喜んでもらいました

平成23年7月2日～9日（4市5町）

第18次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	南大隅町	建設課	主査	堂地 彰
2	大崎町	税務課	主事	新馬場 繁
3	曾於市	保健課	課長	大休寺 拓夫
4	垂水市	市民課	課長補佐	前田 正博
5	鹿屋市	生活環境課	主事	加治屋 博樹
6	鹿屋市	健康増進課	主査	鳥越 賢二
7	志布志市	保健課	保健師	平井 孝実
8	志布志市	保健課	保健師	梶 真由美

平成23年7月2日～12日（4市5町）

第7次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	税務課	係長	竹之下 記與

平成23年7月8日～15日（4市5町）

第19次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	係長	松園 幸人
2	大崎町	農林振興課	主事	西ノ園 秀作
3	志布志市	税務課	主査	伊作 建一郎
4	曾於市	教育委員会	主査	松下 貴史
5	鹿屋市	道路建設課	主任主事	東倉 晃
6	南大隅町	保健課	保健師	中村 敬子
7	南大隅町	保健課	保健師	白川 まり

平成23年7月10日～20日（4市5町）

第8次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	課長	福元 了

平成23年7月12日（肝付町）

支援物資発送

肉・野菜の支援(8回目:肝付町単独支援)

※大船渡市内高齢者福祉施設への送付

各施設着:7月14日

地区	施設名	黒豚モモスライス (200gパック入り)	送付先
盛町	蔵ハウス	100パック(20kg)	大船渡市盛町字町3-1
大船渡町	ひまわり	100パック(20kg)	大船渡市大船渡町字山馬越196
猪川町	祥風苑	50パック(10kg)	大船渡市猪川町字富岡176
猪川町	富美岡荘	100パック(20kg)	大船渡市猪川町字富岡148
計		350パック(70kg)	

平成23年7月14日～21日（4市5町）

第20次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	主査	中窪 悟
2	錦江町	住民生活課	チームリーダー	川路 洋志
3	垂水市	市民課	係長	森 永公洋
4	南大隅町	建設課	技官	松下 節朗
5	鹿屋市	生活環境課	主任主事	加連川 陽一
6	曾於市	保健課	保健師	原田 弥生
7	曾於市	保健課	保健師	石川 あゆみ

平成23年7月18日～28日（4市5町）

第9次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	畜産課	課長	上大園 実

平成23年7月19日（肝付町）

支援物資発送

肉・野菜の支援(9回目:肝付町単独支援)

※大船渡市内高齢者福祉施設への送付

施設着:7月21日

地区	施設名	黒豚モモスライス (200gパック入り)	送付先
大船渡町	気仙苑	280パック箱(56kg)	大船渡市大船渡町字山馬越188

平成23年7月20日～27日（4市5町）

第21次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	志布志市	松山支所産業振興課	主任主査	寶地 伸也
2	大崎町	総務課	課長補佐	今吉 孝志
3	錦江町	総務課	副主幹	木下 勝幸
4	肝付町	農業振興課	主査	大田 広幸
5	曾於市	保健課	保健師	棚木原 チヨ子
6	曾於市	保健課	保健師	小松 友子

平成23年7月20日（4市5町）

猪川地区公民館へ情報通信環境の整備

宿舍としてお世話になったお礼として猪川地区公民館に光回線を敷設し、情報の高速化、大容量化が可能になった。NTT東日本との契約は4市5町事務局が行い、支援が終了した後はこれらの契約を猪川地区公民館に引き継ぐ。 工事初期費用 2,940円 月額回線使用料 6,279円(プロバイダー料金も含む)

平成23年7月26日（肝付町）

支援物資発送

肉・野菜の支援(10回目:肝付町及び垂水市支援)

※大船渡市内児童養護施設への送付

各施設着:7月28日

地区	施設名	黒豚モモスライス (200gパック入り)	送付先	備考
立根町	大洋学園	280パック箱(56kg)	大船渡市立根町字下欠125-15	肝付町支援

地区	施設名	黒豚モモスライス (1kgパック入り)	送付先	備考
盛町	蔵ハウス	10パック(10kg)	大船渡市盛町字町3-1	垂水市支援
大船渡町	ひまわり	20パック(20kg)	大船渡市大船渡町字山馬越196	
大船渡町	気仙苑	10パック(10kg)	大船渡市大船渡町字山馬越188	
猪川町	祥風苑	10パック(10kg)	大船渡市猪川町字富岡176	
猪川町	富美岡荘	10パック(10kg)	大船渡市猪川町字富岡148	
計		60パック(60kg)		

平成23年7月26日（4市5町）

鹿屋農業高校和太鼓部による仮設住宅慰問

- 趣旨 7月28日に開催される盛岡市での全国高校総合文化祭の郷土芸能部門に出場するため岩手を訪問中の鹿屋農業高校和太鼓部が、「和太鼓演奏を通じて被災地に元気を届けたい」と大船渡市内の仮設住宅で演奏会を実施した。太鼓と笛が奏でる勇壮なリズムに、被災者ら約150人から大きな拍手がわいた。
- 場所 大船渡市立綾里中学校体育館
- 対象者 綾里中学校仮設住宅入居者(90戸)、地区住民、綾里中学校生徒、保護者
- 参加者 鹿屋農業高校生12人、引率2人
- 演目 桜島火山大噴火、薩摩の響きほか
- その他
 - ①生徒が宿泊しているホテルから演奏会場までは、4市5町の経費でマイクロバスを借上げた。
 - ②仮設住宅等に演奏会を周知するため、配付したチラシは⇒別紙10(P83)
 - ③鹿屋農業高校 大坪智昌部長の談話：「たくさんのガレキが残り、自然の力のすさまじさを感じた。つらい思いをしていると思うが、頑張っ



力強いパチさばきでエールを送りました

平成23年7月26日（4市5町）

第5回4市5町総務課長会議 於 肝付町役場

- 今後の職員派遣について……8月末までは現行体制で派遣を行う。9月1日で派遣は終了する。

平成23年7月26日～8月2日（4市5町）

第22次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	係長	東 純 也
2	南大隅町	経済課	課長補佐	浜 川 和 弘
3	錦江町	総務課	チームリーダー	池之上 和 隆
4	垂水市	税務課	係長	福 島 哲 朗
5	鹿屋市	健康増進課	課長	西久保 誠
6	曾於市	保健課	保健師	上 村 優 子
7	曾於市	保健課	保健師	宮 脇 ゆかり

平成23年7月26日～8月5日（4市5町）

第10次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	住民課	課長	田畑 隆一郎

平成23年7月29日（4市5町）

東串良町長大船渡市訪問

平成23年7月30日（肝付町）

支援物資(現地購入)

仮設住宅集会所用掃除機32台、スリッパほか

掃除機を寄贈した応急仮設住宅一覧は⇒別紙11(P84)

平成23年7月30日～8月2日（肝付町）

肝付町・大船渡市青少年交流事業の実施

- 趣旨 本事業は、東日本大震災復興支援の一つとして取り組んでいる支援米づくりを通して、大船渡の青少年との交流を図る目的で、大船渡市の中学生20人を肝付町へ招待した。
- 協力 肝付町商工会 内之浦森林組合 JAXA内之浦宇宙空間観測所
町女性団体連絡協議会 二階堂屋敷かやぶき会 (株)ライジング
- 日程 7月30日(土)： 19:00 うちのうらロケット祭り参加
7月31日(日)： 9:00 支援米の稲刈り
13:30 水ロケット作り
17:00 ホームステイ
8月1日(月)： 9:00 内之浦宇宙空間観測所見学
13:30 町内郷土めぐり
19:30 天体観測
8月2日(火)： 7:30 お別れ会

ロケット祭りの会場では舞台にあがり、事前に大船渡市の中学生が来ることを知っていた地域の方々が拍手喝采で歓迎した。また、大船渡市の中学生を代表し、赤崎中学校3年の千葉美乃里さんがお礼の言葉を述べ、会場では被災地の現状と感謝の言葉を聞き、涙を流す方、激励の言葉を投げかける方であふれた。



ロケット祭りのステージ上で紹介されました



郷土めぐりでは生まれて初めてブドウ狩りを体験しました

ロケット祭りにおける千葉さんのお礼の言葉

肝付町のみなさま、この度は私たちを20名もお招きいただき、本当にありがとうございました。みなさまのご厚意によって、岩手大船渡から遠く離れた鹿児島島の肝付町に訪れることができました。まさか、こんなところに来ることができるとは思いません、夢のような気持ちです。

大震災の直後には、長年通った小学校やあの時、勉強していた中学校、そして自分の家と見慣れた町の景色も津波によって流されてしまいました。

仮設住宅での生活や校舎を間借りしての学校生活では、まだまだ大変なこと、不便なことも多くあります。そして、なかなか片付かないガレキの山など、心配事はなかなか減っていきませんが、多くの人々に支えられているからこそ、こうしてこの場に立つことができます。

肝付町の方々は震災直後の3月16日には、3日もかけていち早く支援においでくださいました。肝付町という名前が入った給水車や車が震災直後の大船渡の町を走っていたのを何度も見かけました。本当にありがとうございました。私たちは、この3泊4日の旅を楽しんでいきたいと思えます。

※肝付町・大船渡市青少年交流事業の参加者名簿及びホームステイしたお宅は⇒別紙12(P85)

平成23年7月31日及び8月3日（肝付町）

復興支援米の稲刈り

（内之浦地区）：7月31日

内之浦中生徒50人と大船渡の中学生が鎌を手に約1時間半かけ、真夏の稲刈り体験を行った。

大船渡市立日頃市中3年の伊藤君は「岩手では10月頃の涼しい時期の稲刈りだから暑かった。でも一緒に交流ができてうれしい」と話した。



岩手では考えられない暑さでした

（高山地区）：8月3日

高山中と国見中の生徒40人が参加し、稲刈りが行われた。

国見中2年の木村君は「大船渡の生徒たちにおいしく食べてもらいたい」と話した。

平成23年8月1日～8日（4市5町）

第23次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	税務課	主査	篠原大樹
2	曾於市	財政課	参事補	佐澤英明
3	志布志市	松山支所地域振興課	係長	山下博文
4	東串良町	総務課	主査	楠田裕樹
5	大崎町	社会教育課	主事	假水公司
6	鹿屋市	健康保険課	保健師	和田末子
7	鹿屋市	健康増進課	保健師	一松智子

平成23年8月3日～8日（鹿屋西RC）2011大船渡三陸フットボールクラブ・シーガルを大隅半島へ招待

鹿屋西ロータリークラブ主催

団員24名(5、6年生)、指導者・父母4名

8月3日：大船渡市 6:00発～新幹線・ANA～18:00鹿屋体育大学着 (鹿屋体育大学合宿所泊)

4日：鹿屋市役所・肝付町役場表敬訪問～内之浦宇宙空間観測所見学～練習試合 (合宿所泊)

5日：垂水市役所表敬訪問～桜島周遊～猿ヶ城溪谷見学～体大生によるサッカー実技指導

(国立大隅青少年自然の家泊)

6日：自然の家にて創作活動～鹿屋航空基地見学～体大生によるサッカー実技指導 (ホームステイ)

7日：神川大滝公園見学～奥花瀬(マス釣り・カブトムシ捕り)～練習試合 (カピックセンター泊)

8日：鹿児島空港 10:10発ANA

平成23年8月3日～13日（4市5町）第11次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	主査	今井雄樹

平成23年8月7日～14日（4市5町）第24次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	曾於市	総務課	係長	笠野満
2	南大隅町	経済課	主幹	上大川秋広
3	肝付町	税務課	主査	伊倉公一
4	垂水市	社会教育課	課長	瀬角龍平
5	鹿屋市	健康増進課	技師	東聖子
6	志布志市	保健課	保健師	牧野みさ子
7	志布志市	保健課	保健師	大口真紀

平成23年8月9日（肝付町）支援米の発送・出発式

刈り取った支援米1.4トンを大船渡市に向け発送した。(復興支援米：10kg×144袋=14,400kg)

(出発式次第)

- 1 復興支援米について説明(農業振興課長)
- 2 復興支援米協力農家紹介(有村さん、冷水さん)
- 3 中学生代表メッセージ(内之浦中 吉松夏純さん)
- 4 復興支援米の積み込み(JA物流かごしま)



大切なお米をドライバーさんに託しました



現地で派遣職員が大船渡市長に手渡しました

復興支援米の配布先

学校給食施設名	配付数
猪川小学校	11袋
大船渡第一中学校	22袋
大船渡学校給食共同調理場(大船渡中)	32袋
大船渡北学校給食共同調理場(大船渡北小)	23袋
末崎学校給食共同調理場(末崎中)	16袋
立根学校給食共同調理場(立根小)	14袋
綾里学校給食共同調理場(綾里小)	10袋
越喜来学校給食共同調理場(越喜来小)	16袋
計	144袋



支援米は学校給食に使用されました

平成23年8月11日～21日（4市5町）

第12次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	総務課	主査	西迫雄太

平成23年8月13日～20日（4市5町）

第25次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	建設課	主幹	徳重茂治
2	肝付町	福祉課	主査	安藤良平
3	大崎町	保健福祉課	主任	福永浩二
4	曾於市	教育委員会	参事補	鶴田洋一
5	鹿屋市	道路建設課	主査	福元和之
6	錦江町	保健福祉課	保健師	船迫小百合
7	錦江町	保健福祉課	保健師	中島万喜

平成23年8月17日（4市5町）

支援物資発送

鹿児島部品（鹿屋市）による支援米の発送

※大船渡市内高齢者福祉施設への送付

各施設着：8月19日

地区	施設名	白米	送付先
大船渡町	ひまわり	3kg×36袋	大船渡市大船渡町字山馬越196
大船渡町	気仙苑	3kg×36袋	大船渡市大船渡町字山馬越188
猪川町	富美岡荘	3kg×36袋	大船渡市猪川町字富岡148
計		324kg	

平成23年8月19日～26日（4市5町）

第26次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	垂水市	税務課	主事補	水元 司
2	鹿屋市	税務課	主任主事	松元 三郎
3	錦江町	建設課	副主幹	笹貫 新一郎
4	南大隅町	教育委員会	主事補	黒瀬 謙太
5	東串良町	福祉課	保健師	小林 真紀子
6	鹿屋市	健康増進課	保健師	西方 成子

平成23年8月19日～29日（4市5町）

第13次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	教育総務課	課長	迫 良己

平成23年8月24日（4市5町）

鹿児島県議会総務委員会行政視察

委員長 堀之内 芳平さんほか8名

4市5町の支援活動状況を報告

平成23年8月25日～9月1日（4市5町）

第27次隊職員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	総務課	課長補佐	堂園 尚作
2	東串良町	住民課	係長	原口 芳光
3	大崎町	税務課	主事	児玉 卓治
4	曾於市	経済課	主任	梅木 康
5	垂水市	商工観光課	主任主事	迫田 和文
6	志布志市	総務課	係長	山本 政博
7	肝付町	健康増進課	保健師	松井 千穂
8	肝付町	健康増進課	保健師	米盛 智子

平成23年8月25日（4市5町）

支援物資（現地購入）

猪川地区公民館へ宿舍借用のお礼として記念品（デスクトップパソコン1台）を贈る。

平成23年8月26日（4市5町）

支援物資発送 南大隅町による支援米の発送

支援米の配布先

学校給食施設名	配付数
猪川小学校	60kg
大船渡第一中学校	60kg
大船渡学校給食共同調理場（大船渡中）	60kg
大船渡北学校給食共同調理場（大船渡北小）	60kg
末崎学校給食共同調理場（末崎中）	60kg
立根学校給食共同調理場（立根小）	60kg
綾里学校給食共同調理場（綾里小）	60kg
越喜来学校給食共同調理場（越喜来小）	60kg
計	480kg

平成23年8月29日～31日（4市5町）

派遣終了に伴う特別派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町		副町長	坂元 秀明
2	南大隅町		副町長	角園 健二
3	錦江町	総務課	管理監	原澤 幸朗
4	鹿屋市	吾平支所	市民生活課長	本村 和明

平成23年8月27日～9月3日（4市5町）

第14次現地支援本部員派遣

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	総務課	課長補佐	永野 秀明
2	肝付町	教育総務課	係長	前原 俊郎

平成23年8月27～28日（肝付町）

「第9回内之浦えっがね祭り」銀河連邦物産展の開催

大船渡市職員が来国し、特産品の販売を通して「元気な大船渡」をPRされた。

	市町名	所属	職名	氏名
1	大船渡市	活力推進課	係長	金野 優子
2	大船渡市	商工観光物産課	係長	伊勢 徳雄

※販売品目：

(大船渡市) かもめの玉子、さんまハンバーグ、
塩蔵わかめ ほか

(佐久市) プルーン

(大樹町) ハスカップジャム、チーズムース ほか

(能代市) 檜山納豆、ようかん ほか

(相模原市) 丹沢あんぱん、りんごパイ ほか



「大船渡は元気です」をアピール

平成23年8月30日（肝付町）

岸良小学校生徒による千羽鶴の贈呈

合同授業を行っている越喜来小、崎浜小、甫嶺小へ

平成23年8月30日（4市5町）

猪川地区住民との「感謝とお別れの会」開催

(参加者) 4市5町支援チーム 坂元 秀明肝付町副町長ほか13名

大船渡市活力推進課 千葉 博世課長補佐ほか3名

猪川地区住民 金野 哲夫館長ほか28名 計47名

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------------|
| 1 開会 | 猪川地区公民館副運営委員長 | 千葉 諭 |
| 2 主催者あいさつ | 猪川地区公民館長 | 金野 哲夫 |
| 3 あいさつ | 大船渡市長 | 代理：千葉 博世 活力推進課長補佐 |
| 4 記念品贈呈 | 猪川地区公民館長 | 金野 哲夫 |
| 5 あいさつ | 肝付町長 | 代理：坂元 秀明 副町長 |
| | 南大隅町長 | 代理：角園 健二 副町長 |
| 6 乾杯 | 猪川地区公民館運営委員長 | 今野 富次男 |
| 7 懇親 | 派遣隊員及び4市5町特産品紹介 | 永野 秀明 現地支援本部員 |
| 8 中締め | 猪川地区老人クラブ連合会長 | 胡口 昭二郎 |
| 9 閉会 | 猪川町婦人会長 | 田村 しづ子 |



お世話になった猪川地区公民館長のごあいさつ



たくさんの住民の方が参加してくださいました



みんな輪になって「大船渡音頭」を踊りました



無償で宿舎を提供してくださりありがとうございました

平成23年8月31日（肝付町）

支援物資（現地購入）及びテント・ミシンの寄贈式（綾里小学校）

テントの寄贈（綾里小2、大船渡小2、赤崎小2、越喜来小2、赤崎中4 計12張）

ミシンの寄贈（綾里小10台）



6年生のみなさんとテント、ミシンの前で記念撮影



6年生の児童会長 澤くんが
お礼の作文を読んでくれました

テント、ミシンの寄贈式で6年生の児童会長の澤 大和（さわ だいと）くんが読んでくれたお礼の作文

肝付町の方々へ

3月11日、東日本大震災で津波が来たとき、綾里小学校の児童は全員避難することができました。でも、綾里小学校の校庭はたくさんのがれきにおおわれ、校舎の中には水が入りました。おうちの方々、地域の人たちのがれきの撤去や校舎に入った泥をとってもらいました。おかげで今では、みんなが校庭で楽しく遊べるようになったり、校舎で勉強をしたりすることができるようになりました。1学期にはスポーツカーニバルもすることができました。

今日は鹿児島県の肝付町という遠いところからわざわざ僕たちのためにお越しくださってありがとうございます。いただいたテントとミシンは行事や学習に大切にに使わせていただきます。本当にありがとうございました。

※綾里小学校の生徒からいただいた手紙は⇒別紙13(P86)

平成23年9月3日（4市5町）

派遣ワゴン車帰着

派遣活動中に活躍したワゴン車が最後の派遣隊員となった永野秀明、前原俊郎、堂園尚作の運転により2日半かけ、大船渡市から陸路で帰ってきた。（距離2,000km 実運転時間30時間）

平成23年9月5日（4市5町）

支援チーム職員派遣終了セレモニー

於 鹿屋市役所前広場

震災から約半年経過し、短期集中の職員派遣による支援は一応の目処がついたとして、いったん派遣は終了する。ただし、4市5町復興支援チームは解散せず、今後、大船渡市から要請があればすぐに対応できるよう、体制は残しておく。

(派遣終了セレモニー)

- 1 ワゴン車、給水車の入場
- 2 最終派遣隊員へ花束贈呈
- 3 帰還報告(最終隊員：肝付町 永野秀明)
- 4 復興支援チーム会長あいさつ(鹿屋市長)
- 5 復興支援チーム副会長あいさつ(肝付町長)
- 6 派遣隊員代表あいさつ(曾於市：宇都順久)
- 7 大船渡市への応援メッセージ(志布志市長)



これからも絆は続いていきます

平成23年9月20日（4市5町）

第4回4市5町首長会議の開催

於 鹿屋市役所

- 1 負担金の精算処理等について……23年度末で精算する。
- 2 今後の対応について……支援要請があった時点で検討する。

※職員の派遣実績

(単位:人)

市町名	一般職・保健師 派遣者数	現地支援本部 派遣者数	肝付町単独 (3月14～27日)	計
鹿屋市	35	4		39
垂水市	24			24
曾於市	27			27
志布志市	24			24
大崎町	23			23
東串良町	8			8
錦江町	23			23
南大隅町	21			21
肝付町	35	17	15	67
計	220	21	15	256

※うち保健師人員 30名。うち保健師を除く女性の人員 10名。

※復興支援チーム負担金収支精算書は⇒別紙14(P87)

平成23年9月23日（肝付町）

「三陸・大船渡東京タワーさんままつり」への参加

このさんままつりは、高さ333mを誇る東京タワーや三陸海岸といった「さん」のつながりを生かし、大船渡産さんまを首都圏にPRしようと一昨年から開催されている。

大船渡市は、東日本大震災で沿岸部に位置する水産加工業者や観光施設が甚大な被害を受け、一時は本イベント開催を見送らざるを得ない事態であったが、「大船渡の元気な姿を見てほしい」、「大船渡の復興を進めたい」という強い思いが開催を後押しした。

本町では大船渡市実行委員会の要請により、辺塚だいたい生果と加工品を提供するとともに職員2名を派遣し、さんま炭火焼き3,333尾の1パックごとに辺塚だいたい1/4カットを添えて、肝付町特産品としてPRを行った。このイベントには12,000人（主催者発表）もの人々が訪れ、さんまの炭火焼きを待つお客さんが東京タワーを1周するほどの行列（最大4時間待ち）ができ、大盛況だった。

炭火焼きさんまを食べたお客さんが、辺塚だいたいジュースをおいしそうに飲んでいる姿を見かけられた。また本来、市場には流通していない辺塚だいたいの生果を3個100円で販売したところ、大変好評であり、今後のだいたいや関連商品の販売のヒントになった。



辺塚だいたいと炭火焼きさんまは相性バツグン

※参加職員

	市町名	所属	職名	氏名
1	肝付町	企画調整課	主査	伊地知 貞行
2	肝付町	農業振興課	主査	小西 志典

※提供品

	品名	規格	数量	内容	備考
1	辺塚だいたい	kg	850	さんまの付け添えとして提供	購入して無償提供
2	ドレッシング	本	4	辺塚だいたい使用特産品としてPR	曙グループから提供
3	だいたいジュース	本	30	辺塚だいたい使用特産品としてPR	JA支所から提供

※販売品

	品名	規格	数量	販売価格	販売金額	備考
1	辺塚だいたい	3個入	134	100円	13,400円	午後1時40分に完売
2	だいたいジュース	本	60	100円	6,000円	午後0時5分に完売
3	だいたい白いポン酢	150ml	14	200円	2,800円	午後0時20分に完売
3	だいたいいつものポン酢	200ml	14	250円	3,500円	午後1時20分に完売

送付した辺塚だいたい 123kg

平成23年9月23～25日（肝付町）

「肝付フレンズ」大船渡被災地支援活動

「一緒に笑って笑顔をいっぱい」を目的に、肝付フレンズのメンバーが大船渡市の介護老人保健施設での長巻寿司づくり、障害児通所施設及び地域密着ケアホームでの積み木ワークショップ、旧三陸町崎浜地区の一人暮らしのお年寄り訪問活動等を行った。（さわやか福祉財団支援事業）

肝付フレンズとは、肝付町社会福祉協議会が事務局を務める中高生ボランティア「サラボラクラブ」とそれを支援する大人のボランティアで構成される団体。（参加者 小学生1名、高校生5名、大人6名）

～サタボラメンバーの感想～

「大船渡の人はみんな温かい人ばかりだなあ。」それが私の第一印象でした。岩手に着いた日に老人施設で長巻寿司を作りました。私たちはそのお手伝いをさせてもらいました。崩れたりしましたが、みんなで力を合わせて作った巻き寿司はすごくおいしかったです。その後、利用者の方と会話をしているときに、震災の話が出ました。涙を必死にこらえながら話してくださいました。手を握り、聞くことしかできませんでしたが、そこから得るものはたくさんありました。自分たちのことで精一杯なはずなのに、鹿児島から来た私たちに「疲れたでしょ」と気づかせてくださいました。

東北の方々の強さと暖かさに触れました。岩手に行き、自分の目で見て感じたことを自分の中だけにしまっておくのではなくて多くの人に伝えていきたいです。

（尚志館高校看護学科3年 山之口聡子さん）

※肝付フレンズ支援活動参加者名簿は⇒別紙15(P88)



障害児通所施設で積み木ワークショップの交流

平成23年9月25日（肝付町）

「肝付フェスタ」チャリティライブ&バーベキュー大会

昨年、口蹄疫の発生で数々のイベントが中止となり、「活気を失っている商店街をよみがえらせよう」という思いと、同じく大災害に見舞われた大船渡市への支援の思いを胸に、肝付町商工会がチャリティイベントを開催した。集まったお金は大船渡市への義援金として町へ託された。

平成23年10月28日（4市5町）

第6回4市5町総務課長会議 於 肝付町役場

- 1 大隅半島4市5町災害時における相互応援並びに友達の友達応援に関する協定について
……趣旨は理解したが、友好都市を持つ市町が少ないので、持ち帰って検討する。
- 2 その他
……派遣職員有志による大船渡市への桜植樹募金の実施について、各市町職員に呼びかけることを承認

平成23年11月26～29日（肝付町）

うちのうら銀河マラソンへ大船渡市老人クラブを招待

参加者：大船渡市老連会長 中村 中さんほか10名

日 程： 11月26日（土）……肝付町着（コスモピア内之浦泊）

11月27日(日)……第25回うちのうら銀河マラソン大会参加 太陽コース(1.1km)

銀河マラソン懇親会への参加 (コスモピア内之浦泊)

11月28日(月)……内之浦宇宙空間観測所見学

国見山ウインドファーム見学

肝付町老連とグラウンドゴルフ交流

懇親会への参加(高山やぶさめ館泊)

※1.1kmのコースに参加した老人クラブのみなさんは、思い思いのペースで内之浦路を走り、復興への強いアピールと支援への感謝の思いを込めた力走を見せ、村上キミ子さん(72歳)、高橋庸充さん(70歳)が、65歳以上の部で2位になられた。

村上さんは「内之浦は大船渡と景色が似ていて気持ちよく走れた」、高橋さんは「みなさんの支援があったからこそ今走ることができる。感謝感謝感謝の思いで走った。」と話された。



元気な姿を見せてくださいました

平成23年12月8日(肝付町)

肝付町社会福祉大会へ大船渡市から「気仙ボケー座」が参加

肝付町社会福祉大会へ大船渡市の認知症専門施設職員が中心となって作る、ボランティア劇団「気仙ボケー座」が特別参加。認知症への理解を深めるため、認知症の代表的な3つの事例を演じられた。

幕間には大船渡市長からの親書も紹介され、震災支援に対してのお礼や復旧・復興に向けての力強い決意が宣言された。



ボランティア劇団「気仙ボケー座」のみなさんの「広げよう！認知症への理解」と題した寸劇

平成23年12月10～28日(4市5町)

大船渡市復興祈念 桜植樹募金活動の実施

寄附金額

市町名	金額	市町名	金額
鹿屋市	188,534	東串良町	79,000
垂水市	193,000	錦江町	135,992
曾於市	316,765	南大隅町	101,289
志布志市	267,483	肝付町	182,615
大崎町	81,153	計	1,545,831

この寄附金をもとに苗木代、植樹費用、記念標柱代をまかない、猪川地区総合運動公園建設予定地に24年3月に植樹予定。

※桜植樹募金の趣意書は⇒別紙16(P89)

平成24年3月7日（4市5町）

肝属地区花き振興会による東日本大震災追悼式への切り花贈呈

3月11日の東日本大震災1周年に対し、いまだ心の傷の癒えない大勢の方を励ますため、肝属地区花き振興会員の心を込めた切り花を贈った。

肝属地区花き振興会は、鹿屋市、串良町、吾平町、南大隅町、JA垂水地区の各花き振興会で構成。

花は輪ギク、スプレーギク、バラ、ユリなど14種類約4500本。3月11日に開催される追悼式に参列する遺族らに配られる。

花を用意したのは肝属地区花き振興会の生産者51人や鹿児島中央青果鹿屋支店と第一鹿屋青果地方卸売市場に出入りする生花店など計78団体。花は生産者等の無償提供で、送料は花き振興会が負担した。

送付先：大船渡市民文化会館(リアスホール)

花出発式：平成24年3月7日 午後3時～。 3月9日に大船渡市へ到着予定。



どうぞ心を癒してください

平成24年3月11日（4市5町）

東日本大震災追悼式への生花贈呈

大船渡市で行われる追悼式へ鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム名で生花のフラワースタンドを贈呈。経費2万円(負担金で支出)。

注文先：未生苑(みしょうえん) 大船渡市盛町



リアスホールエントランスに飾られました

平成24年3月31日（肝付町）

支援物資(現地購入)

「大船渡地区環境衛生組合」へ公用車の寄贈

上記組合は大船渡市と住田町が設立したゴミ処理に係る一部事務組合。

車種：スズキSX4 金額：1,950,000円



後部の両ドアに上記マーク入り

○ 支援活動の内容

※物資管理作業

全国から送られてくる救援物資を指定された場所で管理し、要請に応じ、搬出作業を行う自衛隊等に渡す。

3月末までは大船渡市役所地下倉庫で業務していたが、4月からは大船渡市内に6箇所ある物資の拠点施設の一つ立根小学校体育館の物資管理を全面的に任せられ、4市5町の職員のほか、ボランティアを指示して物資別に管理し、物流の流れを作った。

(作業概要)

- 1 午前7時、市保健福祉課との打ち合わせ
 - ・当日の配送計画を受け取り、内容を確認する。
 - ・搬入予定を確認する。
 - ・携帯電話及び体育館の鍵を受け取る。
- 2 物資の受け入れ
 - ・物資の受け入れについては、搬入計画以外の物も多い。
 - ・搬入物を分類し、所定の位置に納める。
- 3 物資の仕分け
 - ・迅速かつ効率的に被災者に物資を届けるため、仕分けを行う。(衣類の場合は男女、サイズ、品目別など)
- 4 物資の搬出
 - ・物資の搬出については、配送計画により行う。(自衛隊及び市の委託業者が行う。)
 - ・個人で物資を受け取りにきた場合は、証明書(救援物資が必要である世帯)の提示が必要である。
- 5 在庫確認
 - ・毎日、在庫確認を行う。
 - ・在庫リストにより、次の配送計画が決まるので、数量の確認には注意が必要。
- 6 報告
 - ・在庫リスト、携帯電話、体育館の鍵をもって、市保健福祉課に報告する。
- 7 その他
 - ・鍵の管理や火の元には十分注意すること。
 - ・支援物資を許可なく使用又は飲食しないこと。
 - ・基本的には従事時間は午後5時まで。

(留意事項:後日談)

○衣類については、「新品かクリーニング済み」のものに限るとした方がよい。善意はありがたいが、中には「衣替えの時期」にあわせたように、中古品が集積し、最後まで引き取り手がなく、残った。

(日本人の“もったいない”感覚はすばらしいが、汚れたままのもの、キズ物も大量に集まった。)

○下着類は、「新品、性別、サイズ別」に分類して送る必要がある。

※大船渡市における物資集積場等一覧は⇒別紙17(P90)



ボランティアの方々との打ち合わせの様子

※給水作業

被災後、大船渡市各地で断水状態になり、自衛隊の給水車や全国から派遣された給水車とともに市内各地で給水活動を行った。市内で唯一、被災を免れた浄水場から水を汲み、避難所の給水タンクに注水したり、市水道課から指定された箇所ではバケツやペットボトルを持参される市民に給水を行った。この活動は断水状態が解消された5月末まで実施した。

(作業概要)

- 1 午前8時、市水道事業所で当日の給水箇所について指示を受けるとともに給水状況の報告書等を受け取る。
- 2 給水作業が終了したら、報告書を記入し、市水道事業所に報告する。
- 3 その他
 - ・給水車は水を満載しているときは横滑りをしやすいので、運転には細心の注意を。
 - ・事故防止のため、必ず車止めを装着してから作業を行うこと。
 - ・洗車については、水道事業所に相談し、市役所の洗車機を借用すること。
 - ・傾斜地では満水時に上部のふたを開けると水がこぼれ落ちるので注意すること。
 - ・圧送するときには、ホースが折れないように注意すること。

※給水予定表及び給水状況記録表は⇒別紙18-1、18-2(P91、92)



重たい水を運んであげたいのですが人手不足です

※廃車管理(警備)作業

津波で被災した車が集積された車両保管所の管理を4月10日から任された。動かない車といえども財産権があるため、一般のゴミのように廃棄物として勝手に処分することができない。車両のナンバープレートなどを公表して所有者の特定を進める必要がある。

集められた被災車両は3,000台を超え、多くの市民が自分の車を探しに来る。5月30日より車両の引渡し及び廃車手続が始まった。

(作業概要)

- 1 午前8時30分に市建設課に行き、打ち合わせ後、記録誌等を預かる。
- 2 現場へ移動し、門の入り口で来場者の確認(免許証等)を行う。
- 3 警備が終了したら、市建設課へ報告に行く。従事時間は午後4時まで。
- 4 その他
 - ・現場は、天候により過酷な状況もあるので、天候に合わせた対策を講じること。
 - ・ほこりや臭い対策のため、必ずマスクを着用すること。
 - ・事務所がないため、雨天の場合や昼食等については、公用車を利用すること。
 - ・昼食は持参すること。また海辺での任務になるため、地震や津波には十分注意すること。

※被災した自動車の引き渡し及び処理については⇒別紙19(P93)



廃車の中に思い出の品が残っている場合も

※支援金等申請関係事務

支援金には、生活再建資金、災害義援金・弔慰金、障害見舞金の支給のほか、災害援護資金の貸付があった。

他市町の職員と共同して下記の作業を行った。

(作業概要)

- ①受付班……申請者に受給要件があるかを把握
- ②審査班……戸籍の確認や書類の審査を行う
- ③保留解除班……不備のあった書類について申請者と連絡をとり、再提出を求める
- ④支払審査班……最終的な支払いの審査を行う
- ⑤貸付班……貸付についての書類審査を行う

※支援金等の資格要件チェックシートは⇒別紙20(P94)



困っている方に少しでも役立ちたい思いでした

※保健師活動

仮設住宅や避難所を保健師が巡回し、健康状態の確認などを行った。健康管理票の回収や避難所、仮設住宅に入居された被災者への面談が主な業務であった。

特にPTSDの兆候がある方には時間をかけたカウンセリングと心のケアに留意した。

※保健活動実施報告書は⇒別紙21(P95)



一人暮らしの高齢者が心配でした

※現地支援本部事務

派遣された職員は上記の事務に従事するため、大船渡市役所や被災者が実際にどんな支援を必要としているのか把握できない。そのため、通常業務を行う職員とは別に現地支援本部員が1～2名常駐し、避難所等を巡回しながら、いま必要とされているものは何かを調査し、的確な支援活動につなげた。

また、派遣隊員の任務分担(給水、物資、廃車管理等)を決定したり、隊員を空港や駅から大船渡市まで送迎する業務も大きな仕事であった。

※復興支援現地本部日誌は⇒別紙22(P96)

4/8 南日

長期支援へ職員常駐

東日本大震災の被災地、岩手県大船渡市に職員を派遣している大隅半島4市5町の復興支援チームは、長期的な支援と現地の要望に添った効果的援助を行うため、職員を常駐させる復興現地支援本部を11日、設置する。

**大隅半島
4市5町**

大船渡市役所内に設け、2人が約20日間交代で常駐する。物資の仕分けや給水作業に当たり、1週間程度で交代してきた6人一組の支援隊は9人に増やし、態勢を強化する。

支援本部は看護師や建築師など現地が必要とする人材情報や、援助物資の要望を継続的に集約。行政事務も代行し、避難や疎開、雇用先などの意向調査をする。5月末まで設置し、6月以降は状況を見て判断する。同市と災害時相互応援協定を結んでいる肝付町が長期的支援のあり方を協議し、大隅の4市5町が本部設置で合意。常駐する職員2人は6日出発した。

大船渡に本部、「ニーズに対応」

鹿屋市の深水俊彦総務課長は「現地の要望は日ごとに変わる。職員がつかんだ実態や情報をもとにニーズに応えたい」と話した。

H23. 4. 8 南日本新聞

○ 災害対応において大船渡市役所各部が担った主な事務

(注)この資料は、あくまで4市5町復興現地支援本部が現地調査及び聞き取りにより独自に作成したもので、大船渡市が公表したものではありません。これ以外にも多くの業務があったものと思われます。

担当部	震災対応業務
<p style="text-align: center;">総務部</p> <p>(主に避難所に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 総務課 * 防災管理室 * 財政課 * 税務課 * 選挙管理委員会 * 監査委員事務局 * 会計課 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総括 ○ 被害状況等の情報収集及び広報(記者会見、<u>避難所への広報等</u>) ○ 自衛隊・消防署・消防団・海上保安庁・<u>外国軍隊等</u>の関係機関との連絡調整及び受入れ (警察は岩手県警が調整・受入れ) ○ 避難所への物資配送、被害状況調査等のための公用車の確保・管理及び公用車の<u>燃料調達</u> ○ <u>お米の調達</u> (食糧調達は生活福祉部の担当。ただし、震災直後は総務部が一時的に分担した。) ○ 避難所、火葬場等の<u>燃料調達</u> ○ 被災者への<u>お風呂調達</u> (自衛隊への要請、水の確保、移動手段の確保等) ○ 義援金、災害見舞金の出納保管 ○ 応急対策予算の確保 ○ 応急対策工事の請負契約 ○ 緊急救助費用の経理 ○ 人的・住家等被害状況調査及び罹災証明書等の発行 ○ 被災納税者対応事務 ○ 職員体制の編成及び他自治体への職員派遣要請と受入れ
<p style="text-align: center;">企画政策部</p> <p>(主に他自治体受入れに関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 企画調整課 * 活力推進課 * 秘書広聴課 * 議会事務局 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自衛隊への災害派遣要請 ○ <u>他自治体及びボランティア等の支援受入れ、物資要請・調達等</u> (主に銀河連邦及び銀河連邦関係自治体) ○ 他自治体からの被災者受入れ広報及び調整(一時避難、一時移住) ○ 被害状況等の情報収集及び広報(記者会見、<u>避難所への広報等</u>) ○ し尿処理対応 (気仙広域連合衛生処理組合事務所が被災したため、企画製作部内にて事務処理を行った。) ○ ふるさと納税の出納保管 ○ 安否確認問い合わせ対応

アンダーラインは特筆すべきと思われる事項

担当部	震災対応業務
<p>生活福祉部</p> <p>(主に物資、医療及び保健 遺体の火葬、市民相談、 ボランティア受入れに 関すること)</p> <p>* 市民生活環境課 * 国保年金課 * 保健福祉課 * 福祉事務所 * 農業委員会事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>物資の要請・調達・配送</u> (特に避難所の食事については、震災発生直後から7月11日までおにぎりの炊き出しを行った。3月20日から朝食にパン、昼食と夕食におにぎりを提供。7月12日から8月28日の避難所閉鎖までは朝食にパン、昼食と夕食に弁当を提供した。) ○ <u>物資集積所の管理</u> (銀河連邦による相模原市、能代市、大隅半島4市5町復興支援チームが一部の運営を担った。) ○ <u>医療支援の要請・受入れ</u> ○ <u>保健支援の要請・受入れ</u> ○ <u>遺体安置所の管理、火葬事務等</u> ○ <u>市民相談対応</u> (被災者支援関連、相続、住宅、金融等の前例のない多種多様なもの) →4月からは全庁体制へ移行 ○ <u>ゴミ収集等</u> ○ 避難所名簿作成 ○ 安否確認問い合わせ対応 ○ <u>災害義援金の配分</u> ○ <u>ボランティアの受入れ</u> (大船渡市社会福祉協議会がボランティアセンターを運営管理)
<p>商工観光部</p> <p>(主に雇用、交通、通信、 仮設施設に関すること)</p> <p>* 商工観光物産課 * 港湾経済課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>商工業者等の被害状況調査及び災害融資等の復旧復興対応</u> ○ <u>交通・通信の確保</u>(バス路線調整等) ○ 船舶ほか港湾等の被害状況調査及び復旧復興対応 ○ 鉄道の被害状況調査及び復旧復興対応 ○ 観光施設の被害状況調査及び復旧復興対応 ○ <u>仮設施設(作業所・店舗等)の用地確保、建設調整、戸数集約、入居調整</u>
<p>農林水産部</p> <p>(主に漁業復興対策と 漁港修復に関すること)</p> <p>* 農林課 * 水産課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>農林水産業関係の被害状況調査及び復旧復興対応</u> ○ <u>漁港修復</u>(市内全域)

アンダーラインは特筆すべきと思われる事項

担当部	震災対応業務
<p>都市整備部</p> <p>(主にガレキ撤去及び応急仮設住宅入居に関すること)</p> <p>*建設課 *都市計画課 *下水道事業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>ガレキ撤去計画、業者との連携調整・実施</u> (被災者向けの雇用創出を含む。) ○ <u>被災車両の管理</u> (大隅半島4市5町復興支援チームが管理運営) ○ 道路・河川・橋梁・公営住宅・下水道施設等の被害状況調査及び復旧復興対応 ○ <u>応急仮設住宅の用地確保、建設調整、戸数集約、入居調整</u> ○ <u>下水道施設の応急復旧及び簡易処理</u> (24年1月には生物処理復旧、管渠も重要な幹線部分は対応終了)
<p>教育対策部</p> <p>(主に幼稚園・保育園及び小・中学校の再開、運営に関すること)</p> <p>*教育委員会事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育施設の被害状況調査及び復旧復興対応 ○ <u>被災学校の移転先確保、交通確保、幼稚園・保育園及び小・中学校の再開、運営</u> ○ 教育関係物資の受入れ、留学等の支援受入れ ○ 小・中学校の給食用原材料等の確保
<p>三陸支所部</p> <p>(主に越喜来地区避難所の管理運営に関すること)</p> <p>*支所総務課、支所農林課 *支所保健福祉課、 *支所水産課、支所建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 越喜来地区避難所の管理運営 (食糧等の物資確保・配給、避難者の医療・保健・衛生等の日常生活に係わる全て) ○ 主に沿岸地区本部の一つとして避難所の管理運営、復旧復興対応及び本庁との連絡調整
<p>水道部</p> <p>(主に飲料水の確保、上水道施設の復旧復興対応に関すること)</p> <p>*水道事業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>飲料水の確保</u> (業務のほとんどを(社)日本水道協会による全国自治体からの給水車及び銀河連邦による能代市、大隅半島4市5町復興支援チームの給水車が担当した。) ○ <u>上水道施設の復旧復興対応</u>
<p>沿岸地区本部</p> <p>(主に避難所運営に関すること)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難所運営 (食糧等の物資確保・配給、避難者の医療・保健・衛生等の日常生活に係わる全て) <p>地区本部……盛、大船渡、末崎、赤崎、蛸ノ浦、 三陸町綾里、三陸町越喜来、三陸町吉浜</p>

アンダーラインは特筆すべきと思われる事項

○ 大船渡市における震災後の対応状況

(注)この資料は、あくまで4市5町復興現地支援本部が現地調査及び聞き取りにより独自に作成したもので、大船渡市が公表したものではありません。

§ 防災用資機材の備蓄について

- * 備蓄品……毛布、発電機、ストーブ、救急用品など。水や食糧の備蓄はなかった。
- * 備蓄場所……市内の公民館、小中学校等
- * 本震災による津波で使用不能となった備蓄品はない。

§ 救援物資について

- * 出入りの多い小中学校の集積所は、応援市町の職員を配備し、受入れ・管理・払出作業を依頼した。
(1施設あたり応援職員4、5人とボランティア10数人で対応した。)
- * 物資の搬出は、3月15日から自衛隊に配送を依頼。あわせて県がクロネコヤマトに委託。
クロネコヤマトは細い路地の多い地区、自衛隊は道路の広い地区の搬送を主に行った。

§ 自主防災組織について

- * 132の行政区域のうち、97の区域で結成されていた。(結成率73.5%)

§ 防災本部である市役所の被災状況・通信確保について

- * 市役所は高台にあり、津波等の大きな被害はなかった。
- * 停電のため、発電機を使い、防災無線や衛星携帯電話の電源を確保した。
- * 県との連絡については、地域衛星通信ネットワークを使用し、通信できた。
- * 携帯電話が一部使用できるようになったのは、3月20日から。完全復旧は5月3日。

§ 避難状況の確認について

- * 職員が避難所に出向いて確認した。
- * 指定避難所以外の避難所が多数開設された。
- * 避難者数、避難所数については、発災当日の夜には概数を把握できた。

§ 被災者への物資の提供について

- * 発災直後は、食糧や水を供給できなかった。
- * 発災2、3日後には市内の民間企業から提供を受けたり、職員が奥州市に出向き、米を調達し、おにぎりの炊き出しを行った。
- * 毛布については、各地区に保管されていた分でまかなえた。
- * 3月16日には県からの救援物資が到着した。
- * 発災1週間後には、毛布は1人1枚から2枚供給できるようになった。
- * 3月20日頃からはパンも届き、3食提供できるようになった。
- * 送られてくる物資については、基本的に全て受け入れていたが、終盤には古着は受け取らなかった。

§ 外部へのアクセスについて

- * 津波被害を受けなかった内陸部の市町村へのアクセス道路は、発災時以降も通行可能であった。陸前高田市と接続する道路は、市内の啓開作業が完了した3月13日には通行可能となった。
- * 各避難所への搬送ルートが確立したのは3月13日。
- * 道路啓開は、自衛隊が実施した。

§ 支援物資への対応について

- * もともと災害時の物資集積所として予定していた市民体育館は被災し、一部使用不能となった。今回は小中学校の体育館5ヶ所、公民館など別の場所を使用した。
- * 毛布だけ、水だけなど特定の物資専用の集積所として機能するところがあった。
- * 6月末に市民体育館、立根小学校、保健介護センターに物資を集約した。

§ 物資の調達について

- * 県に対しては頻繁に要望を出したが、県内広範囲で被害を受けたためか、発災直後はなかなか要望どおりには届かなかった。
- * 3月15日には災害支援協定を締結している銀河連邦の構成市町に食糧支援の要請を行った。
- * 民間企業に対しては、大船渡市からは物資支援の要請はしていない。

§ 物資の搬送・提供について

- * 避難所への搬送については、当初は1日2回、のちに1日1回行った。1日7台程度の車で実施した。
- * 市による炊き出しは、発災直後からおにぎりの炊き出しを実施した。(～7月11日まで)
- * 避難所以外の避難者については、3月28日から在宅避難者の調査を行い、順次、物資の供給を開始した。
- * 仮設住宅入居者に対しては、入居時に米、洗剤、トイレトペーパーを支給した。
- * 被災市民を対象に物資の無料配布会を5回実施した。延べ1万数千人が訪れた。

§ 避難所での運営・物資体制について

- * 大きな避難所のみ、職員が常駐した。具体的には市内の8地区本部と小中学校体育館の避難所は、市と自治会が共同で運営した。ほかの避難所は自治会が単独運営した。
- * 市内8つの地区本部長が避難者のニーズを聴取した。例えば、末崎地区本部長が同地区内にある避難所のニーズを聴取し、市役所へ要請。市役所から末崎地区本部を経由して、同地区内避難所及び避難者へ食糧等が届けられた。8つの地区本部→盛、大船渡、末崎、赤崎、蛸ノ浦、綾里、越喜来、吉浜

§ 余剰物資について

- * 毛布、水、簡易トイレ、乾パン等は今後備え、備蓄する。
- * 汚れていた中古衣類については、申し訳ないが廃棄処分したものもある。

§ その他

- * 在宅避難者の状況把握が難しく、全ての避難者に物資を届けられたか判断できない。
- * 炊き出しを行う場合、場所・人数・輸送手段の詳細な内容把握と訓練が必要である。
- * 大量の水や米を置いたため、重さで集積所の床が抜ける事態が発生した。集積場所にも注意が必要。

○ 本町に集まった義援金及びその用途の状況

がんばれ大船渡！！ 義援金集計状況

区 分	金 額	備 考
振 興 会	6,729,960	132振興会
個人・団体	6,093,297	81個人・団体
議会議員	160,000	全16人
町 職 員	1,391,000	257人(臨時職員を含む)
預金利息	727	
計	14,374,984	

※振興会からの義援金明細 (会長は当時)

(単位:円)

	振興会名	会長名	金額		振興会名	会長名	金額
1	飯ヶ谷	飯ヶ谷 秋 人	16,000	29	西丸岡	有 馬 一 徳	49,500
2	有明山下	山 下 満 雄	29,000	30	博労町	西之園 洋 三	29,000
3	仮 屋	山 下 易 美	32,000	31	本 町	原 田 健 一	80,000
4	西仮屋	仮 屋 寅 雄	21,000	32	中 町	俣 瀬 一 秋	38,000
5	一ッ松	一 松 豊 志	24,000	33	新 町	渡 口 昭 雄	26,000
6	柳井谷	下 福 忠 之	13,000	34	西新町	中 島 健 志	11,000
7	浦 町	岩 元 賢 明	33,500	35	八幡馬場	日 高 俊 治	70,000
8	波見下	宮 脇 勉	35,000	36	寺 町	前 元 成 六	72,500
9	轟	竹之下 實	40,000	37	寺町ヶ丘	松 下 敏	49,300
10	荒 瀬	竹 下 統	49,000	38	五社馬場	田 崎 組 也	74,000
11	平後園	東 輝 美	56,000	39	中馬場	長 峯 興 次	14,000
12	和 田	瀧之上 英 視	48,000	40	中 麓	原 口 孝	75,000
13	東大園	福 元 正 信	33,000	41	西 麓	室 園 正 一	63,000
14	西大園	池之上 嘉 立	21,000	42	神之市	二階堂 豊 明	30,000
15	上大園	新 西 一 則	5,000	43	長珠庵	内 倉 ハル子	27,000
16	上 原	豊 重 次 雄	32,000	44	中村園	永 吉 広 昭	21,000
17	安 野	黒 木 松 義	13,000	45	下永山	中 村 優	14,000
18	塚 崎	篠 崎 豊	38,000	46	三 反	林 興 一	36,000
19	津 曲	外 窪 弘 海	36,000	47	下住下	串 崎 秀 樹	62,900
20	水 窪	原 口 勝 行	21,000	48	菅 原	片野坂 元 男	42,000
21	池之園	富 永 洋 一	92,500	49	下住上	久木田 盛 夫	53,000
22	下之門	白 田 幸 子	44,000	50	福留町	永 野 昭 男	121,000
23	東横間	西 村 利 行	112,000	51	西之宮	太 田 光 治	16,000
24	西横間	山 川 忠 夫	92,900	52	新生町	吉 留 幸 夫	79,100
25	花牟礼	竹 山 雄 一	87,000	53	赤 池	山 下 正 敏	7,000
26	東 迫	福 元 勇 吉	103,000	54	栄 町	倉 岡 隆 男	20,000
27	東丸岡	立 石 泰 弘	46,000	55	坂 中	兼 氏 哲 郎	17,000
28	小 牧	有 野 純 夫	16,000	56	下西方	永 井 正 隆	64,500

※振興会からの義援金明細（会長は当時）

（単位：円）

	振興会名	会長名	金額		振興会名	会長名	金額
57	上西方	矢 神 純 久	78,000	95	小 串	小 串 かね子	28,000
58	旭が丘	堀 苑 明 久	55,000	96	檜 脇	愛 甲 隆 一	52,000
59	長能寺	平 田 盛 人	64,000	97	天 神	長 友 美智男	121,000
60	大 脇	宇 都 哲 郎	69,000	98	栢 木	永 井 信 行	135,000
61	上大脇	永 岡 英 広	32,000	99	平牟田	山 口 秀 夫	23,500
62	上之馬場1区	牧 謁 郎	130,060	100	津 房	福 迫 正 人	93,200
63	上之馬場2区	内 田 敬 一	107,000	101	坂 元	小手川 清 廣	40,000
64	上之馬場3区	坂 元 剛	36,000	102	馬 込	西 森 正	39,000
65	上之馬場4区	松 相 哲 子	80,000	103	赤木屋	有 馬 和 朗	24,000
66	西が丘	山 下 昭 男	154,000	104	江 平	用 貝 学	37,000
67	上之原	福 元 泰 光	88,500	105	乙 田	川 上 正 幸	69,500
68	稲 村	有 馬 則 雄	78,000	106	新 地	肥 後 耕 造	38,000
69	中 村	水 口 寅 儀	52,000	107	上 建	篠 原 勲	45,000
70	岩 崎	松 田 健 次	81,500	108	下 建	乙 田 傑	45,500
71	論 地	坂 本 敏	70,000	109	上 町	吉 原 正 秋	48,500
72	協 和	小 森 忍	22,000	110	仲 町	矢 野 和 人	50,000
73	谷山迫	吉 野 睦 夫	21,000	111	下 町	竹 井 美壽子	50,000
74	笹ヶ尾	中 村 昭 身	36,000	112	浜 崎	丸 山 節 子	53,000
75	鳥 越	梶 原 明 春	67,000	113	上 向	加 藤 悦 孝	70,000
76	大 窪	福 山 次 夫	35,000	114	川 路	竹 迫 邦 弘	57,000
77	永 野	園 田 雄 二	48,800	115	大平見	榮 樂 善 秀	80,500
78	後田西山下	川 野 正 裕	39,000	116	侍 金	上温湯 末 夫	63,000
79	後田東山下	伊 達 勝	14,000	117	小 田	小 田 政 彦	35,000
80	染 木	山 崎 哲 夫	48,000	118	小 野	長 崎 則 男	72,500
81	白 坂	有 村 哲 志	97,000	119	津 代	倉 昭	24,000
82	中 原	久保園 正 房	35,000	120	宮 原	長 坪 年 雄	24,000
83	瀬戸宇治	福 留 祥 一	18,000	121	川 口	福 山 裕	9,000
84	本城下	森 高 明	52,000	122	港	堀 切 幸 一	39,000
85	本城中	新 村 幹 男	22,500	123	東	戸 柱 孜	185,200
86	本城上	又 野 和 夫	29,000	124	本 地	神 田 仁 司	65,000
87	寺之上	川 野 三 男	25,000	125	下 西	前 村 文 二	25,000
88	石之脇	白 田 幸 男	115,000	126	上 西	桑 山 友 義	23,000
89	岩 屋	小 園 一 義	30,500	127	大 原	曾 木 正 夫	12,000
90	片 野	大 平 信 孝	43,000	128	姫 門	河 原 清 造	5,000
91	折生野	柿 元 文 男	26,000	129	浜	吉 永 良 行	66,000
92	宮下川南	梶 俊 郎	105,500	130	船 間	東 膳 清 美	21,500
93	宮下川北	上江洲 只 吉	83,000	131	辺 塚	船 迫 忍	13,000
94	富 山	原 口 泉	192,000	132	大 浦	白 坂 義 信	18,000
				合 計			6,729,960

※個人・団体からの義援金明細

(単位:円)

個人・団体名	金額	公表の可否	個人・団体名	金額	公表の可否
クスリのミネサキ高山店	43,034	○	H さん	520	×
(有)黒木養豚	50,000	○	W さん	10,000	×
肝付町青年団	7,556	○	O さん	1,000	×
論地消防分団	10,000	○	論地消防後援会	30,000	○
S さん	2,000	×	A さん	2,000	×
高山四十雀会	30,500	○	B さん	5,000	×
春陽会中央病院	100,000	○	(有)セントロメディコ	100,000	○
春陽会中央病院親和会	100,000	○	春陽会職員一同	20,000	○
銀河の里	500,000	○	(株)リード	200,000	○
宇都商店お客様	1,130	○	旭が丘振興会花見	68,000	○
下之門消防分団	50,000	○	町身体障害者連合会	106,100	○
S さん	1,421	×	吉村 時義さん	2,000	○
堀田 豊さん	2,000	○	高 令子さん	5,000	○
福元 泰光さん	20,000	○	津房 和夫さん	20,000	○
T さん	7,801	×	平後園青壮年会	20,000	○
町認定農業者連絡協議会	69,000	○	下住下有志	20,000	○
S28生 高山中卒業生	9,000	○	岩崎壮青年部	10,000	○
(有)皆元建装	100,000	○	町管工事組合	120,000	○
林 フミさん	30,000	○	高山大海クラブ	50,000	○
田中 重人さん	30,000	○	赤木音楽教室	20,000	○
高山グラウンドゴルフ協会	40,468	○	T さん	655	×
ショッピングプラザサンエー	30,880	○	T さん	5,000	×
Y (株)	74,884	×	T さん	5,000	×
大空幼稚園・あけぼの保育園	150,643	○	八日会	100,000	○
高山小鹿会	26,260	○	高山中同窓会	150,000	○
高木 弘公さん	1,000	○	鶴田 六男さん	10,000	○
S36生 高山中卒業生	26,008	○	横山砕石(有)	30,000	○
(有)下茂砕石	30,000	○	二階堂屋敷かやぶき会	658,496	○
鹿児島銀行高山経友会	50,000	○	西之川 晴海さん	5,471	○
大隅肝属地区防火管理協会	100,000	○	上北グランドゴルフ同好会	10,000	○
(株)ライジング	1,500,000	○	肝付町商工会	62,773	○
内之浦ピアノ研究会	21,717	○	高山中S33卒同窓会	42,000	○
坂元 辰己さん	1,459	○	ミニショップむらた	66,531	○
匿名さん	2,910	×	山下酒店	13,800	○
関東肝付会	30,000	○	アルパカツアー(ラグビー)	100,000	○
大隅ナイトリーグ連盟	52,220	○	匿名さん	2,910	×
有野 公男さん	100,000	○	石之脇子ども会	30,000	○
(株)チャレンジスポーツ	42,519	○	高山保育園保護者会	20,000	○
内之浦えつがね祭実行委員会	309,600	○	ルピナス会	100,000	○
銀河マラソン実行委員会	4,644	○	川上「中学生心米」販売	92,129	○
窪田伸一税理士事務所	20,258	○	計	6,093,297	

※義援金に係る議会議員名簿

柳 一 夫	木 村 實 馬	橋 野 和 巳	石 倉 勝 美
末 次 健 一	重 田 寅 男	福 田 幹 雄	田布尾 重 治
太 鼓 重 義	有 留 襄	中 窪 勉	佐 伯 和 久
恒 吉 智 彦	益 山 二 郎	加 藤 義 昭	福 留 廣 幸

※義援金に係る町職員名簿（臨時職員を含む）

（所属は当時）

所属	氏 名	所属	氏 名	所属	氏 名
町 長	永 野 和 行	税務課	平 山 恵利子	建設課	新 地 和 浩
副町長	坂 元 秀 明		篠 原 大 樹		松 元 幸 一
総務課	前 原 尚 文		松 元 俊 之		徳 重 茂 治
	松 脇 圭 一		重 田 圭 介		桑 山 健 二
	峯 崎 修 一	住民課	田 畑 隆 一 郎		川 添 康 秀
	神 田 洋 人		山之内 久美子		木 原 義 和
	白 坂 亨		松 原 友 之		宮ヶ原 修 作
	久 保 健 一		守 屋 士 朗		城戸内 教 貴
	白 坂 友 輝		上馬庭 悟	農林水産課	浮 邊 俊 彦
	原之園 利 恵		外 園 哲 也		橋 口 一 孝
	有 島 和 寿		白 坂 あつ子		向 井 一 昭
	中 村 洋 史		榮 樂 浩 法		鮫 島 義 幸
	松 元 芽衣子		中 原 友 裕		梅 北 邦 英
	中 村 大 介	保健課	福 岡 大 祐		田 中 博 康
	椎 木 裕 子		竹之下 俊 春		田 中 浩 喜
	上 村 恭 子		太 鼓 源 義		大 脇 貴 司
	柳井谷 美 穂		前 村 裕 子		木佐貫 英 哉
	満 永 正 幸		下原口 幸 二		大 田 広 幸
企画課	福 元 了		湯 地 久美子	畜産課	飯 田 正 孝
	永 井 宏		甲 斐 敬 俊		上大園 実
	永 野 秀 明		米 盛 智 子		吉 崎 浩 司
	橋 口 洋 輔	福祉課	前 野 博		吉 永 真 樹
	松 園 幸 人		飯 田 徳 弘		勝 野 大 輔
	東 純 也		日 高 為 英	耕地課	渡 邊 敏 哉
	松 井 孝 志		大 窪 修 雄		堂 園 尚 作
	中 窪 悟		伊地知 利 広		船 倉 憲 昭
	倉 義 経		市 來 俊 作		大 野 晴 昭
	黒 木 正 剛		片 平 明 子		湯 地 紀 宏
	堂 園 良 平		半下石 みゆき		有 留 幸 弘
税務課	宇 戸 洋		能 勢 佳 子		西 迫 雄 太
	小 村 法 昭		倉 正 徳		柳井谷 幸 司
	中 野 康 子		上 園 洋 平		小 西 志 典
	小 森 勝 洋		吉 満 義 和		河 野 次 正
	竹之下 記 與		岡 野 垂 紀		一 松 陽 介
	中 俣 史 郎		久 保 龍 介	老人ホーム	前 村 正 美
	中 野 涉		安 藤 良 平		前 田 浩 一
	大 窪 信 宏	建設課	竹之下 克 明		和泉田 みち子
	西 海 政 和		城ヶ崎 政 文		西 元 あき子

※義援金に係る町職員名簿（臨時職員を含む）

（所属は当時）

所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名
老人ホーム	西之園 説子	町立病院	宮原 真理子	教育総務課	郷田 厚洋
	森 朋子		平岩 雄三		前原 俊郎
	永野 香代美		中野 貴夫		永井 律子
管理課	樋口 弘志		榮倉 元志		向井 満代
	上片野 豊和		外赤 勝弘		前村 秋一
	神領 幸生		上村 信子		島田 一矢
	伊地知 貞行		中村 マリ子		久保園 重孝
	川 埜 拓		福元 あけみ		和田 良二
	今井 雄樹		岩崎 みどり		串崎 義治
町民生活課	白木 末信		村岡 美智子		中野 孝子
	有馬 裕一		中野 明美		久木田 誠
	小野原 聖和		平田 昭子		横山 美智子
	長坪 康之		一松 晶子		下園 雄二
	中原 明大		赤崎 麻美		福田 しづか
	内園 美紀		上村 かおる		本城 政盛
	磯俣 圭一		永野 昌継		中野 生美
保健福祉課	柳井谷 幸二		竹山 真由美		佐藤 尚子
	五反田 眞由美		中野 ひろみ	准看護学校	福水 正美
	別府 保		倉 美代子		和田 雅子
	松井 千穂		内田 一久		木原 あい子
	吉原 孝子		橋口 洋子	生涯学習課	中西 稔男
	伊倉 公一		村野 則子		渡會 実
	森 藺 幸久		村上 美奈子		津曲 元
産業振興課	中原 稔		折田 良子		新福 深
	中原 武志		中尾 美鈴		松山 幹生
	松相 巧		仮屋 美沙枝		一松 敬一
	岩下 龍郎		津代 まり子		永井 千貴
	田畑 哲也		川上 和恵		溝口 清隆
	西森 智和		牛牧 利子		永野 紘俊
	松原 寛和		大窪 里美		國生 祐子
岸良出張所	有田 稔		篠原 千秋	給食センター	小平 正文
会計課	守屋 秋広		乙田 トヨ子		中原 雄二
	尾迫 順子		馬場園 節子		神田 久子
	郷原 みどり		阿部 美穂子		前田 尚子
議会事務局	窪田 和人		田中美 鈴	教委支所	園田 洋幸
	横山 一郎		井手 智美		前村 修二
	田中 育美		冷水 美紀子		内山 穂積
水道課	近藤 津代志		笠毛 賀久		松元 貴幸
	吉井 英雄		栄養室委託職員		上村 みや子
	榎屋 孝明		栄養室委託職員		渡會 悦子
	河野 守		栄養室委託職員		高橋 浩文
	谷口 ひろみ		栄養室委託職員	農委事務局	上野 洋
	別府 昌吾		栄養室委託職員		上籠 洋平
町立病院	田中 幸一		井手 リエ子	監査委員会	持留 みき子
	井畔 能文	教育長	西之園 眞	衛生組合	中原 正文
	吉本 史明	教育総務課	迫 良己		本田 進一
	福森 和彦		前田 浩昭	JAXA出向	中野 雅仁
	馬場 蘭洋子		和田 宏平		計257人

がんばれ大船渡！！ 義援金支出状況

(単位:円)

月	日	支出先	金額	備考
4	11	日本赤十字社へ	1,558,960	※注1
	22	さかもとストアー	41,886	救援物資(女児・男児下着、子供用Tシャツ)
	26	ミネサキ高山店	41,412	救援物資(缶詰、レトルト食品)
	26	(有)新澤商店	279,300	救援物資(缶詰、レトルト食品)
	26	まるまつセンター	820,500	救援物資(女児下着、子供用半袖シャツ)
	26	(有)はまばた	453,600	救援物資(男児下着)
	26	おしゃれのいしくら	630,000	救援物資(男児下着)
	26	(有)キ ク	643,968	救援物資(男児・女児半袖シャツ)
5	30	有馬 京子	9,765	キャベツ(3回目野菜支援時)
6	1	JAきもつき東串良	30,450	ピーマン(3回目野菜支援時)
	13	(有)古市電器商会(大船渡市)	187,000	冷凍庫1台、扇風機6台
	20	(有)古市電器商会(大船渡市)	350,000	避難所用扇風機50台
	24	ミネサキ高山店	45,600	カボチャ、タマネギ(7回目野菜支援時)
7	13	ヤンマー農機(陸前高田市)	288,750	刈払機5台
8	8	農事組合法人南州農場	238,875	黒豚モモ肉(肉支援 8~10回目分)
	8	大船渡市中学生交流事業	1,902,861	
	8	岩手開発観光	1,591,700	航空機、JR、新幹線、保険代
	9	高山やぶさめ館	79,600	7/30 宿泊、朝食代
	9	コスモピア内之浦	19,600	7/31 引率者宿泊、食事代(生徒はホームステイ)
	9	叶岳ふれあいの森	92,100	8/1 宿泊、夕・朝食代ほか
	9	すしよし亭	17,600	7/31 昼食代
	9	冷水 正行	7,000	8/1 交流時のおにぎり用お米代
	9	渡辺蒲鉾	5,500	8/1 交流時のおかず代
	9	山本蒲鉾	4,000	8/1 交流時のおかず代
	9	Aコープ内之浦店	12,074	8/1 交流時のおかず代ほか
	9	山下ぶどう園	22,000	8/1 ブドウ狩り代
	9	(株)マツオカ	27,247	7/31 稲刈り用鎌、軍手代
	9	コスモス高山店	7,740	8/1 交流会用花火、お菓子代
	9	肝付町立病院	16,700	熱中症入院費用
	9	ヤマト運輸(株)	61,500	肉・野菜支援8~10回目送料(肝付町単独分)
	17	(有)古市電器商会(大船渡市)	889,600	仮設住宅集会所用掃除機32台
	22	(有)熊谷教材社(大船渡市)	299,250	綾里小へミシン10台を寄贈
9	6	(株)JA物流かごしま	77,989	復興支援米送料(大船渡市へ)
	6	鹿児島パールライス(株)	62,606	復興支援米の玄米への加工代
	6	冷水 正行	210,787	復興支援米30俵代金、検査手数料
	6	有村 博美	161,603	復興支援米23俵代金、検査手数料
	6	(有)テクノウケン	25,200	復興支援米パッケージ印刷代

(単位:円)

月	日	支出先	金額	備考
9	6	佐川急便(株)	31,500	復興支援米送料(ほ場から加工場へ)
	13	(有)光研社(大船渡市)	625,800	赤崎中へテント4張を寄贈
	13	(有)イセキ(大船渡市)	698,460	綾里小、越喜来小へテント2張ずつを寄贈
	13	(有)イトウ文具(大船渡市)	594,300	大船渡小、赤崎小へテント2張ずつを寄贈
12	5	大船渡市老人クラブ交流事業	1,160,220	
	5	岩手開発観光	825,000	航空機、JR、新幹線、保険代
	5	コスモピア内之浦	170,100	11/26、27 宿泊、食事代
	5	高山やぶさめ館	50,200	11/28 宿泊、食事代
	5	すしよし亭	9,450	11/28 昼食代
	5	高山やぶさめ館	140,000	11/28 肝付町老人クラブとの交流会飲食代
	5	鹿児島空港駐車場	200	11/26、29 送迎時の公用車駐車料金
	5	ヤマト運輸(株)	1,270	忘れ物送料(大船渡市へ)
	5	個人負担	△36,000	交流会時の町職員個人負担12人分
3	31	(株)橋爪自動車商会	1,950,000	大船渡地区環境衛生組合へ自動車寄贈
		計	14,371,742	

収入合計 14,374,984円－支出合計 14,371,742円＝ 残額 3,242円は義援金として送付予定。

※注1……当初、振興会から集まった義援金6,558,960円から5,000,000円を大船渡市への支援金とし、残りの1,558,960円を日本赤十字社へ寄付したものを。

※町民及び町職員への義援金お願い文書は⇒別紙23(P97)

○派遣隊員の任務分担例及び移動手段

派遣隊員の任務分担の一例 (5月21日～5月28日)

隊員名		21日・土	22日・日	23日・月	24日・火	25日・水	26日・木	27日・金	28日・土
吉田 與八郎	曾	花巻空港 13:30着	物資班	物資班	物資班	警備班	物資班	物資班	宿舎 10:00発
山之内 浩文	鹿		物資班	物資班	物資班	物資班	警備班	警備班	
瀧川 祐造	東		物資班	物資班	警備班	警備班	物資班	物資班	
鶴野 雄司	大	宿舎 15:30着	物資班	物資班	警備班	給水班	警備班	警備班	花巻空港 14:00発
畦地 明浩	南		警備班	警備班	物資班	物資班	給水班	警備班	
有留 幸弘	肝	警備班	警備班	物資班	警備班	警備班	物資班		
久木田 圭介	鹿	警備班	警備班	警備班	物資班	物資班	給水班		
河野 穂積	志	引き継ぎ	給水班	給水班	給水班	物資班	給水班	給水班	
松尾 洋一	錦		給水班	給水班	給水班	給水班	警備班	物資班	

派遣隊員の移動手段

※肝付町単独第2次隊(H23. 3. 19)から4市5町第17次隊(H23. 7. 3)まで

(往路)

出発空港	時間	到着空港	時間	便名	➡	出発空港	時間	到着空港	時間	便名
鹿児島	9:50	大阪伊丹	11:05	JAC2402	乗換	大阪伊丹	12:05	花巻	13:30	JAL2183
(料金) 通常期 24,400円						(料金) 通常期 31,300円				

(復路)

出発空港	時間	到着空港	時間	便名	➡	出発空港	時間	到着空港	時間	便名
花巻	14:00	大阪伊丹	15:30	JAL2184	乗換	大阪伊丹	17:15	鹿児島	18:35	JAC2415
(料金) 通常期 31,300円						(料金) 通常期 24,400円				

※4市5町第18次隊(H23. 7. 2)から第27次隊(H23. 9. 1)まで

(往路)

出発空港	時間	到着空港	時間	便名	➡	出発駅	時間	到着駅	時間	新幹線
鹿児島	9:00	羽田	10:40	SKY302	モノレール JR山手線	東京	12:40	一ノ関	15:19	やまびこ
(料金) 早割 19,800円						(料金) 通常期 12,470円				

(復路)

出発駅	時間	到着駅	時間	新幹線	➡	出発	時間	到着	時間	便名
一ノ関	9:56	東京	12:28	はやて	JR山手線 モノレール	羽田	15:10	鹿児島	17:05	SKY305
(料金) 通常期 12,470円						(料金) 早割 19,800円				

○ 地元から始まった長期支援

※肝付町商工会による大船渡銘菓「かもめの玉子」の販売

かもめの玉子は1952年に発売が開始され、1960年のチリ地震津波で当時の齋藤菓子店が全壊したが、「さいとう製菓」として再建後、品質改良と増産にも成功し、1990年からヨーロッパで最高権威を誇る国際食品コンクール「モンドセレクション」で3年連続金賞を獲得した大船渡を代表する銘菓である。

今回の震災で再び大津波が本社、総本店、和菓子工場を襲い、建物は全壊状態になるとともに近隣の販売店舗も浸水し、多くの取引先も流失した。

しかし、同社は震災2日後の3月13日から大船渡、陸前高田の避難所に「かもめの玉子」を提供し、同じ被災者として労苦をとともに分かち合った。また、5月からは仮店舗で営業を再開し、「復興の玉子」として沿岸部の復旧・復興を牽引している。

そこで肝付町商工会が指定管理を行っている高山温泉ドーム、コスモピア内之浦で「かもめの玉子」を販売し、大船渡代表銘菓の復興を後押ししている。



コスモピア内之浦の売店に並べられたかもめの玉子

※NPO法人おおすみ半島コミュニティ放送ネットワークによる「がんばっぺ！大船渡Tシャツ」の販売

このTシャツは、4市5町の支援チームが大船渡市で活動するなかで、大隅半島チームを示すマークを作ろうと第4次派遣チームのメンバーによって生み出されたもの。シャツの紫色は大船渡市章の色から。

5月に完成し、大船渡市役所では4市5町の職員以外にも大船渡市職員が着用しながら業務する姿が各課で見られるようになった。また、おおすみFMネットワークが番組で紹介したところ、リスナーからの問い合わせが多数寄せられたため、6月から大隅地域でTシャツ販売をはじめ、義援金を送る活動を始めた。また、岩手県内の新聞でも紹介されたため、大隅地域だけではなく、被災地からも多くの問い合わせや賛同があり、981,706円の義援金を大船渡市へ送ることができた。

同ネットワークでは来年以降もこの活動を続けていくことにしている。

○Tシャツの売り上げ	@2,000円×1,699枚=3,398,000円（平成23年12月20日現在）
Tシャツの製作経費	2,467,499円（Tシャツ原価@1,400円ほか、チラシ印刷費用など）
差し引き義援金の額	930,501円 + 一般義援金 51,205円=981,706円



○この「がんばっぺ！大船渡Tシャツ」は現地支援本部でも527枚販売し、義援金38,500円を大船渡市へ贈った。

○各種団体から要請され、実施した支援活動体験報告会

月日	要請団体・実施場所	内 容	実施者
3月22日	第1回4市5町首長会議	大船渡市の被災状況及び今後の支援活動	永野 秀明
4月11日	大隅地区臨床外科医会	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
4月12日	JA鹿児島きもつき婦人部	〃	能勢 佳子
4月27日	平後園きらきらサロン	〃	能勢 佳子
4月28日	肝付曾於地域保健連絡協議会	大船渡市における災害支援について	能勢 佳子
5月 6日	高山准看護学校	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
5月11日	高山地区民生委員定例会	〃	能勢 佳子
5月14日	町地域女性団体連絡協議会	被害の状況、支援活動について	渡會 実
5月18日	内之浦地区民生委員定例会	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
5月26日	内之浦地区長寿大学	〃	能勢 佳子
5月27日	曾於市社会福祉協議会	大船渡支援から学ぶ地域支えあい	能勢 佳子
6月 5日	栢木振興会	被害の状況、支援活動について	渡會 実
6月14日	いきいき教室	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
6月14日	肝属地区介護支援専門員協議会総会	〃	能勢 佳子
6月15日	岸良小学校	東日本大震災に対する町の支援について	倉 義経
6月16日	介護職ワンコイン講座	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
6月16日	前田地区長寿大学	〃	能勢 佳子
6月22日	侍金ねっかいよろ会	被害の状況、支援活動について	渡會 実
6月22日	宮富地区長寿大学	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
6月27日	曾於市社会福祉協議会 見守りネット研修会	〃	能勢 佳子
7月 5日	和牛振興会全体研修会	〃	能勢 佳子
7月 5日	内之浦中学校	大船渡市の中学生の様子や活動など	渡會 実
7月11日	川上地区長寿大学	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
7月12日	岸良地区長寿大学	〃	能勢 佳子
7月13日	波野地区長寿大学	〃	能勢 佳子
7月24日	町社会福祉協議会	被害の状況、支援活動について	渡會 実
8月18日	中央地区長寿大学	避難所支援や自宅訪問から見る現地状況と介護予防と見守りの重要性	能勢 佳子
8月21日	曾於市社会福祉協議会	大船渡支援から学ぶ地域支えあい	能勢 佳子
8月25日	後田地区長寿大学	被災地における支援の状況	半下石 みゆき
9月20日	(株)ココペリ	大船渡支援から学ぶ地域支えあい	能勢 佳子
9月22日	肝付町防災講演会	4市5町復興支援チームの取り組みについて 大船渡市支援活動で感じたこと	永野 秀明 能勢 佳子
11月26日	鹿児島県国民健康保険 診療施設協議会	大船渡支援活動を今後に生かすために (大隅4市5町保健師支援活動報告)	能勢 佳子
11月29日	肝付町消防後援会連合会	4市5町復興支援チームの取り組みについて	永野 秀明
12月14日	大脇老人クラブ	大船渡支援から学ぶ地域支えあい	能勢 佳子
2月13日	高山中学校	東日本大震災の復興支援で経験したこと	渡會 実
2月26日	第7回肝付町生涯学習大会	大船渡支援活動報告	米盛 智子

(資料②)

肝付町単独派遣(第1~3次、救援物資隊)に係る現地費用明細

※先遣(第1次)隊

(単位:円)

月日	内容	支払先	金額	月日	内容	支払先	金額
3.14	フェリー代	ダイヤモンドフェリー	73,710	3.16	軽油代	(株)ムネラン村上	1,990
3.14	夕食代	ダイヤモンドフェリー	21,528	3.16	ガソリン代	(株)ムネラン村上	2,305
3.15	地図代	ローソン柴谷店	1,465	3.16	軽食代	原信 村上西店	1,494
3.15	消耗品代	ナフコ彦根店	7,550	3.16	パソコン機器	ケーズデンキ鶴岡	980
3.15	食材費	Valow彦根店	12,996	3.16	昼食代	ら〜麺工房 はくが	4,180
3.15	ガソリン代	滋賀石油(株)	6,740	3.16	飲料水代	自動販売機	1,360
3.15	消耗品ほか	カーマ長浜店	6,102	3.16	消耗品代	ジョイ あつみ	1,180
3.15	昼食代	餃子の王将長浜店	3,885	3.16	軽油代	加藤商店 院内SS	4,155
3.15	ガソリン代	(有)中原石油店	9,450	3.16	ガソリン代	加藤商店 院内SS	4,882
3.15	軽油代	(有)中原石油店	4,747	3.16	夕食代	得得 北上店	3,090
3.15	ガソリン代	中日本エクシス(株)	8,300	3.17	ガソリン代	協和石油株	4,760
3.15	軽油代	中日本エクシス(株)	4,323	3.18	食材代	ローソン大船渡店	4,784
3.15	ガソリン代	第一石油販売(株)	6,570	3.19	昼食代	ラーメン宝介	3,730
3.15	宿泊代	割烹の宿 湖畔	42,000	3.19	ガソリン代	水野石油(株)	3,000
3.15	夕食代	地鳥庵 駅南本店	14,550	3.19	夕食代	エアポートリヨン	16,100
3.16	ガソリン代	(株)川崎商会	6,002	3.19	駐車場代	チサンパーキング	500
3.16	タイヤ代	ヨコハマタイヤ新潟	198,450		計		486,858

※物資隊

月日	内容	支払先	金額	月日	内容	支払先	金額
3.15	フェリー代	ダイヤモンドフェリー	35,450	3.17	軽油代	(株)一光菅生PA	5,000
3.15	夕食代	ダイヤモンドフェリー	3,000	3.18	軽油代	新商(株)黒崎PA	3,000
3.16	昼食代	セブンイレブン新潟	1,391	3.18	朝食代	越後交通米山SA	2,550
3.16	宿泊代	アーバンイン黒崎	14,000	3.18	軽油代	中日本エクシス(株)	3,930
3.16	夕食代	和食処 きくすい	2,835	3.18	軽油代	コーナンフリート	41,580
3.17	昼食代	ローソン岩手住田	755	3.18	宿泊代	プラザイン水沢	17,850
3.17	軽油代	根本石油(株)	3,000	3.19	宿泊代	伊丹シティホテル	7,000
3.17	軽油代	安達太良SA給油所	1,260		計		142,601

※第2次隊

月日	内容	支払先	金額	月日	内容	支払先	金額
3.19	消耗品代	サンコーストア	1,253	3.22	消耗品代	(株)マイヤ	1,664
3.19	消耗品代	(株)バルプラス	5,198	3.22	ガソリン代	協和石油(株)	6,320
3.19	昼食代	そば処 関亭	4,120	3.23	夕食代	(株)空港専門和甲	8,210
3.21	ガソリン代	協和石油(株)	6,104	3.23	駐車場代	溝辺駐車場	600
3.21	消耗品代	コメリ大船渡店	3,330				
3.21	食材費ほか	(株)マイヤ	9,674		計		46,473

※第3次隊

月日	内容	支払先	金額	月日	内容	支払先	金額
3.20	消耗品代	(株)コメリ高山店	2,094	3.26	食材代	コメリパワー花巻	9,789
3.25	ガソリン代	(株)塩竈商会	3,960	3.27	ガソリン代	協和石油(株)	6,080
3.25	軽油代	(株)塩竈商会	2,364	3.27	駐車場代	鹿児島空港駐車場	1,000
3.25	ガソリン代	JAおおふなとSS	3,000		計		28,287

※この経費は義援金ではなく、一般会計で支出。

総 計

704,219

(資料③)

先遣隊及び救援物資出発に要した経費明細

(単位:円)

日時	内 容	相手先	金額	備考
3. 14	ワゴン車タイヤ交換	高山ヨコハマタイヤ	63,000	4本
3. 14	カセットボンベ利用発電機ほか	(株)ナフコ	100,356	
3. 15	ガソリン携行缶(20ℓ用)	(株)マツオカ	14,175	
3. 15	水(2ℓ入り)	(株)財宝	58,800	600本
3. 15	懐中電灯・電池	セブンプラザ高山店	123,845	
3. 15	懐中電灯・電池	ミツル電器	116,000	
3. 15	懐中電灯・電池	ネオプラスいわや	9,110	
3. 15	懐中電灯・電池	永島田電器	18,210	
3. 15	粉ミルク・カイロほか	(有)ミネサキ高山店	532,940	
3. 15	ウェットティッシュほか	(有)新生堂薬局	116,086	
3. 15	無洗米・温泉水	山下商店	679,834	
3. 15	ミネラルウォーター	佐伯商店	90,720	
3. 15	ミネラルウォーターほか	(有)柳元商店	156,662	
3. 15	カップ麺ほか	(有)新澤商事	102,396	
3. 15	カップ麺ほか	松岡商事(株)	64,235	
3. 15	カップ麺ほか	(有)福永食品	75,978	
3. 15	カロリーメイトほか	ローソン肝付後田店	17,199	
3. 15	菓子類	柿元商店	8,400	
3. 15	サランラップ	(有)すわした	18,270	
3. 15	軍手・ガスボンベほか	(株)マツオカ	25,137	
3. 18	ハイゼックス(炊飯袋)	日本赤十字鹿児島支部	7,200	
3. 28	懸垂幕	高山テント	49,350	
	計		2,447,903	

(別紙2)

東日本大震災支援に係る肝付町単独負担分経費明細(4~8月末)

(単位:円)

科 目	金額	備 考
職員手当等	830,901	時間外勤務手当(43人分)
旅 費	4,939,750	大船渡市派遣隊員旅費、日当(うち航空・JR料金 3,131,410)
役務費	95,250	水産物放射能分析検査手数料及び検体送料
原材料費	40,950	復興支援米作付けPR看板材料
負担金補助及び交付金	268,000	4市5町復興支援チーム負担金
扶助費	100,000	被災者に対する支援費(移動支援、生活一時金 1名分)
計	6,274,851	

※これに対し、国から特別交付税4,020,000円の交付あり。

(別紙3)

「鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム」設置要綱

(目的)

- 第1条 この要綱は、東北地方太平洋沖地震に伴う鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム(以下「支援チーム」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。
- 2 支援チームは、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及びこの地震に伴い発生した事象により被害を受けた地域又は者に対し、人道的支援を行うこととする。

(任務)

- 第2条 支援チームは前条の目的を達成するため、次の事項について協議し、その推進を図るものとする。
- (1)被災地への人的支援及び物資等の支援に関すること。
- (2)被災者の受け入れに関すること
- (3)その他、前条の目的達成に必要なこと。

(構成)

- 第3条 支援チームは、大隅半島に属する4市5町により構成する。
- 2 支援チームの決定事項を遅滞なく実施するため、構成市町横断的な体制として災害支援体制を必要に応じて別に構築することができる。

(会長等)

- 第4条 支援チームに会長及び副会長を置く。
- 2 会長は鹿屋市長を、副会長は肝付町長をもって充てる。
- 3 会長は、支援チームの会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

- 第5条 支援チームの協議、決定等は復興支援チーム会議により行い、会長が招集する。

(事務局)

- 第6条 支援チームの事務を処理し支援のために必要な調整を行うため、事務局を肝付町総務課に置く。

(経費)

- 第7条 第1条の目的を達成するため、必要な経費は構成市町の負担金及びその他の収入をもって充てる。

(その他)

- 第8条 支援チームの会議には、必要に応じて関係者の出席を求めるなどにより意見を聴取できるものとする。
- 2 支援チームの解散は、被災地の状況等を勘案し、復興支援チーム会議において決定する。
- 3 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附則

- この要綱は、平成23年3月22日から施行する。

肝付町における大船渡市支援対策チーム組織体制

担当部門	担当課	内 容
事務局	総務課・町民生活課	○ 4市5町事務局との連絡調整
支援物資担当	(主)企画調整課 (副)農業振興課 畜産課 農業委員会 林務水産課	○ 物資の支援要請があれば、町商工会と連携するとともに一般町民にも呼びかけて物資を集荷する。 ○ 野菜等の生鮮品の支援要請があった場合は、JAや農家と連携し、調達する。 ○ 輸送計画の作成
職員派遣担当	(主)総務課	○ 支援職員の参加希望調査及び派遣計画の作成 ○ 4市5町の派遣職員との連絡調整 ○ 航空券及び必要な資材等の調達 ○ 財政面の調整
生活支援担当 (ハード面)	(主)建設課 (副)水道課 生涯学習課	○ 公営住宅の提供 ○ 提供可能な町内の住宅(空き家)の調査及び所有者との連絡調整 ○ 提供可能な教育等施設の調査及び利用者との連絡調整
生活支援担当 (ソフト面)	(主)福祉課 (副)税務課 住民課	○ 移住希望者の受入窓口 ○ 保育、介護、各種手当、生保その他、移住者の相談窓口 ○ 税務相談、その他年金環境衛生面等の支援
健康関係担当	(主)健康増進課 (副)福祉課・町病院	○ 移住者の健康相談 ○ メンタルケア
児童生徒支援担当	(主)教育総務課 (副)生涯学習課	○ 移住者の就学相談
就労支援担当	(主)農業振興課 (副)畜産課 農業委員会 林務水産課 企画調整課 産業創出課	○ 移住者の就労相談窓口 ○ 就農相談 ○ 町内企業の受入調査及び連絡調整
広報担当	(主)企画調整課	○ 町内へ支援物資要請の周知 ○ 被災地の様子及び派遣職員の活動報告 ○ 4市5町への情報提供

水産物の放射能分析試験結果

試料名	受付 番号	採取日時	測定試 料 量	項 目		単位	測定 結果	検 出 下限値
				放射能	核種			
カツオ (内之浦漁協)	11RE 1504	H23. 5. 9 AM9:10	187g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	4
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	7
					セシウム137	Bq/kg	不検出	5
					合計	Bq/kg	不検出	—
マアジ (内之浦漁協)	11RE 1505	H23. 5. 9 AM9:10	169g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	5
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	6
					セシウム137	Bq/kg	不検出	5
					合計	Bq/kg	不検出	—
チダイ (内之浦漁協)	11RE 1506	H23. 5. 9 AM9:10	161g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	4
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	3
					セシウム137	Bq/kg	不検出	5
					合計	Bq/kg	不検出	—
コシヨウダイ (高山漁協)	11RE 1507	H23. 5. 9 AM10:45	177g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	6
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	6
					セシウム137	Bq/kg	不検出	6
					合計	Bq/kg	不検出	—
マアジ (高山漁協)	11RE 1508	H23. 5. 9 AM10:45	164g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	4
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	3
					セシウム137	Bq/kg	不検出	4
					合計	Bq/kg	不検出	—
チダイ (高山漁協)	11RE 1509	H23. 5. 9 AM10:45	183g	放射性ヨウ素	ヨウ素131	Bq/kg	不検出	5
				放射性セシウム	セシウム134	Bq/kg	不検出	6
					セシウム137	Bq/kg	不検出	6
					合計	Bq/kg	不検出	—

鹿児島県大隅半島4市5町における東日本大震災被災者受入策について(No.1)

	肝付町	志布志市	鹿屋市
対象者	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により避難指示又は屋内退避指示の出されている地区に居住していた者で肝付町に居住する者	東日本大震災及びそれに伴う原子力発電所の損壊等により被災され、市の公営住宅や空家への一時避難又は永住を希望される方で、罹災証明又は身分及び居住地を運転免許証や健康保険証等で確認できる方。(親族や知人の下で援助を受けながら転居された方は、今回の支援の対象にはなりません。)	①災害救助法の適用を受けた市町村 ②原子力災害対策特別措置法の規定に基づく避難指示を受けた地域 ①または②に居住していた者で鹿屋市に居住する者
移動支援	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り) 小学生以下は半額。ただし、7日以上滞在する者
当分の間の生活費	1人あたり50,000円(1回限り。300,000円を上限)	生活必需品購入費1人あたり50,000円(限度額300,000円)	1人あたり50,000円(1回限り) 1世帯300,000円を上限。 ただし、実家、親族宅は半額。 ただし、1ヶ月以上滞在する者
住宅支援	(公営住宅) 原則として1年間。(6ヶ月で更新) 家賃は全額免除。敷金(家賃の3ヶ月分)及び連帯保証人は免除。 電気、ガス、水道及び共益費は入居者負担。退去時の住宅修繕費用は不要 (民間住宅) 原則として1年間。(6ヶ月で更新) 町が指定した民間住宅に居住することを条件に公営住宅と同等支援	(市営住宅) 原則として6ヶ月間(更新可) 家賃、敷金は全額免除。 連帯保証人は原則免除。 電気、ガス、水道及び共益費は入居者負担。 退居時の住宅修繕費は不要。 (民間賃貸借上げ住宅) まずは市営住宅への入居を優先し、必要に応じ今後検討していく。	(市営住宅) 1年間を上限に、家賃、敷金、水道料金、下水道使用料を免除。 27戸受入可能。 (民間住宅) 敷金、礼金、家賃などの入居に要する経費実費分を負担(1回限り) ただし、1世帯25,000円を上限とする。
保育料	町内の保育園・幼稚園に入園した場合は 免除	市内の公立幼稚園、全ての保育園の入園料及び保育料は免除。(原則6ヶ月)	保育所の入所可能な範囲内において入所が可能。保育料については、減免可能
児童生徒の就学	小・中・高とも必要に応じ援助	1人当たり100,000円(幼、保、小、中、高とも対象)	0歳児から高校生までの児童生徒に対して1人100,000円。鹿屋女子校への転入は入学金、授業料を免除。看護専門学校への転入学は欠員がある場合は可能(2名)及び授業料免除。スクールカウンセラーや相談員を優先的に派遣。
就労あっせん	作業員等として雇用(1~6ヶ月) 高山三幸観光・大将食品・上野物産・松原建設・山之口建設・高山自動車・町商工会・下茂建設・高山CHOYAソーイング・村田組 南州農場・サツマ警備保障 川野工務店・福永食品・ライジング 前原建設・昌徳丸・国宝建設 栄倉組・甲斐工業・福田農園 松原緑地建設 肝付町新規就農者育成支援 カラーピーマン栽培:3組 平成24年7月~平成26年6月 研修中は単身15万、夫婦25万支給※研修終了後は経営実証ハウスで基本的に2年間栽培し、その後独立	就労あっせんは現在のところ考えていない。(ハローワークと連携したPR等は実施する予定)	事務補助員(作業員)として優先的に雇用。 農業研修生として2年間受入可能。3人程度。 研修手当1人あたり150,000円/月 夫婦200,000円/月 農業公社研修宿泊施設に入居
税金関係	減免する	現在検討中	被災状況により減免や徴収猶予可能
その他	町ホームページで公開	税金関係以外は市HPで公開済	ゴミ袋の無償提供など

鹿児島県大隅半島4市5町における東日本大震災被災者受入策について(No.2)

	曾於市	錦江町	垂水市
対象者	東北地方太平洋沖地震により被災された方で罹災証明を取得されている者	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により避難指示又は屋内退避指示の出されている地区に居住していた者で錦江町に居住する者。(できれば、同じ県、地域の人が望ましい。)	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により警戒区域等の出されている地区に居住していた者で垂水市に居住する者。
移動支援	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り) 小学生以下は半額。ただし、7日以上滞在する者
当分の間の生活費	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り) (1回限り。上限300,000円)	1人あたり50,000円 1回限り300,000円を上限。 ただし、実家、親族宅は半額 ただし、1ヶ月以上滞在する者。
住宅支援	(公営住宅) 10戸(うち2戸はすでに入居) 原則として半年間(6ヶ月で更新) 家賃等、全額免除 敷金(家賃の3ヶ月分)及び連帯保証人は免除。光熱水費については、入居者負担。退去時の住宅修繕費は不要。	(公営住宅) 原則として1年間。家賃は全額免除。敷金及び連帯保証人は免除。電気、ガス、水道及び共益費は入居者負担。退去時の住宅修繕費は不要。 (民間住宅) 原則として1年間。町が指定した民間住宅に居住することを条件に公営住宅と同等の支援。	(公営住宅等) 原則1年(6ヶ月毎に更新) 家賃・敷金免除。連帯保証人は原則免除。電気・ガス・水道及び共益費は入居者負担。 1年経過後、減免等について協議 (民間住宅) 原則として6ヶ月(更新可) 市が指定した民間住宅に居住することを条件に公営住宅と同じ支援 空家情報の提供
保育料	市内の保育園に入園した場合は保育料については免除	町内の保育園に入園した場合は免除。幼稚園入園の場合は、全額補助。	市内の保育園・幼稚園に入園した場合、免除(原則1年)
児童生徒の就学	就学援助費を適用	就学援助費を支給(年額) 小学生 学用品費14,780円 学校給食費35,750円 新入学費19,900円 中学生 学用品費26,050円 学校給食費41,800円 新入学費22,900円	必要に応じ援助 (就学援助費等を適用)
就労あっせん	ハローワークと連携	就労可能な事業所を斡旋。 雇入者については1名につき1/2補助(月額75,000円上限)。 原則1年間、1事業所2名以内。	受入の申し出があった企業等の紹介。 企業に相談し、あっせん・支援する
税金関係		減免する	減免する
その他		町ホームページで公開	町ホームページで公開

鹿児島県大隅半島4市5町における東日本大震災被災者受入策について(No.3)

	東串良町	大崎町	南大隅町
対象者	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により避難指示又は屋内退避指示の出されている地区に居住していた者で東串良町に居住する者。	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により、避難指示又は屋内避難指示の出されている地区に居住していた者で、大崎町に居住する者。	青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉県など3月11日以降に災害救助法が適用された市町村に居住していた者。また、福島原子力発電所の事故により避難指示又は屋内退避指示の出されている地区に居住していた者で南大隅町に居住する者。
移動支援	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り)
当分の間の生活費	1人あたり50,000円(1回限り)	1人あたり50,000円(1回限り) (1世帯あたり300,000円を上限)	1人あたり50,000円(1回限り)
住宅支援	(公営住宅、町営住宅) 原則として1年以内。(6ヶ月で更新) 敷金(家賃の3ヶ月分)及び連帯保証人は免除。 住宅使用料は全額免除。電気、ガス、水道及び共同施設関係の共益費は入居者負担。退去時の住宅修繕費用は不要。	(町営住宅) 立小野住宅、文化通住宅、大崎第一中教頭住宅 計3戸。 提供期間は1年間。家賃無料。光熱水費は入居者負担。 (民間住宅) 空き家情報の提供。 家賃助成(上限30,000円/月)1年間。	(公営住宅) 期間・家賃等については希望者との協議・町の減免規定により決定。大中尾団地、辺塚団地各1戸。 (一次避難箇所の提供) ①佐多町交流センターの提供(定員8人:6部屋、定員10人:1部屋) 期間・家賃等については希望者との協議・町の減免規定により決定 ②佐多岬ふれあいセンターの提供(定員4人:5部屋) 期間・家賃等については希望者との協議・町の減免規定により決定 (民間住宅) 空き家情報の提供
保育料	町内の保育園・幼稚園に入園した場合、原則として1年間免除予定。(6ヶ月で更新)	町内の保育所、保育園に入園した場合は、1年間免除。 幼稚園は1年間補助。	町内の保育所、保育園に入園した場合は、免除。
児童生徒の就学	就学援助費の適用等	就学援助費の適用等	就学援助費の適用等
就労あっせん	受入れの申し出があった法人等を紹介する。 (現在1法人、受入世帯は1世帯。受入期間は1年間:更新可、住宅提供。)	鹿児島県が数名の受入を表明(住宅あり)	1. 南州農場:若干名。協議可。積極的に受け入れます。 2. 社会福祉法人白鳩会大隅の園:野菜の栽培1名、6ヶ月間 月140,000円 3. 山田水産:石巻工場が全壊のため、独自で受け入れ中 4. 尾崎縫製東根占工場:1人 月22日。時給650円 5. 十津川農場:2名。協議可。積極的に受け入れます。 6. (株)アイネット農業法人:農業研修受け入れ(1年間社員として農業研修し、野菜の契約栽培) 3名程度 7. 第一佐多果樹園(マンゴー栽培) 独立就農支援。若干名 8. 管理栄養士の雇用(嘱託)1名 現在、(社)鹿児島県栄養士会よりホームページに掲載中
税金関係	国保税(課税通知は実施)納税は猶予しているが、被災証明等があれば減免申請を提出してもらおう予定。	税条例等に基づき減免	平成23年東北地方太平洋沖地震による被災者に対する地方税の減免措置等に準ずる。
その他		集落担当職員、民生委員による相談受付	支援米の作付け: 早期米40a、普通期米20a

(別紙7)

肝付町東日本大震災被災者支援金支給要領

(目的)

第1条 この告示は、東日本大震災及びそれに伴う原子力発電所の損壊等により生活基盤に著しい被害を受け、本町に避難(本町に転居することをいう。)してきた被災者を支援するため、町が予算の範囲内で東日本大震災被災者支援金(以下「支援金」という。)を支給し、被災者の福祉の向上を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この告示において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 被災者:平成23年3月11日に発生した東日本大震災及びその後の余震等(以下「震災等」という。)により住宅に被害を受け、居住できなくなった者並びに東京電力株式会社福島第一原子力発電所、震災等に伴う原子力発電所の損壊等による影響で原子力災害特別措置法(平成11年法律第156号)の規定に基づく国からの避難指示を受けた地域の者。
- (2) 転居:被災者が町内の住宅に居住すること。

(支援金の支給対象)

第3条 支援金は、本町に避難してきた被災者に対し、1回に限り支給する。

(支援金の種類及び支援金の額)

第4条 支援金の種類は、被災者の被災地から本町までの移動費用として「移動費用支援金」、被災者が本町で生活していく上で必要な生活必需品の購入費用として「生活一時金」の2種類とし、支援金の額は、次に掲げる支援金の種類に応じ、当該各号に定める額とする。

- (1) 移動費用支援金:被災者1人あたり5万円
- (2) 生活一時金:被災者1人あたり5万円。ただし、30万円を上限とする。

(支援金の支給申請)

第5条 支援金の支給を受けようとする被災者の世帯の代表者は、り災証明又は運転免許証等、住所が確認できるものを提示し、東日本大震災被災者支援金支給申請書(別記)を町長に提出しなければならない。

(支援金の支給決定)

第6条 町長は、前条の支給申請があったときは、その内容を審査し、支援金支給の可否及び支給額を決定し、支給するものとする。

(支援金の返還)

第7条 町長は、支援金の支給を受けた者が、詐欺その他の不正な行為により支援金の支給を受けたと認められるときは、すでに支給した支援金の全部又は一部を返還させるものとする。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、支援金の支給に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、平成23年4月18日から施行する。
- 2 この告示の施行の際、すでに本町に避難している被災者についても、この要領に基づく支援金の支給対象とするものとする。

肝付町長 殿

肝付町東日本大震災被災者支援金支給申請書

世帯者氏名		印			
住所(被災時)					
住所(転居先)					
連絡先(携帯)					
り災証明の有無		有 ・ 無 (いずれかに○をつけてください)			
り災証明がない場合		被災を証明できるもの (いずれかに○をつけてください) (免許証 ・ 保険証 ・ その他)			
世帯 構 成 員	氏名	続柄	年齢	性別	備考
滞在予定期間		年 月 日 ~ 年 月 日			

※支援金の受け取り方法の希望 (希望する方法に○をつけてください)

- 1 現金希望 2 振込希望

※振込希望の場合に記入してください。

振 込 先	金融機関名		本・支店名	
	種別	1 普通 2 当座 3 その他()		
	口座番号		名義人	

※支援金支給決定額(町記入欄)

移動費用支援金(円)	生活一時金(円)
------------------	----------------

(別紙8)

東日本大震災に伴う被災者の肝付町公営住宅等一時入居の取扱について

(趣旨)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災者に対し、地方自治法第238条の4第7項に基づく目的外使用許可として、肝付町公営住宅等への一時的な入居を許可するものである。

(入居資格)

- 1 東日本大震災により被災し、住宅に居住できなくなった者。
- 2 福島原子力発電所の事故により避難指示又は屋内退避指示の出されている地区に居住している者。

(入居期間)

原則として1年以内。(6ヶ月で更新)

(一時入居者が公営住宅等の入居資格要件に該当する場合は、必要に応じて災害による特定入居として正式入居させることができる。)

(敷金及び連帯保証人)

敷金(家賃の3ヶ月分)及び連帯保証人は免除とする。

(住宅使用料等)

- 1 住宅使用料(家賃)は、全額免除とする。
- 2 電気、ガス、水道及び共同施設関係の共益費は入居者負担とする。
- 3 退去時の住宅修繕費用は不要とする。ただし、故意に住宅内を破損させた場合は、入居者負担とする。

(入居の申込み)

入居の申込みに際し、次の書類を提出しなければならない。

- 1 原則として地方公共団体が発行する罹災証明書。ただし、居住地やその他の方法により、客観的に罹災対象者と判断できる場合は、添付がなくても認めることとする。
- 2 肝付町公営住宅一時使用許可申請書(別紙様式)
- 3 誓約書(別紙様式)

(提供住宅)

川上、津房、花ノ木の合計11戸。(平成23年3月18日現在で県へ報告分)

(準用)

上記の定める事項を除いては、公営住宅法、同法施行令及び肝付町公営住宅管理条例等を準用する。

(別紙9)

保健師派遣計画(実績)表

	曾於	志布志	大崎	鹿屋	垂水	東串良	肝付	錦江	南大隅
第13次 (6/2~6/9)							2		
第14次 (6/8~6/15)					2				
第15次 (6/14~6/21)				2					
第16次 (6/20~6/27)			1				1		
第17次 (6/26~7/3)				2					
第18次 (7/2~7/9)		2							
第19次 (7/8~7/15)									2
第20次 (7/14~7/21)	2								
第21次 (7/20~7/27)	2								
第22次 (7/26~8/2)	2								
第23次 (8/1~8/8)				2					
第24次 (8/7~8/14)		2							
第25次 (8/13~8/20)								2	
第26次 (8/19~8/26)				1		1			
第27次 (8/25~9/1)							2		
合計	6	4	1	7	2	1	5	2	2

総計30名

鹿屋農業高校和太鼓部の演奏会をPRするために仮設住宅に配付したチラシ

鹿
児
島
県
立
鹿
屋
農
業
高
等
学
校
和
太
鼓
部

和
太
鼓
集
団
魂

7.26

主催：鹿屋農業高等学校和太鼓部
(鹿屋市・垂水市・曾於市・志布志市・大崎町・東串良町・錦江町・南大隅町・肝付町)



復興支援演奏会

演目
桜島火山大噴火
ほか

精一杯演奏します。
みなさまのお越しを
お待ちしております。

私たち鹿屋農業高等学校和太鼓部は
1998年に設立され今年で13年目を迎えます。
農業人として、大自然に対する畏敬の念。
そして、生命をいただくことへの感謝の心を込めて
名称を『魂（こころ）』と決めました。
私たちの熱き魂の鼓動が、みなさまにとって
すこしでもお役に立てれば幸いです。

(火) 18:30~

綾里中学校体育館

共催：綾里地区公民館

大船渡市における応急仮設住宅一覧

番号	名称	建設地の通称	設置戸数	集会場 談話室	着工日	完成日
1	沢川応急仮設住宅	盛小学校	50	1	5月20日	7月28日
2	東町応急仮設住宅	東町公園	13	1	5月6日	6月7日
3	下館下応急仮設住宅	下館下	16	1	6月10日	7月7日
4	地ノ森応急仮設住宅	県立大船渡病院跡地	72	1	3月25日	4月20日
5	山馬越応急仮設住宅	大船渡北小学校	88	1	3月30日	4月26日
6	永沢応急仮設住宅	大船渡中学校	138	1	4月5日	5月9日
7	上平応急仮設住宅	上平地区	41	1	5月2日	5月27日
8	大田応急仮設住宅	市営球場	118	0	4月8日	5月11日
		市営球場第2	16	1	4月8日	5月11日
9	山岸応急仮設住宅	末崎小学校	58	0	4月11日	5月11日
10	平林応急仮設住宅	末崎中学校	70	1	4月11日	5月11日
11	小中井応急仮設住宅	小中井地区	27	0	5月6日	6月13日
12	大豆沢応急仮設住宅	大豆沢地区	24	0	5月6日	6月16日
13	長谷堂応急仮設住宅	長谷堂団地	21	1	5月6日	6月16日
14	轆轤石応急仮設住宅	猪川小学校	50	1	6月3日	7月22日
15	大立応急仮設住宅	大立地区	65	1	4月13日	5月13日
16	鳥沢応急仮設住宅	蛸ノ浦小学校	47	1	4月13日	5月13日
17	清水応急仮設住宅	清水地区	19	1	4月29日	5月24日
18	後ノ入応急仮設住宅	後ノ入地区	64	1	4月22日	5月24日
19	後ノ入北応急仮設住宅	後ノ入北地区	14	0	5月6日	6月13日
20	山口応急仮設住宅	山口地区	27	0	5月6日	7月11日
21	長洞応急仮設住宅	総合公園	308	1	4月22日	6月26日
22	宮田応急仮設住宅	第一中学校	120	1	5月27日	7月7日
23	黒土田応急仮設住宅	綾里中学校	90	1	4月16日	5月24日
24	仲崎浜応急仮設住宅	崎浜小学校	35	1	5月6日	5月31日
25	甫嶺応急仮設住宅	甫嶺地区	27	1	5月17日	6月29日
26	杉下応急仮設住宅	山村広場	84	1	4月21日	5月18日
27	久名畑応急仮設住宅	久名畑	16	1	6月10日	7月14日
28	下船渡応急仮設住宅	下船渡公園	10	1	6月10日	7月15日
29	富沢応急仮設住宅	富沢公園	8	1	6月10日	7月11日
30	前田応急仮設住宅	前田公園	12	1	6月10日	7月19日
31	下権現堂応急仮設住宅	下権現堂公園	12	1	6月10日	7月11日
32	猪川応急仮設住宅	猪川公園	12	1	6月10日	7月19日
33	下富岡応急仮設住宅	ろくろ石教員住宅跡	8	1	6月3日	7月7日
34	館下応急仮設住宅	館下公園	6	1	6月10日	7月16日
35	木町応急仮設住宅	佐倉里公園	6	1	6月10日	7月16日
36	吉浜応急仮設住宅	吉浜駅近接ゲートボール場	5	1	6月10日	7月11日
37	合足応急仮設住宅	合足	4	1	6月17日	7月12日
計			1,801	32	掃除機寄贈 32箇所	

(別紙12)

肝付町・大船渡市青少年交流事業の参加者名簿

※ 生徒20名(男子5名、女子15名)

	氏名	学年	性別	学校名
1	宮田 康 矢	2	男	大船渡 第一中
2	高橋 莉子	2	女	
3	佐藤 真由香	3	女	大船渡中
4	久保田 美空	3	女	
5	大和田 瞬	2	女	末崎中
6	佐藤 未雪	3	女	
7	濱守 優希奈	3	女	赤崎中
8	崎山 千尋	3	女	
9	千葉 美乃里	3	女	日頃市中
10	伊藤 将	3	男	

	氏名	学年	性別	学校名
11	千葉 恵	1	女	綾里中
12	千田 あやか	1	女	
13	川原 慎平	3	男	越喜来中
14	小澤 萌	3	女	
15	寺嶋 岬	3	女	
16	岡澤 優里	3	女	吉浜中
17	菊池 望	3	女	
18	三浦 一輝	3	男	
19	道下 慶佑	3	男	
20	佐藤 奈央	3	女	

※ 引率者2名

氏名	性別	所属	氏名	性別	所属
新沼 貞子	女	越喜中学校副校長	藤原 誠彦	男	市教委社会教育主事

7月31日のホームステイ先

氏名	学年	性別	学校名	氏名	学年	性別	学校名	保護者
三浦 一輝	3	男	吉浜中	飯山 幸大	3	男	内之浦中	朋宏
道下 慶佑	3	男						
寺嶋 岬	3	女	越喜来中	岡野 史香	3	女	内之浦中	大介
岡澤 優里	3	女						
佐藤 真由香	3	女	大船渡中	伊地知 桃花	2	女	内之浦中	利広
久保田 美空	3	女						
菊池 望	3	女	吉浜中	田中 希奈	3	女	内之浦中	幸一
佐藤 奈央	3	女						
佐藤 未雪	3	女	末崎中	別府 美咲	2	女	岸良中	保
濱守 優希奈	3	女						
宮田 康矢	2	男	第一中	伊倉 滉大	3	男	高山中	浩教
伊藤 将	3	男	日頃市中					
千葉 恵	1	女	綾里中	河野 さくら	1	女	高山中	新吾
千田 あやか	1	女						
大和田 瞬	2	女	末崎中					
高橋 莉子	2	女	第一中	上原 啓夢	1	男	高山中	樹縁
小澤 萌	3	女	越喜来中					
川原 慎平	3	男	越喜来中	内倉 美輝	3	男	波野中	美利
崎山 千尋	3	女	赤崎中	半下石 悠希	3	女	波野中	二男
千葉 美乃里	3	女						

(別紙13)

テント、ミシンを寄贈した綾里小学校の生徒・先生からいただいた手紙 (一部抜粋)

5年 坂本 美優さんから

鹿児島県肝付町のみなさんへ

このごろずいぶん寒くなってきました。立派なミシンを贈っていただきありがとうございました。私たちは家庭科の時間にナップザックを作りました。とても使いやすかったです。ありがとうございました。

5年 澤田 ひよりさんから

ミシンを寄付してくださってありがとうございました。初めてのミシンだったけど使いやすくて上手にできました。最初は曲がったりしたけど、だんだんまっすぐに縫えるようになりました。

5年 小西 優香さんから

このたびは、ミシンを寄付していただき、ありがとうございます。おかげさまで新しいミシンで、とても使いやすいです。今は、ミシンで「ナップザック」を作っているところです。ミシンを使うのは初めてでしたが、通す順序が書いてあり、分かりやすいです。これからもお体に気をつけてください。

5年 三川 泰暉くんから

もう11月です。そちらは寒いですか。こちらは寒くなってきました。肝付町からはミシン、テントなどいろいろなものを支援してもらいました。僕たち5年生はミシンを使いました。ナップザックを作っています。肝付町からのミシンは使いやすいです。ありがとうございました。

5年担任 佐々木 寿子先生から

子どもたちは楽しそうに、自分の作品ができていくのがうれしいというように、ミシンに向かっておりました。おかげさまでどの子も作り上げることができました。大変ありがとうございました。

寒に入り、岩手の中では温暖といわれる大船渡も時折、雪がちらついています。冬休みが終わり、3学期となりましたら、また子どもたちと一緒に楽しく活動していきたいと思っております。ありがとうございました。

三浦 英子校長先生から

肝付町の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

肝付町からミシンとテントをご支援いただき、大変ありがとうございました。綾里小では、2学期にマラソン大会、学習発表会を開催し、子どもたちの精一杯の頑張りを保護者の方、地域の方に見ていただきました。まだ課題もありますが、全国のたくさんのご支援を支えに頑張っていきたいと考えております。肝付町のますますのご発展をご祈念し、お礼とします。



綾里小学校5年生のみなさん

(別紙14)

鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム負担金会計明細 (平成24年3月14日現在)

(収入の部)

(単位:円)

科目	当初 予算額	補正 予算額	予算現額	収入済額	増減	備考
負担金	4,500,000	3,300,000	7,800,000	7,800,000	0	4市5町負担金
その他収入	5,000	0	5,000	119	△4,881	預金利子
計	4,505,000	3,300,000	7,805,000	7,800,119	△4,881	

(支出の部)

(単位:円)

科目	当初 予算額	補正 予算額	予算現額	支出済額	不用額	備考
会議費	100,000	△80,000	20,000	0	20,000	
事務局費	1,600,000	3,800,000	5,400,000	5,522,762	△122,762	
旅費	800,000	2,500,000	3,300,000	3,230,380	69,620	現地支援本部旅費日当
備消耗品費	50,000	0	50,000	69,892	△19,892	チーム用ベストほか
食糧費	5,000	150,000	155,000	140,114	14,886	職員用お米代ほか
印刷製本費	0	100,000	100,000	63,735	36,265	被災者受入策チラシ
修繕料	0	100,000	100,000	45,696	54,304	給水車修理
通信運搬費	145,000	450,000	595,000	872,210	△277,210	支援物資輸送費ほか
支援対策費	600,000	500,000	1,100,000	1,100,735	△735	漁業者用カップ
現地本部活動費	2,600,000	△420,000	2,180,000	2,126,478	53,522	
旅費	100,000	△20,000	80,000	69,375	10,625	最終隊宿泊費ほか
備消耗品費	300,000	0	300,000	378,421	△78,421	事務用品ほか
通信運搬費	300,000	△200,000	100,000	66,195	33,805	プリペイド携帯使用料
燃料費	1,000,000	△100,000	900,000	864,052	35,948	公用車ガソリン代
修繕料	100,000	0	100,000	39,328	60,672	ワゴン車ほか修理
食糧費	100,000	0	100,000	54,811	45,189	職員用食材費ほか
賃借料	500,000	△100,000	400,000	445,971	△45,971	レンタカーリース代
雑費	200,000	0	200,000	208,325	△8,325	給水車輸送費ほか
予備費	205,000	0	205,000	0	205,000	
計	4,505,000	3,300,000	7,805,000	7,649,240	155,760	

収入済額 7,800,119円 - 支出済額 7,649,240円 = 150,879円 (3月14日現在の残金)

肝付フレンズ支援活動参加者名簿

番号	氏名	フリガナ	年齢	所属
1	井上友菜	イノウエ ユウナ	18	サタボラクラブ 尚志館高校看護科3年
2	坂元ことみ	サカモト コトミ	18	サタボラクラブ 尚志館高校看護科3年
3	曾木明	ソギ アカリ	17	サタボラクラブ 高山高校2年
4	山之口聡子	ヤマノクチ サトコ	17	サタボラクラブ 尚志館高校看護科3年
5	田中美緒	タナカ ミオ	16	サタボラクラブ 尚志館高校普通科1年
6	能勢龍輝	ノセ タツアキ	11	サタボラクラブ準会員 鹿屋市立寿小5年
7	津代幸一郎	ツシロ コウイチロウ	48	肝付町社会福祉協議会
8	永谷宏幸	ナガタニ ヒロユキ	40	肝付町地域包括支援センター
9	江之口博行	エノクチ ヒロユキ	50	NPO法人大隅療育ネットワーク
10	能勢佳子	ノセ ケイコ	42	肝付町地域包括支援センター
11	宇都千津美	ウト チヅミ	31	肝付町地域包括支援センター

- 1 イベント名称 サタボラ in 大船渡 一緒に笑って笑顔いっぱい運動
- 2 イベント会場 大船渡市 典人会 介護老人保健施設「ひまわり」……利用者18名、スタッフ9名
地域密着ケアホーム「平」……利用者12名、スタッフ5名
大洋会 慈愛デイサービス……利用者6名、スタッフ2名
崎浜地区 岩木さん宅……本人及びご友人2名
- 3 イベントテーマ ○「一緒に笑って笑顔いっぱい」被災地に笑顔の花を咲かせましょう！
○肝付の次世代の子どもたちに、この震災の経験を伝え、後世に生かす活動につながる礎にしよう！
- 4 効果・今後の課題 それぞれの施設の訪問や個人宅の訪問を通して、福祉施設の方々と一緒に同じことに取り組み、楽しむ活動をできたことで、サタボラメンバーや福祉施設の利用者の方々、スタッフの方々にも、心の交流が生まれ、何かを伝えたいという想いが自然とわいてきた活動であった。ただ一方的に支援をすることであつたり、お話を聞くだけの活動ではないからこそ、想いを共有することができた。
今後は、それぞれのボランティアメンバーが手紙や物資を送るという活動につなげ、大船渡市との交流を続けることだけではなく、今回感じたことをそれぞれの学校や地域で発表する機会を持ち、震災から学ぶ助け合い、支えあいの活動を深めていきたい。また、今回の報告会を地域の方向け、ケアスタッフ向けに実施し、今後の私たちの地域での取り組みに生かしていきたい。

(別紙16)

大船渡市への「復興と絆の桜」植樹に伴う募金のお願い～大船渡市復興支援趣意書～

平成23年12月吉日
大船渡復興支援隊有志一同

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

2011.3.11の東日本大震災から早9ヶ月が過ぎ、忘れることのできない2011年もあと数日で閉じようとしています。復興支援については、民間をはじめ、行政や団体も各種行事やイベントを通じて「がんばろう日本！東日本大震災復興支援」と冠を設け、被災地の情報提供や募金活動を行い、被災された方々の支援を行っているところです。

私たち、職員も大隅半島4市5町による一体的な支援として、それぞれの自治体から派遣され、一致団結して給水業務や物資の仕分け、被災車両の管理、保健活動、災害義援金や弔慰金の申請受付・支給事務など被災地の実情に合わせた支援を行ってきたところです。

この職員派遣も8月末をもって一旦終了しましたが、支援チームの宿舎となった猪川地区公民館では、地域の方々のご理解のもと、5ヶ月を超える長期間、和室や調理室などの無償提供していただきました。さらには地元食材の差入れなど色々な方面から支援をいただき、私たちも派遣隊員も無事業務を遂行できたところです。

そこでお礼の意味を込めて、大隅半島4市5町の職員が大船渡市の復興を祈念するとともに、今後とも大船渡市の復興を見守りながら、継続的な支援を行うため、派遣された職員をはじめ、支援に行きたくても業務の都合から行けなかった職員、そしてそれをサポートしてくださった方々から募金を募り、復興と絆のシンボルとして、そして復興に向け、がんばっている市民の方々に憩いと安らぎの場を提供しようと、支援活動拠点のあった猪川地区に桜植樹を計画いたしました。

現在のところ大船渡市最大の仮設住宅地で約300世帯の方々が生活している猪川地区総合運動公園建設予定地周辺を第一候補に計画を進めています。植栽時期については、11月から2月いっぱいはいは現地が凍結期のため、3月以降の植樹となる予定です。現在、植栽本数や品種等について、先方の有志の方々と協議を行っています。いずれにしても、派遣職員の方々はもとより、4市5町全職員の方々のご理解とご協力がいただけるかが最も大事なことを考えております。自分らができることは本当に小さく、世の中にとって無意味なことかもしれません。でも、何かしたいと思い計画いたしました。つきましては、当趣旨をご理解のうえ、善意のカンパをお願いできればと思っています。私たち大隅半島4市5町が一致団結して支援を行っていくことで、桜の生育とともに、大船渡市や市民の方々も元気になり、街も活力を取り戻すことを祈念して、この桜植樹プロジェクトにご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

尚、この活動は大隅半島4市5町復興支援チーム本体にも承認され、サポートを受けている活動であることを申し添えます。

大船渡市における物資集積場等一覧

No.	集積所	主な従事者	時期	備考
1	大船渡市役所 地階会議室	大船渡市職及び 緊急雇用者	3月～ 10月頃	
2	大船渡市総合 福祉センター	大船渡市職及び 緊急雇用者	3月～ 7月頃	支援自治体宿泊所確保と従来の活動場所確保のため、徐々に縮小
3	カメラホール1階 多目的ホール	大船渡市職及び 緊急雇用者	3月～ 4月頃	盛小学校体育館避難所とカメラホール2階避難所をカメラホール全館避難所とするため、盛小学校体育館へ移動
4	盛小学校体育館	大船渡市職及び 緊急雇用者	4月末 ～7月頃	小学校再開に向け、避難所から体育館のみを物資集積所とした。
5	猪川地区公民館 体育館	大船渡市職及び 緊急雇用者	4月末頃 ～10月頃	水ペットボトル集積所、その後は寝具類集積所となった。
6	野々田港湾テント	大船渡市職及び 緊急雇用者	7月頃 ～12月頃	水ボトル支援が続いたので、猪川地区公民館体育館から遠隔の野々田港湾テントへ移動。その他、オムツ等生活物資を集積。
7	岩手県立大船渡東 高校第一体育館	大船渡市職及び 緊急雇用者	3月～ 4月初旬	開放のため、立根小学校へ移動
8	立根小学校体育館	大隅半島4市5町 復興支援チーム 及びボランティア	4月中旬 ～ 7月末頃	生活物資等集積所。銀河連邦肝付町を中心とした大隅半島チームが受入、管理、払出の一切の作業を行った。
9	大船渡小学校体育館	相模原市職及び ボランティア	4月中旬 ～7月末頃	生活物資等集積所。銀河連邦相模原市が受入、管理、払出の一切の作業を行った。
10	日頃市小学校体育館	能代市職及び 能代市民協議会 及びボランティア	4月末頃 ～ 7月末頃	寝具類集積所。銀河連邦能代市が受入、管理、払出の一切の作業を行った。
11	日頃市中学校体育館	能代市職及び 能代市民協議会 及びボランティア	4月末頃 ～ 7月末頃	衣類集積所。銀河連邦能代市が受入、管理、払出の一切の作業を行った。
12	大船渡市民体育館	大船渡市職及び 緊急雇用者及び ボランティア	7月頃 ～現在	小中学校体育館開放のため、市民体育館の被災箇所を修理し、小中学校体育館の物資を移動した。

3月27日(日) 給水予定表

大船渡市水道事業所・日本水道協会

No	日水協 支部等	府県名	担当	容量 (t)	人員	給水場所
1	中部	福井県	越前市	2	2	綾姫ホールほか綾里地区
2			鯖江市	2	2	大船渡南(下船渡公～大船渡小うら) ヤマト運輸
3	関西	滋賀県	湖南市	2	4	碁石コミ 三十刈公 碁石公 大豆沢バス停 門之浜 中井伝承館 愛宕神社 小田梅神コミ
4		和歌山県	和歌山市	2	2	北小 (リアスホール)
5		兵庫県	加古川市			熊野神社 長源寺 中野公 峰岸公 小細浦
6		和歌山県	海南市	3	2	明神前(新沼商店前) 北小・リアスホール
7		大阪府	吹田市	2	3	大船渡保育園 台町公園 (1日固定)
8			貝塚市	2	3	タケノ文具(上山) (1日固定)
9			堺市	2・4	6	湖南市と同じコース 末崎小
10			和泉市	2	2	
11		京都府	城陽市	2	2	安養寺 和村公 志田建設前 久保公
12			京都市	2	2	永沢～下船渡・高台
13	大阪府	大阪市	4	2	関西支部の給水配置指示 (随時給水)	
14	銀河 連邦	鹿児島県	肝付町	3	2	(午前) 沢田公 佐野 (午後) 赤崎漁村センター 山口高台 蛸ノ浦漁村厚生施設 長崎担い手センター
15		秋田県	能代市	2	2	みどり町公園
16	市		青トラック	1	2	市内巡回
17			白トラック	1	2	明和保育園 地ノ森公園
18			サンバー		1	各地の状況把握
自衛隊						立根小学校 市役所 大船渡地区公民館 末崎ふるさとセンター 大船渡中 お魚センター 花菱縫製(越喜来) (補給のみ)
給水タンク補給			第3浄水場		3	熊谷(洋) 企画職員
浄水場・通水作業					4	佐々木(秀) 熊谷(克)

給 水 状 況 記 録

年 月 日		平成 23 年 ○ 月 ○ 日 (金)		
車 両	所 属	大隅半島4市5町復興支援チーム		給水用ホース m × 本
	タンク容量	3 トン	ポリタンクなど	個 × 個
	加圧ポンプ	○有・無	スピーカー	○有・無
乗車人員		2 人 (同行市職員 0 人)		
給 水 状 況				
時 間		場 所		特記(連絡事項)
8:00 ~ 8:10		給水1回目		3000リットル
8:30 ~ 9:10		地図①		2500リットル
9:10 ~ 9:20		地図②		500リットル
9:50 ~ 10:00		給水2回目		3000リットル
10:30 ~ 10:45		地図② 2回目		200リットル
10:50 ~ 11:00		地図③		300リットル
11:05 ~ 11:15		地図④		3000リットル
11:20 ~ 11:45		地図⑤		1800リットル
12:10 ~ 12:25		給水3回目		2600リットル
13:25 ~ 15:00		蛸ノ浦ほか9ヶ所		2500リットル
15:30 ~ 15:40		給水4回目		2500リットル
記入者の所属・氏名		4市5町復興支援チーム		○○○○、△△△△

※給水活動中の個々の要望(給水場所の追加)等は、「我々は、市の指示で給水ポイントと大まかな時間を決められて移動しているので、要望があったことは市に伝えますが、次の場所に移動するため、今は要望に応えられません。」と伝えてください。

東日本大震災により被災した自動車の引き渡し及び処理について

平成23年5月20日 都市整備部建設課

平成23年3月11日に被災した自動車等のうち、大船渡市が仮置き場に移動し、保管していた自動車について、下記のとおり引き渡し(廃車手続き等を含む)及び処理を行うこととする。

記

- 1 今回、引き渡し及び処理する自動車等
3月12日から5月12日までに市が仮置き場に移動し、保管していた自動車等3,098台
(大船渡地区2,580台、綾里地区185台、越喜来地区333台) ※詳細は別紙引き渡し車両リストのとおり

2 引き渡し日・対象者・場所

月 日	対象者(自動車の所有者等)	場所(仮置き場)
5月30日(月)	盛町に住所を有する方	赤崎中学校前の永浜 山口地区港湾埋立地
5月31日(火)	大船渡町北部に住所を有する方	〃
6月1日(水)	大船渡町南部に住所を有する方	〃
6月2日(木)	末崎町に住所を有する方	〃
6月3日(金)	末崎町に住所を有する方	〃
6月4日(土) 6月5日(日)	土日でないに対応できない方	〃
6月6日(月)	猪川町・立根町・日頃市町・三陸町・市外に住所を有する方	〃
6月7日(火)午前	三陸町越喜来地区内で自動車等が被災した方	三陸公民館駐車場
6月7日(火)午後	〃	森飯の第2駐車場
6月8日(水)午前	〃	崎浜漁港南側

※大船渡町の北部、南部の境は、JR大船渡駅前及び駅裏の道路とする。

3 受付時間

午前 : 9時～11時30分 午後 : 1時～4時30分

4 引き渡し

- (1)個人で引き取る(処分を含む)場合
自動車等を取り出せるようになった時から市から個人に連絡し、引き取ってもらう。
(2)市に処分を委任する場合
市が委託する業者が処分する。

5 廃車手続き等に必要な書類

- (1)普通自動車
①ナンバー(2枚) ②車検証 ③印鑑証明書 ④実印(実印を紛失の場合は認印、法人の場合は代表者印) ⑤運転免許証(表・裏)のコピー
(2)軽自動車
①ナンバー(2枚) ②車検証 ③認印 ④運転免許証(表・裏)のコピー
(3)重量税還付申請者(車検期間満了日が、平成23年4月10日以降のもの)
振り込みする金融機関の口座番号等がわかるもの

6 処理

- (1)次のいずれかに該当する場合、平成23年6月9日(公告開始日から3週間経過した日)に処分を決定し、使用済自動車として、市が処理する。
①所有者等と連絡が取れない場合
②被災による損傷が著しく、車両ナンバーや車体番号が判明しないこと等により、当該被災自動車等の所有者が確認できない場合
(2)市が処理する際、資源価値として収入が生ずる場合があるが、引き渡し期間内に所有者等から何らの申し出がなかった場合、前記収入に係る権利は放棄したものと取り扱う。

7 その他

引き渡し当日の混雑を少しでも防ぐため、自筆を要する次の書類を市建設課で配付するので、あらかじめ記入した上で、来場するよう周知する。

- (1)申立書
(2)被災自動車に係る自動車重量税の特例還付申請書(3枚)
※複写になっていないため、事前だと1枚書いて2枚コピーすれば済むが、当日はコピー機がないことから、3枚に書いてもらわなければならない。

8 周知方法(予定)

- (1)各地区本部、避難所への掲示 (2)市ホームページへの掲載 (3)新聞への掲載
(4)防災行政無線 (5)さいがいFMラジオ (6)盛町、末崎町、赤碕町北は班回覧

資格要件チェックシート

※太枠を記入してください

※太枠を記入してください		受付日	年 月 日
来所者氏名①		り災証明書番号	195-
世帯主氏名②		①から見た②続柄	
被災時の住所			
避難先			
連絡電話番号			

あなたやご家族の状況を教えてください。(あてはまるものに○を付けてください。)

1 1) 今回の災害により、あなたのご親族(配偶者、父母、子、祖父母、孫)の中に、①お亡くなりになった方または②行方不明になった方③重度の障がいを受けられた方はいますか? →		いる (人) ・ いない ※「いる」に○した方は下表も記入		
氏名	生年月日	被災時の住所	いずれかに○	(世帯主との) 続柄
	M・T S・H 年 月 日		1 死 亡 2 行方不明 3 障がい	
	M・T S・H 年 月 日		1 死 亡 2 行方不明 3 障がい	
	M・T S・H 年 月 日		1 死 亡 2 行方不明 3 障がい	
	M・T S・H 年 月 日		1 死 亡 2 行方不明 3 障がい	
2 あなたの世帯の「り災証明書」の結果は?		全壊・大規模半壊・半壊・一部損壊以下		
(1)被災時の居住形態は?		持ち家・借家		
(2)被災住宅はどうされますか?		修理する・解体する		
(3)新しい住まいの形態は?		修理された元々の住まい・公営住宅等・自分で契約した借家・自分で新築した住宅		
(4)新しい住まいの場所は?		同じ住所・同じ市町村の異なる場所 ・同じ岩手県内の他の市町村 ・他県の隣接する市町村 ・他の都道府県の隣接しない市町村 ・やむを得ない事由により移転		
(5)仮設住宅への入居を希望されますか?		希望する(希望した)・希望しない		
整理番号		世帯コード		
世帯人員	人	世帯収入	円	
世帯主の年齢	歳	受付日	年 月 日()	
該当制度 その他特記事項	1 <input type="checkbox"/> 災害義援金(人的被害) 2 <input type="checkbox"/> 災害義援金(住家被害) 3 <input type="checkbox"/> 被災者生活再建支援	4 <input type="checkbox"/> 災害弔慰金(生計・その他) 5 <input type="checkbox"/> 災害障害見舞金(生計・その他) 6 <input type="checkbox"/> 災害援護資金		
記入者・所属		氏名		

保健活動実施報告書(例)

① 避難所巡回 ② 仮設住宅訪問 3 その他の家庭訪問等 所属名 大隅連合 出席者 ○○○、△△△

Table with columns for implementation date, staff, support locations, health consultation details, and other notes. Includes sub-tables for staff counts and consultation types.

復興支援現地本部日誌(例)

平成23年〇月〇日(日)

本部長		係		天気	晴れ
業 務 内 容	従事業務	従事者名	場所	従事内容と勤務時間	
	本部事務	竹之下、渡會	市役所ほか	市役所との協議、作業調査、記者会見参加	
	給水班	末野、大迫	市内一円	定期巡回:7:30~17:30 給水8,100ℓ	
	物資班	竹野、勝野、草原、吉元	立根小	物資の受け入れ、仕分け:7:30~19:00	
	警備班	山口、水流、救仁郷	車両置場	8:30~16:00	
	保健師班	堀之内、池松	各避難所	9:30~18:00 相談業務、合同ミーティング	
特 事 事 項 及 び 連 絡 事 項 等	<p>【大船渡市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物資について、仕分けがしっかりできた。今後、野菜(キャベツ、にんじん、ゴボウ)や肉を送り込む必要がある。ただし、計画的に、定期的に(爆弾投下は止めて欲しい) ・赤崎地区の避難所、リアスホールの避難者及び炊き出し状況を確認したが、コンクリートの床にマットを敷いて寝ている状況や空気が悪いのが気になる。 <p>【鹿児島県大隅半島4市5町復興支援チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給水班……通常コースを運行。日曜日のため、給水量が増加。 ・物資班……物資の受け入れの通常業務。日曜日のため、搬入等が少なかった。今後、物資の管理作業がもっと必要になると思われる。本日も19時までの作業であったので、他の班員まで協力をいただいた。 ・警備班……日曜日のため、車両を確認される方が多かった。管理表の早急な作成が必要である。 ・保健師班……避難所相談(大船渡小5名、福祉の里8名、カメラアホール2名)、合同ミーティング <p>【その他】</p> <p>在庫を調べていると、食料等は少しずつ搬出されるが、衣料品の搬出は極端に少ないことから、被災者の方々にとって何が一番必要か再検討してみる必要があると思った。</p> <p>また、鹿児島から災害支援に来ているとわかると涙を流して感謝される方がいた。</p>				
その他	AM5:30 全員で陸前高田市の被災現地を視察調査する。				

(別紙23)

町職員への義援金お願い文書

職員のみなさんへ

「東北地方太平洋沖地震」の募金のお願い

肝付町長 永野 和行

3月11日、東北地方太平洋沖で発生した未曾有の大地震は、大津波を発生させ、人や家屋に甚大な被害を及ぼしました。

被害のあった都市のうち、銀河連邦としての交流があり、災害時における相互支援に関する協定を締結している岩手県大船渡市を支援するため、災害支援本部を設置し、さまざまな取り組みをすることになりました。まずは3月14日に役場職員5名と給水車を先遣隊として派遣、15日には救援物資を積んだトラックを大船渡市に派遣いたしました。

一般町民に対しては、1戸あたり1000円の募金をお願いすることとなりました。このようなことをうけて戦略会議において、今回被災した大船渡市に対し、役場職員のみなさんへ特別募金を取り組むこととなりました。募金目標額につきましては、下記のとおりとさせていただきたいと思っておりますので、ご協力方よろしくお願い申し上げます。

募金目標額 一人あたり 課長職 10,000円 一般職 5,000円

町民への義援金お願い文書

町民のみなさんへ

「東北地方太平洋沖地震」の募金のお願い

肝付町長 永野 和行

3月11日、東北地方太平洋沖で発生した未曾有の大地震は、大津波を発生させ、人や家屋に甚大な被害を及ぼしました。

被害のあった都市のうち、宇宙開発研究施設のある6市町で構成する銀河連邦としての交流があり、災害時における相互支援に関する協定を締結している岩手県大船渡市を支援するため、災害支援本部を設置し、さまざまな取り組みをすることになりました。まずは3月14日に役場職員5名と給水車1台を先遣隊として派遣、15日には救援物資を積んだトラックを大船渡市に派遣いたしました。

旧内之浦、旧高山町時代には、昭和13年の大水害時に今回被害を受けた岩手県をはじめ、東北各県から多額の義援金を受けた歴史があります。今回は被災した東北地方の住民を応援するため、町民の皆様方に募金をお願いすることになりました。

つきましては、募金目標額を下記のとおりとさせていただきたいと思っておりますので、ご協力方よろしくお願い申し上げます。

募金目標額 一戸あたり 1,000円

H23.3.21(日)南

「人手、下着足りない」

肝付町職員 岩手支援から帰還

東日本大震災の被災地岩手県大船渡市で災害支援のため職員派遣をしている肝付町の先遣隊5人が19日夜、町役場に戻った。現地では救援物資の仕分けと給水を担当。支援物資は仕分けに時間が掛かり、給水車まで足を運べない高齢者が少なくなかった。下着や燃料の不足も深刻で、隊長の永野秀明企画課長補



全国各地から届く救援物資を仕分ける肝付町職員
—18日午前11時ごろ、岩手県大船渡市役所（肝付町役場提供）

佐(49)は「街全体が極寒の焼け野が原のようだった。何か必要が見

極めて今後の支援につなげたい」と語る。先遣隊は14日、4

給水車とワゴン車に分乗して出発、志布志港からフェリーで大阪へ

入り、陸路岩手を目指した。途中、東京電力の福島第1原子力発電所の事故を受けてルートを変更し、秋田経由で16日夜、大船渡市に到着。他自治体の派遣職員とともに2日間にわたって、支援活動に当たった。給水車で向かったのは水道が使えずに川の水を洗濯に使ったり、煮沸して飲料水にしていた地域。1日1、2カ所、3〜4回往復した。到着のたびに、バケツやポリタンクを抱えた被災者の行列ができた。足が不自由で給水車まで来られない人や、重たいバケツを運べない人も多い。「家まで運ぶ職員がいればよかったのだが、人手が足りなかった」

市役所の地下にある救援物資受け入れ所では、仕分け作業に追われた。衣類は男女、大人、子ども用が二緒くたに入っていて、一枚一枚広げて分けなければならぬ。「下着は世代、性別問わず足りない。種類ごとに分けるなど送りの工夫も必要」と要望する。一方、行方不明者の捜索は依然難航。がれき撤去にも手が回らない。家に住める人たちも物資を求めて避難所に遠い道のりを歩いている。給水車のナンバーを見て「鹿児島から来たの。寒いでしょう」とカイロを手渡す人がいた。自宅からイカと大根の煮付けをお礼に持ってくる人がいた。「被災者のやさしさに逆に支えられた。何年かかるか分からないが、何とか復興してほしいとの思いを強くした」と祈るように話した。肝付町は宇宙航空研究開発機構の施設がある全国6市町でつく「銀河連邦」の災害時相互応援協定に基づき職員を派遣。少なくとも4月末まで5日間交代で派遣を続ける。

在宅の孤独死防げ

岩手・大船渡

4/10 南日本

全戸ローラー作戦

肝付の保健師ら参加

大隈一馬4市5町の震災復興支援チームが活動を続ける岩手県大船渡市。自家発電や救援物資がそろわず避難所に対し、被災を免れた集落には断水、停電のうえ、電話も不通となっている家も多い。市は長期のライフライン寸断による「自宅難民」や孤独死など二次被害の発生を警戒。全員が被災者と想定し、支援チームの保健師らの手を借りた全世帯訪問に取り組んでいる。



ローラー作戦に参加する肝付町の保健師能勢佳子さん。高齢者の健康チェックは特に重要だ
＝3月31日、岩手県大船渡市

「おじいちゃん、具合はどうですか」。3月31日、大船渡市三陸町の陸奥集落を肝付町の保健師能勢佳子さんが地図を片手に1戸1戸訪ね歩いた。市街地から離れ、高齢者が多い漁村。震災後、健康調査をするのは能勢さんが初めてだ。
この日の最低気温は0度。停電で電気を使った使えない。固定電話の不通も続く。携帯電話は一部つながるが、充電が切れると緊急時に使えなくなる。
介護の必要性、通院している病院名、服薬のチェックのほか、血圧計や体温計を手放さない。「話す内容や表情も見逃さない」。熱心にメモを取る。
肺炎を患い退院したばかりの男性(87)は寒

気を訴えた。息子(43)と暮らすが昼間はひとり。相談相手を尋ねると「いない」と返した。

断水が続く大船渡市赤崎町崎ノ浦の主婦新沼芳子さん(59)は、大隈チームが行った給水に笑顔をみせ、一輪車に何本も水を積み込み、自宅への長い坂道を登った。
避難所の方が情報と物資が集まり、自宅生活者は後回しになっていると感じるが、「家が残り、助かっただけでもまし」と話した。

しかし、同市の保健師佐藤かおりさんは「孤独死の報告はないが、1日1食で我慢したり、被災した親せきを何世帯も受け入れ、食料不足に陥ったりするケースが出ています」と指摘する。
保健師は毎日巡回後に全員集まり、情報と意見を出し合う報告会を実施。「家があるのに物資をもらいになぜ来るとかと言われるのか」と言われた。「集落の人が誰も家を訪ねてくれない」など、自宅生活者からの不満が次々に寄せられる。

被災者の元に直接足を運んで話を聞くことで、「いかに不安を感じ、何を必要としているかが見えてくる。能勢さんは「保健分野だけでなく、震災によって地域が抱える課題全体が浮き彫りになるメリットがある」と取り組みを評価した。

ありがとう大隅半島

職員支援活動終え「感謝の会」

大船渡



東日本大震災直後からたってきた鹿児島県の支援チームの活動が、このほど終了した。同チームが長期間宿泊先として利用してきた猪川地区公民館は「感謝とお別れの会」を同館で開き、職員らの献身的な業務を労いながら、今後の友情継続を誓い合った。

大船渡市で支援にあたる大隅半島4市5町復興支援チームの活動が、このほど終了した。同チームが長期間宿泊先として利用してきた猪川地区公民館は「感謝とお別れの会」を同館で開き、職員らの献身的な業務を労いながら、今後の友情継続を誓い合った。

復興支援チームを構成する市町のうち、肝付町は同市とともにJAXA関連施設がある自治体で構成する「銀河連邦共和国」に加え、長期間に渡る支援活動を労った「感謝とお別れの会」は猪川町

大船渡市では、同チームの会長を務める嶋田芳博鹿屋市長のメッセージが紹介された。この中では「絆」は、「糸」に「半分」と書きます。糸の片方を大船渡市民が持ち、もう片方を大隅半島の住民が持つていきます。早期復興を願う熱い思いを表現。ライブ

ラインが寸断された震災直後からの活動に改めて感謝を示し、交流継続を約束しあった。

肝付町単独を含める震災発生時から5カ月余りにおける人的支援は約256人に上り、派遣職員は義援金申請をはじめとした各種行政対応に従事。物資支援では無洗米1トンをはじめ、各避難所には野菜や豚肉などの定期提供を続けた。業務だけでなく、震災復興に向けてさまざまな支援活動を展開。大隅半島チームの職員がデザインした紫色の「がんばっぺTシャツ」は評判を呼び、大隅半島の一般住民からも購入希望が寄せられるほどの人気となった。市民向けの注文は現在、猪川地区公民館で1着1500円で受け付けている。

日頃の活動ねぎらう

猪川町のボラ団体への感謝会開く



田畑さんに花束を渡す熊谷さん＝猪川地区公民館

鹿児島県から訪れているボランティア団体「大隅半島4市5町復興現場地支援本部」への感謝会が1日、大船渡市猪川町の猪川地区公民館で開かれた。

同団体は、東日本大震災発生3日後の3月14日から同市を訪れ、給水や物資の仕分け作業などを行ってきた。現在も、同公民館で復旧泊まりしながら市役所保健福祉課で義援金の書類整理、仮設住宅を訪問しての心と体のケアなどを行っている。

感謝会は「市民のために活動しているメンバーに感謝の気持ちを表したい」と、猪川町の熊谷ケエ子さん(78)が開催。はじめに熊谷さんが「言葉では

言い表せないほど感謝しています」と述べて花束を贈呈。メンバーらはその後、熊谷さんの手作り料理を堪能し、和やかな夜を過ごしていた。

一つである肝付町役場住民課の田畑隆一郎課長は「地域の皆さまが喜んでくれているのがうれしい。逆に勇気ももらっています」と話していた。

被災地支援活動を終了

大隅4市5町連携 計241人派遣

東日本大震災で被災した岩手県大船渡市への支援活動を続けてきた「大隅半島4市5町復興支援チーム」（会長＝嶋田芳博・鹿屋市長）の支援終了セレモニーが5日、鹿屋市役所で行われた。最終派遣から戻った職員らに花束が贈られ、5か月以上に及ぶ支援活動をねぎらった。



鹿屋市役所で行われた復興支援終了セレモニー

4市5町による支援は、震災後の3月26日から9月1日まで行われ、第27次隊まで計241人の職員が被災地に派遣された。セレモニーには、これまでに派遣された職員ら約200人が出席。嶋田市長が「大きな事故やけが人もなく支援活動を終えることができ良かった。支援活動を通してできた4市5町の連携は大隅半島にとっても大きな財産。今後も被災地の状況などを把握し、支援要請があればすぐに対応できるようにしたい」とあいさつ、職員らの労をねぎらった。

震災直後の3月14日に先遣隊として大船渡市の被災地を訪れ、27次隊として現地で支援終了を見届けた肝

付町の永野秀明・総務課長補佐(49)は「震災や津波に負けず復興に取り組み被災者から逆に勇気をもらった。被災地はまだ多くのがれきが残るなど、傷痕が残っており、今後も違う形で支援を続けていけたら」と語った。支援チームは、震災から1か月後の4月11日、被災地からの要請に即応できる体制をとるため、現地支援本部を設置。6月からは保健師も派遣するなど、被災者のニーズにあった支援活動を続けてきた。野菜や米、肉、魚などの支援物資の提供も計7回に上っている。

平成23年9月11日 南日本新聞

鹿屋総局・福留 梓

記者の目

「ありがとう銀河連邦 大船渡は元気です!」。8月末、肝付町の内之浦漁港であった「内之浦えつがね祭り」オープニングイベントの一角で、のぼり旗がはためいた。旗は東日本大震災の被災地・岩手県大船渡市から、三陸ワカメやサンマ加工品など特産品を販売するため訪れた市職員が感謝の気持ちを込めて持参したものだ。肝付町は震災直後から、宇宙航空研究開発機構の施設がある全国6市町でつくる「銀河連邦」が縁で大船渡市へ職員を派遣。これに大隅半島の8市町も加わり、4市5町の復興支援チームとして給水や物資仕分け、廃車管理、健康相談などを精力的に行った。

黄色いハンカチに思い託す

夏休みには、大船渡市の小中学生が大隅半島を訪問。久しぶりに自然やスポーツを満喫する子どもたちの姿を見て、早く震災から立ち直ってほしいとの思いを強くした。派遣は8月末でいったん終わったが、現地で活動した職員は、被災者からの差し入れや温かい声かけに、逆に勇気をもらったという。「がんばって大船渡」「大隅はひとつ」の合言葉通り、双方の絆は深まったようだ。職員が大船渡市を離れる日には、寝泊まりしていた公民館前に数十枚もの黄色いハンカチがはためいた。大震災からきょうで半年。大船渡と大隅の人たちが、笑顔で再会できる日が早く訪れることを願っている。

ひびりの時代 3.11被災地は今

5



肝付町の保健師能勢佳子さん(43)と福祉活動専門員宇都千津美さん(32)は昨年3月末、派遣された集落の静けさに驚いた。岩手県大船渡市の崎浜地区。ライフラインが途絶えテレビもつかず電話もつながらない音のない世界。山あいに暮らすお年寄りたちは家に閉じ

こもっていた。

「お茶っこさ飲んでいくか」。一軒家を訪ねると、1人暮らしの岩木キヨさん(80)が不安そうな表情で出てきた。同地区は市街地から車で約40分、高齢化率が4割を超える人口約680人の漁村だ。大津波で港周辺の家々は流され10人が犠牲となった。

震災後、避難所などで暮らす比較的目の届きやすいお年寄りに対し、家が残り

た山あいの単身高齢者らの健康状態は把握できていなかった。宇都さんらは、地図を頼りに同地区の一軒一軒を回り健康調査をした。

3年前に夫をしくした岩木さん。震災で直接の被害はなかったものの、犠牲者はすべて顔見知りでシヨックは大きかった。余震が続

き一歩も外に出られない。友人たちも家にこもりきてきた。夜はろうそくの火をともし1週間近くしのいだ。

2人が岩木さんを訪ねた日。能勢さんが「しんどかったですね」と手を握りしめると、岩木さんは思わず涙ぐんだ。能勢さんは「直接的被害はなくても、1人

暮らしの高齢者がこんなに要性を考えさせられた。その後、能勢さんらはつらい思いをしていた。災

鹿児島から支援

親身に寄り添い交流



肝付町の職員と交流を続ける岩木キヨさん。古里の風景は一変した

—1月23日午前、大船渡市崎浜

る。昨年9月には、肝付町の中高生ボランティアが大船渡市を訪問。介護施設や障害児アイサービスなどに加え、岩木さん宅も訪れ、交流の輪を広げた。

「もしも宇都ちゃんです。元気な声が聞けてうれ

しい」。1月末、2人は岩木さんに電話した。能勢さんは「自分の町のおはあちやんのような感覚。寂しくなったらいつでも電話をかけてきてほしい。いっぱい話りたい」と話す。

曾於市大隅支所の東久雄さん(40)は昨年4月末に大船渡市に派遣された。次々と送られてくる支援物資の

仕分けに追われる中、同市で被災しながらボランティアとして働く同市の女性(43)に感銘を受けた。女性は仕事中に被災。自らは無事だったが工場が流失、職を失った。その後「家にいても1人。人と接すれば気持ちもまぎれる」とボランティアに。東さんが活動する小学校体育館で働き被災者を励まし続けた。

7月、工場が再開し女性が復職したことを知った東さんは「よかったですね」と電話で祝福した。「遠く離れた鹿児島から応援してくれるのは励みになる」と女性は喜んだ。東さんは被災地にはいろんな事情の方がある。いつまでも応援し続けたい」との思いを強くしている。

連載へのご意見、ご感想をお寄せください。随時紙面で紹介します。

○ いただいた感謝の手紙

大船渡市長 戸田 公明様から (H23. 8. 3)

謹啓 大隅半島4市5町復興支援チームの皆様におかれましては、この度の東日本大震災発生以来、当市に対して多大なるご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

震災から4ヶ月余りが経過しましたが、皆様からは、多額の義援金のほか、現在までに延べ200名を超える職員派遣を受けており、給水活動、全国から集まる物資集積所の管理、被災車両の管理、保健師による避難所等巡回、災害義援金審査事務など、あらゆる部署においてご活躍いただいております。

また、物資につきましても、米、肉、野菜、果物、緑茶やジュースなど、被災者の健康に配慮した食料品に加え、下着類、毛布、避難所及び遺体安置所への扇風機や冷凍庫及び市内漁業者への水産用カップなど、様々な生活物資を、現地本部の調査によりの確な時期に的確な量をご提供いただいております。

さらに、貴チームの発案による「がんばっぺ！大船渡Tシャツ」を作製いただくなど、心細やかな温かいご配慮には感謝の言葉もございません。

当市におきましては、皆様方の温かいご支援を受け、少しずつではありますが、着実に復興への道を歩み始め、お陰様をもちまして、この7月末で全ての避難者に対応できる戸数の仮設住宅が完成し、入所する運びであります。

本来の大船渡市の姿を取り戻すまでには、まだまだ長い年月が必要となりますが、それには当市の力だけでは到底及ばず、大隅半島4市5町復興支援チームの皆様を始め、全国からのご支援が必要不可欠であると強く認識しております。どうか、今後とも当市への変わらぬご支援、ご厚情をよろしく願いいたします。

結びに、この度のご厚情に重ねて感謝を申し上げますとともに、皆様のさらなるご発展、ご健勝を心よりお祈り申し上げます、お礼のごあいさつとさせていただきます。 敬白

岩手県知事 達増 拓也様からの手紙 (H24. 1. 17)

この度の東日本大震災津波に際しまして、復旧対応などに多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

未曾有の大災害という厳しい状況の中で、被災地の住民のためにご尽力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

県といたしましては、皆様の力強いご支援に応え、安全に暮らし、働くことができる地域社会を目指し、震災後の復興に向け、全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに、この度のご厚情に対しまして、略儀ながら書中をもってお礼申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

大船渡市赤崎地区漁村センター避難所 調理担当 田中 民子さんからの手紙 (H23. 6. 10)

鹿児島の大隅半島の方々がお炊事場を訪れ、「食事の現状は？ 何が不足していますか？ 何を食べたいですか？ 体の調子はいかがですか？……」こまごまと質問をされました。

当時は偏りはしているものの、ようやく安定した食事がとれるようになり、そのことへの感謝の気持ちがいっぱい、何が食べたいなどは、とてもぜいたくなような気がして言えませんでしたし、正直、満足しかけていました。「でも、空腹を満たすだけではよい食事とは言えませんよ。長い避難所生活では多くの肉、野菜を食べなければ元気な体や心を保つことはできません。私たちの町では友好都市である大船渡へおいしい野菜や鹿児島のお肉を送ります。」と力強く約束してくださいました。そしてどのような送り方をすればいいか、冷蔵庫もない状況ですぐに調理し、食卓に出すことができるかの配慮までして帰られました。(当時は百数十人の食事準備に対して調理室に冷蔵庫が一つしかなく、その日の傷みややすい食材を入れるのが精一杯でした。)

それから、しばらくして届いた多くの野菜、そしてスライスされたピンク色のたくさんの肉……。みんなで大喜びでした。肉らしい肉を見るのは本当に久しぶりのことで、もちろん、その晩にさっそく食卓に上りました。「今夜のおかずはお肉だよ。鹿児島の大隅半島の！」至る所でそんな会話が始まりました。しかも1回でもありがたいのに、ちょうどいい間隔で「また送られてきたよ。ありがたいね。」みんなで心待ちするようになりました。

調理室では「感謝の気持ちをどのように伝えたらいいんだろうね。私たちも他の地域や他の人たちが困っているときに自分たちのことのように親身になって心配し、行動に移せる人になれるだろうか？まずは私たち自身・家族・地域、そして大船渡市が元気にならなければね。」と。

応援してくれている鹿児島大隅半島や全国の皆様に前向きに一步踏み出せる心と体を届けていただき、感謝、感謝、感謝です。本当にありがとうございました。

上山町内会長 竹野 生節様から(H23. 5. 20)

皆様いかがお過ごしでしょうか。ゴールデンウィークも終わり、周りには草花が咲き、毎年のように変わらぬ春のような気がします。でも一步自宅から国道を南下すると、あたりが一変し、道路の両側が津波のがれきが山積みとなっていて、津波の破壊力のものすごさを感じ、いまだに身震いがしてきます。

肝付町の方々には遠路はるばる給水活動に来ていただき、おかげさまで地域みんなの命の水を十分に運んでいただき、本当に感謝に堪えませんでした。現在は大船渡地区のほとんどの水道が復旧し、電気に続き、電話、インターネットもつい1週間前に回復したところでは。

今回の災害で蛇口を回せば水が出てくる普通の生活がなくなって、水のありがたさを身にしみて感じました。給水活動を始めていただいた頃の3月はまだ寒く、朝は氷点下5度、給水バルブが凍るような天候の中、朝から夕方遅くまで活動いただきました。特に鹿児島を出るときは、普通タイヤで出発し、途中の雪でラジアルタイヤに交換しての大変な慣れない運転にもかかわらず、この大船渡に来ていただいた、このご恩をどのようにしたら返せるのかなあと近所含めて話し合っております。まず、「恩返しは復興から」を旗印に一步一步、地域一丸となって進むことと思います。仮設住宅も何棟か完成し、避難所からの移動も始まっております。がれきの山も毎日少しずつですが、撤去され、一面の更地になっていく姿もまた、異様な静けさを感じさせております。この更地が再開発され、また、にぎわいが聞かれる町並みになることを期待しながら見届けようと思っております。

皆様におかれましても、普段の生活に戻られたことと思いますが、健康に留意され、ご多幸をお祈りいたします。

被災地のみんなに代わって、津波の被災地、北国の大船渡に遠路来ていただいたことに感動し、感激し、感謝いたします。ありがとうございました。このご恩は一生忘れることはできません。今後は夢でもいいので楽しいことでお会いしたいですね。

赤崎地区公民館長 吉田 忠雄様から(H23. 9. 1)

初秋を感じる今日この頃ですが、皆様にはお変わりございませんでしょうか。

さて、3月11日の東日本大震災復興に際しましては、いち早く物心両面の多大なご支援を賜り、誠にありがとうございました。お陰様で赤崎地区は平穏を取り戻し、被災者もみな無事に希望する仮設住宅へ入居いたしました。これもひとえに皆様のご支援があればこそと心より感謝申し上げます。

現在、千年に一度の大災害を経験した組織として、何を学び、何を将来に引き継いでいくべきかを整理しているところでございます。

これからは、夢のある街づくりに努力し、皆様に復興した赤崎地区の姿を見ていただけるように精一杯頑張っておりますので、どうか今後とも赤崎地区を暖かく見守ってくださるようお願い申し上げます、略儀ではございますが、お礼のごあいさつとさせていただきます。

肝付町のみなさん、この度は私たちのために青少年交流会を開いてくださってありがとうございました。今回の肝付町との交流会で、私たちはたくさんの思い出ができました。

初日の内之浦ロケット祭りでは大勢の人が私たちのことを歓迎してくださいました。一番驚いたのは、ほとんどの人が「がんばっぺ、大船渡」と書かれたTシャツを着ていたことです。私たちの知らない所で、たくさんの方が応援してくださっていたことがとてもうれしかったです。稲刈り体験の時は、肝付町の中学生の人たちと一緒に作業することができ、小学校の時に銀河連邦の旅行で知り合った友達と再会することもできました。ホームステイでは本当の家族のように私たちを受け入れてくださいました。ほかにも水ロケット作りや宇宙空間観測所の見学、郷土めぐりや天体観測など3泊4日でとても貴重な体験をさせていただきました。

この交流会を通して私たちはいろいろなことを学び、たくさんの人と出会い、最高の思い出を作ることができました。これからも肝付町のみなさんとの交流を続けていけたらいいなあと思います。大船渡が復興したら、今度は私たちが招待したいと思います。肝付町のみなさん、本当にありがとうございました。

大船渡市立第一中学校 2年 高橋 莉子

肝付町のみなさま、お元気ですか。

大船渡は、この頃また暑くなり始め、毎日蒸し暑い日が続いています。

先日の3泊4日の肝付町への旅は私にとって、とても大切な思い出になりました。1日目のお祭りでの歓迎会では、町民のみなさまに暖かい拍手で迎え入れていただいたので、それまでにあった不安や戸惑いが一気になくなり、「どんな3日間になるのかな」と楽しみな気持ちになりました。

肝付町は、大船渡と比べものにならないくらい暑くてびっくりしました。でも、田園風景や海がとってもきれいで感動しました。私が住んでいる大船渡市大船渡町は、平地が少ないので、肝付町のような緑に輝くきれいな山、金色の田んぼを見ることができてうれしかったです。

肝付町のみなさんは本当に心優しい人ばかりで、短い間でしたが、たくさんの人と接したり、友達になれたりしました。会ったばかりの人たちなのに、今までずっと友達だったような気がしてなりません。岩手と鹿児島は遠いので、「もう会えないのかも…」とっていまい、大船渡に帰りたくなかったです。町長さんをはじめ、肝付町のみなさんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回のこの旅のことだけでなく、震災後にたくさんの方の支援をいただきました。本当にありがとうございます。私たちはたくさんの方々に支えられて生きているんだと改めて感じることができました。私たちもこれから故郷の復興のためにどんなことでも一生懸命に取り組んでいきます。みなさんにさせていただいたことと比べると小さいことかもしれませんが、そんな小さなことでも心を込めて取り組んでいきたいです。

肝付町のみなさんの心の温かさや優しさ、たくさんの方が私たちを支えてくれているということを忘れません。この3泊4日で体験したこと、感じたこと、人とのつながりを一生の宝物にしたいと思います。

大船渡市立大船渡中学校 3年 久保田 美空

このたびは「鹿児島県肝付町の人々との交流授業」に参加できる20名に選ばれたときは、本当に幸せでたまりませんでした。この3月11日に起こった東日本大震災で町、学校、家、友達、家族を失った人々がいました。その光景は今もまだ残っています。私たちはこの震災に負けぬよう町の人々と協力してきました。そこで、肝付町のみなさんが大船渡市の中学生と地元の中学生の交流をするという企画を立ててくださった行事を3泊4日で体験するというこ

とをとても楽しみにしていました。自分たちが体験したことのないブドウ狩り、水ロケットを初めてやらせてもらいました。私たちにとってこの3泊4日は20名が協力し、助け合いながらこれから頑張っていきたいという、優しい授業だと思っています。この交流で出会った人々のことは絶対に忘れないでしょう。私を含め、20名のみんなはいやなことを忘れられたのではないのでしょうか。本当にありがとうございました。いつかまた肝付町に行ける日があったら必ず寄りたいと思います。

私たちはホームステイするお宅がどのような方かとても楽しみにしていました。そしたらとても親切で、笑顔で話しかけてくれました。それを見てたら涙が出てきそうでした。うれしかったのに緊張してあんまり話ができない私たち3人に「だいじょうぶ」って言われた時に、元気で笑顔が出てきました。次の日の朝、お別れするときにはとても寂しかったです。でもお手紙を交換しあえば、心はつながっていると思っています。とても短い間でしたが、肝付町の人々と仲良くできたのでうれしかったです。

今度、大船渡市に来られるのであれば、快くおもてなしします。その時は快くお待ちしています。まだ復興にはなかなかかかりそうですが、私たちはできることを頑張っていきます。

大船渡市立綾里中学校 1年 千田 あやか

この度は、肝付町に私たちを招いていただき、本当にありがとうございました。大船渡から本当に遠く離れた肝付に訪れることができ、とてもいい思い出になりました。また、そんなことがあったことが夢のようです。

まず7月30日のロケット祭りですが、町民のみなさんや地元の中学生のみなさんが温かく迎え入れてくださり、本当にうれしかったです。お祭りも心から楽しませていただきました。

7月31日の稲刈りでは、本当に暑い中でも私たちに楽しんでもらおうと、地元の中学生のみなさんが一生懸命頑張ってくださったのが、よくわかりました。東北では、こんな暑い時期の稲刈りはあり得ないことなので、とてもいい経験をさせていただきました。ロケット作りでは、みんなで作って、みんなで飛ばして、今回の旅で一番を争うぐらいの楽しさでした。ホームステイでは、小6の時の銀河連邦で知り合った友達と再会することもでき、忘れられない一晩になりました。ご家族の方にも快く迎えていただき、もっと長い時間いられたらいいのに…と思いました。いつかまた、会えたらいいなと思います。

8月1日、内之浦宇宙空間観測所の見学では「はやぶさ」のこと、ロケットの打ち上げのことなど、いろんなことを教えていただきましたし、今まで見たことのない施設などを見学させていただき、貴重な経験をさせていただきました。その後の郷土めぐりでも、実際に前方後円墳の上に立ってみたり、大きな楠の木を見に行ったり、歴史に触れることができ、初めての体験をすることができました。そのほかにも宿泊施設の方々や昼食のおにぎりを作ってくださった方々、町長さんや町の職員のみなさまのおかげで、楽しく一生の思い出に残る3泊4日の旅をすることができました。

この3泊4日の旅を通して、大船渡の仲間ともすごく仲良くなることができたし、初めての九州の旅でたくさんの方々の温かいお気持ちを感じることができました。3月11日の震災で、私はたくさんものを失いましたが、今回の旅では、つらいこと、苦しいことを忘れて楽しむことができました。それも今回の旅に携わってくださった、たくさんの方々のおかげだと思っています。いつかまた、肝付町に行きたいと思っています。本当にありがとうございました。

大船渡市立赤崎中学校 3年 千葉 美乃里